

第 3 章 資料集

3.1 高岡短期大学前期の年表

創設から開学まで

昭和39年	5.13 富山大学工学部教授会並びに昭和41年5月6日の富山大学評議会で、富山大学工学部を高岡市から五福地区へ移転することが決議される。
昭和52年度中	富山県及び高岡市が「高岡地域大学設置協議会」を設置し、富山大学工学部の富山市五福地区移転決議に伴う代替施設として、国立の高等教育機関を誘致する方向で検討が進められ、昭和52年12月に「高岡地域大学設置に関する陳情」が文部省に提出される。
昭和53年	1. 富山県及び高岡市が「富山県高等教育整備懇談会」を設置し、代替施設としての国立高等教育機関の具体的内容について検討が進められる。(同懇談会は、昭和54年2月に一応の結論をまとめ、地元としての要望を明らかにする。) / 3.23 「国立高岡産業短期大学設立に関する陳述書(富山県・高岡市)」が文部省に提出される。
昭和54年	1.1 昭和54年度予算案で「短期高等教育機関(高岡)設置調査経費」1,542千円が認められ、文部省において短期大学の設置調査についての具体的な検討が開始される。 / 4.17 「国立高岡産業短期大学設立に関する陳述書(富山県・高岡市)」が文部省に提出される。短期高等教育機関設置(高岡市)に関する調査研究について(事務次官裁定)が制定される。 / 5.12 文部省の第1回「短期高等教育機関設置(高岡市)に関する調査会」において、地元側代表の参加を得て、短期高等教育機関設置(高岡市)の構想について検討が進められ、同年9月19日開催の第5回同調査会で一応の合意に達する。 / 12.29 昭和55年度予算案で「短期高等教育機関(高岡)創設準備調査会」5,922千円(創設準備調査要員 教授1)が認められる。
昭和55年	1.19 高岡市二上地区自治会は、富山県に対し同地区に小矢部川流域下水道を誘致することを条件付きで了解する。(その条件の一つに、同地区に短期大学を設置するという条項が盛り込まれる。) / 4.3 「短期高等教育機関(高岡)創設準備調査室設置規則」が制定される。 / 5.23 「富山大学短期高等教育機関(高岡)創設準備調査室」が設置され、同室長に富山大学長柳田友道が併任発令される。 / 6.1 「短期高等教育機関(高岡市)の創設準備調査室の実施について」(事務次官裁定)が制定される。 / 6.23 文部省の第1回「短期高等教育機関(高岡市)に関する創設準備調査会」において、地元側代表の参加を得て、短期高等教育機関(高岡市)の創設の構想について検討が進められ、昭和55年11月6日の第2回同調査会で伝統的工芸関係分野の教育課程について、昭和56年3月28日の第3回同調査会で実務関係分野の教育課程について了承される。 / 8.28 富山大学において、短大創設準備のための伝統工芸に関する教育課程等検討協力者会議が開催され、伝統工芸に係る教育課程等の試案がまとめられる。(～8.29) / 12.19 富山大学評議会は、全会一致で工学部の五福地区移転と短大設置の促進について全学的協力体制で臨むことを確認し、富山大学長ほかが県副知事に移転統合の協力について要請する。 / 12.29 昭和56年度予算案で「短期高等教育機関(高岡)創設準備費」6,234千円(創設準備要員 教授)が認められる。
昭和56年	4.1 富山大学に「短期高等教育機関(高岡)創設準備室」が設置され、同室長に富山大学長柳田友道が併任発令される。 / 4.17 「富山大学短期高等教育機関(高岡)創設準備調査室」及び「富山大学短期高等教育(高岡)創設準備委員会規則」が制定される。 / 5. 富山県及び高岡市関係者が文部省において、二上地区に短期大学を設置するよう陳情し同地区の状況を説明する。 / 11.30 文部省大学局技術教育課長 佐藤次郎ほか係官3名が、高岡市二上地区及び富山大学工学部を査察する。(～12.1) / 12.18 「短期高等教育機関(高岡市)の創設準備の実施について」(事務次官裁定)が制定される。 / 12.28 昭和57年度予算案で「短期高等教育機関(高岡)創設準備費」10,800千円(創設準備要員 教授2)が認められる。 / 12.30 二上地区地権者が富山県に対し、小矢部川流域下水道及び短期大学用地を譲渡することに同意し、この後個別の契約に入る。
昭和57年	2.9 文部省の昭和56年度第1回「短期高等教育機関(高岡市)に関する創設準備会議」が開催される。 / 3.2 高岡産業短期大学(仮称)の教育課程等に関する会議が開催される。 / 3.5 第1回「富山大学短期高等教育機関(高岡)創設準備委員会」が開催される。(以後、3回開催される。) / 4.1 「短期高等教育機関(高岡)等の創設準備等組織要綱」(文部大臣裁定)が制定される。 / 5.1 富山大学短期高等教育機関(高岡)創設準備室助教授に麻生三郎(最初の専任教員)が発令される。 / 5.6 「短期高等教育機関(高岡市)の創設準備の実施について」(事務次官裁定)が制定される。 / 8. 国立大学統合整備等連絡協議会で、短期高等教育機関(高岡)を高岡市二上地区に設置することが設定される。 / 8.31 文部省の昭和57年度第1回「短期高等教育機関(高岡市)に関する創設準備会議」で「短期大学(高岡)の基本構想」が了承される。〔3学科6専攻2コース、入学定員225人〕 / 12.30 昭和58年度予算案で「高岡短期大学(仮称)」が認められる。「短期高等教育機関(高岡)創設準備費(創設要員 教授2、事務官2)」及び「開学経費(学長1、産業工芸学科(金属工芸専攻) 教授1、事務官2)」の26,994千円
昭和58年	2.14 文部省の第2回「短期高等教育機関(高岡市)に関する創設準備会議」で「高岡短期大学(仮称)の基本構想」の一部修正が了承される。〔2学科7専攻2コース、入学定員200人〕 / 3.31 「国立大学設置法の一部を改正する法律」(昭和58年法律第14号)が公布され、昭和58年10月1日に高岡短期大学を設置し、昭和61年4月から学生を受け入れることが決定される。 / 4.1 「高岡短期大学等の創設準備等組織要綱」(文部大臣裁定)が制定される。 / 富山大学高岡短期大学創設準備室長に富山大学長柳田友道が併任発令される。 / 文部省内に「富山大学高岡短期大学創設準備室東京連絡所」を設置する。 / 4.2 第1回「富山大学高岡短期大学創設準備委員会」が開催される。(以後、6回開催される。) / 4.15 「富山大学高岡短期

	大学創設準備委員会規則」及び「富山大学高岡短期大学創設準備室規則」が制定される。／8.1 富山大学高岡短期大学創設準備室長に大阪大学教授 横山 保が併任発令され、富山大学長柳田友道の併任が解除される。／8.31 財団法人高岡短期大学協力が設立される。
--	---

開学から学生受入れまで

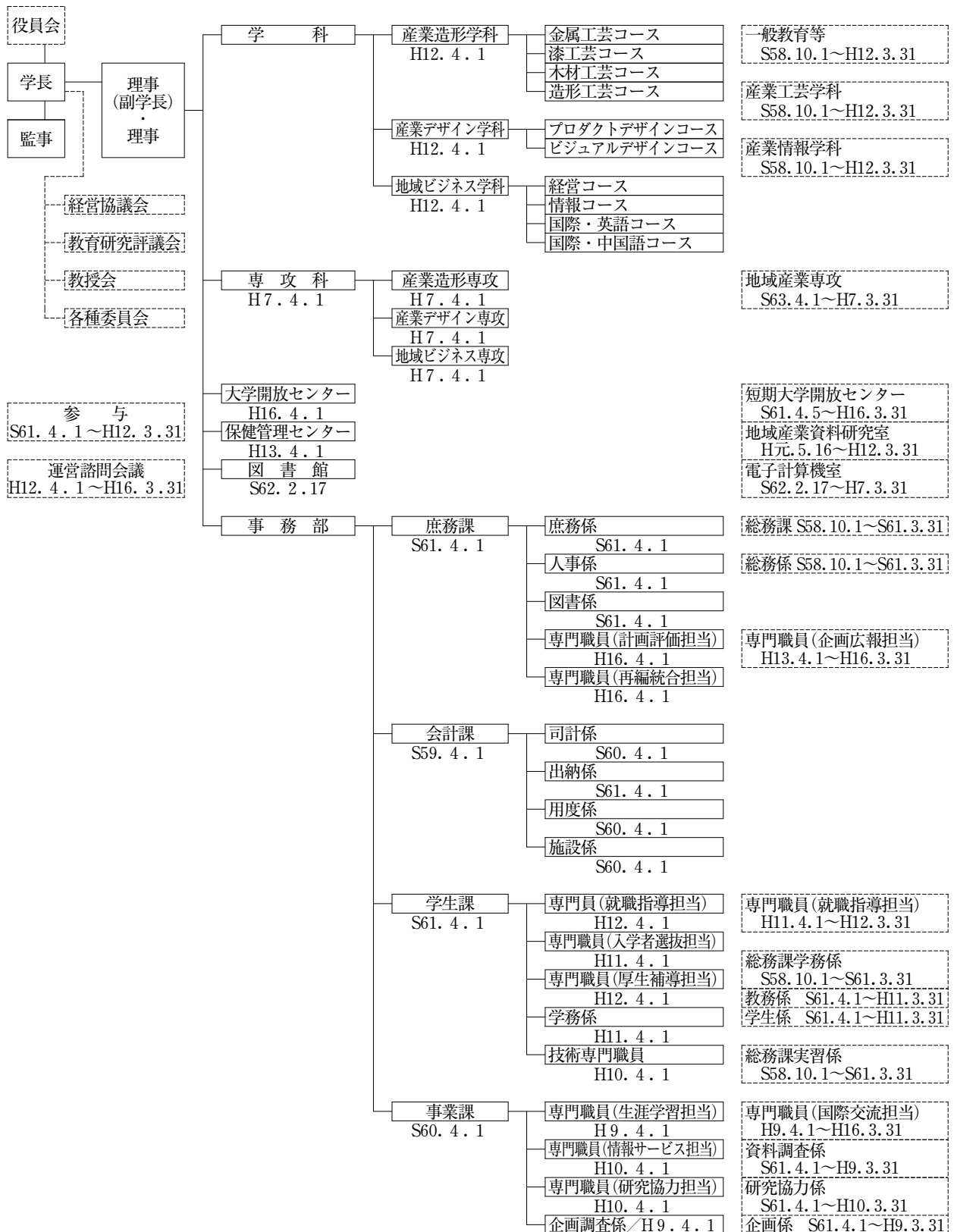
昭和58年10月1日	10.1 高岡短期大学(所在地 富山市五福(富山大学構内))が開学する。／学長に横山 保(大阪大学教授)が発令される。／10.3 開学祝賀会を東海大学校友会館(霞ヶ関ビル)で開催し、文部大臣をはじめ文部省関係者多数が出席する。／10.6 開学記念祝賀会を高岡商工ビルで富山県、高岡市及び本学が主催し、文部省大学局斉藤審議官をはじめ中沖豊富山県知事、堀健治高岡市長、県選出国會議員等多数が出席する。
昭和59年1月25日	1.25 昭和59年度予算案で副学長1、産業情報学科教授1、事務官2、の整備が認められる。／5.8 高岡市役所において、「高岡短期大学に対する地域社会の要望等に関する懇談会」を開催する。／6.13 高岡市高等教育機関対策特別委員会において、本学の基本構想等を説明する。／7.1 副学長に徳平滋(公立学校共済組合理事)が発令される。／8.27 富山大学において、「高岡短期大学と地域社会との連携に関する懇談会」を開催する。／8. 建物等の基本設計が完成する。／9.7 大学設置審議会大会設置分科会常任委員会で、本学の教育課程、基本構想当りが了承される。／12.12 建設地ボーリング工事が実施される。(～60.1.21)／12.29 昭和60年度予算案で産業工芸学科教授2、産業情報学科教授2、一般教育科目等教授1、事務官7、の整備が認められる。
昭和60年	3.20 高岡短期大学を富山大学工学部構内(高岡市中川園町)へ移転する。／4.11 高岡短期大学新営工事安全祈願祭が行われる。／5.7 富山県高等学校長会で本学の概要を説明する。／5.15 高岡市役所において、県下西部地区高校進路指導教諭と「入学者選抜方法等に関する懇談会」を行う。／5.23 富山県教育記念館において、県下東部地区高校進路指導教諭と「入学者選抜方法等に関する懇談会」を行う。／6.27 富山県高等学校長協会と懇談する。／7.18 地元の経済、教育関係者を招いて「開放事業に関する懇談会」を行う。／7.31 文部大臣あてに高岡短期大学設置計画書を提出する。／9.26 大学設置審議会の実地調査が行われる。／12.18 大学設置審議会総会(全体会議)で、高岡短期大学の設置計画が最終答申の中で提出される。／12.28 昭和61年度予算案で産業工芸学科教授5、助教授4、産業情報学科教授5、助教授4、一般教育科目等教授4、開放センター教授1、事務官11の整備が認められる。
昭和61年	1.7 高岡短期大学新営第一期工事(講義・管理棟、研究棟、講義演習棟、実験実習棟、エネルギー棟)が竣工する。／2.23 昭和61年度入学者選抜試験(一般試験)の学力検査を高岡市立志貴野中学校で実施する。(最初の学生受入れに伴う入学試験)／2.24 同試験の実技検査を富山大学工学部構内(高岡市中川園町)で実施する。／2.28 「高岡短期大学学則」を制定する。／3.2 昭和61年度入学者選抜試験合格者を大学建設地の高岡市二上町で発表する。／3.6 後者が竣工したことに伴い、高岡短期大学を高岡市二上町に移転する。／3.31 副学長 徳平 滋が退任する。

学生受入れから平成5年度まで(前期)

昭和61年	4.1 文部省高等教育局長から、高岡短期大学の設置計画について大学設置審議会において特段の意見がなかった旨の通知がある。／4.16 副学長に島田 治(国立科学博物館次長)が発令される。／5.31 開学記念式典・祝賀会を開催する。／6.28 高岡古城ライオンズクラブから「たぶの木」の寄贈を受ける。／11.30 高岡青銅会から、モニュメント「すばる」の寄贈を受ける。／12.30 昭和62年度予算案で産業工芸学科教授4、助教授4、助手4、産業情報学科教授2、助教授4、助手4、一般教育科目等助手1、事務官10の整備が認められる。
昭和62年	3.10 高岡短期大学校友会が設立される。／6.4 大学設置審議会の実地調査が行われる。／12.28 昭和63年度予算案で事務官9の整備が認められる。
昭和63年	1.18 学科主任の名称を学科長に改める。／2.16 校章を決定する。／3.18 校旗を作成し、その掲揚式を行う。／3.19 昭和62年度卒業証書授与式(第1回)を挙げる。／6.17 施設完工式を挙げる。
平成1年	3.20 昭和63年度卒業証書授与式並びに専攻科地域産業専攻修了証書授与式(第1回)を挙げる。／4.1 学科長会議の名称を総務会に変更する。／11.1 副学長 島田 治が退任する。／12.1 副学長に戸田成一(広島大学事務局長)が発令される。
平成2年	3.1 産業情報学科情報処理専攻を対象に、文部省短期大学視学委員に実地調査が実施される。／3.20 平成元年度卒業証書授与式並びに専攻科地域産業専攻修了証書授与式を挙げる。／5.1 「研究交流等のための研究者紹介」(創刊)を発行する。
平成3年	3.20 平成2年度卒業証書授与式並びに専攻科地域産業専攻修了証書授与式を挙げる。／12.17 初の学長選挙を施行し、次期学長に大阪大学教授宮本匡章を選出する。／12.18 財団法人高岡短期大学協力が寄贈の本学名誉教授須賀正佐制作のモニュメント「玄黄」が完成し、その除幕式を挙げる。
平成4年	3.19 平成3年度卒業証書授与式並びに専攻科地域産業専攻修了証書授与式を挙げる。／3.31 学長 横山 保が任期満了により退任する。／4.1 学長に宮本匡章(大阪大学教授)が発令される。(第2代学長)／4.29 前学長 横山 保氏が勲二等瑞宝章を受章する。
平成5年	1.28 「高岡短期大学における自己点検・評価のあり方(最終まとめ)」をまとめる。／3.19 平成4年度卒業証書授与式並びに専攻科地域産業専攻修了証書授与式を挙げる。／3.31 副学長戸田成一が退任する。／4.1 副学長に大谷利治(岡山大学事務局長)が発令される。／8.3 前学長 横山 保氏から横山賞創設の寄附金が贈呈される。

3.2 庶務課

3.2.1 組織・機構



3.2.2 委員会

3.2.2.1 委員会等の名称及び設置年月日

委員会等の名称	設置年月日
役員会	H16. 4. 1
経営協議会	H16. 4. 1
教育研究評議会	H16. 4. 1
教授会	S61. 4. 1
計画評価委員会	H16. 4. 1
情報・広報委員会	H16. 4. 1
学科会議	H12. 4. 1
安全衛生委員会	H16. 4. 1
学長選考会議	H16. 4. 1
教務委員会	S61. 9. 16
入学試験委員会	S60. 4. 1
進路委員会	H14. 4. 1
学生生活委員会	S61. 4. 1
大学開放センター運営委員会	H16. 4. 1
保健管理センター運営委員会	H13. 4. 1
芸術文化学部設置準備委員会	H15. 6. 5
記念誌編纂委員会	H15. 9. 11

3.2.2.2 主な旧委員会等の名称及び廃止年月日

委員会等の名称	設置年月日	廃止年月日
運営委員会	S58. 10. 1	S61. 4. 1
運営委員会管理運営専門委員会	S58. 10. 1	S61. 4. 1
運営委員会教育課程専門委員会	S58. 10. 1	S61. 4. 1
運営委員会施設・設備専門委員会	S58. 10. 1	S61. 4. 1
運営委員会人事専門委員会	S58. 10. 1	S61. 4. 1
運営会議	H12. 4. 1	H16. 3. 31
運営諮問会議	H12. 4. 1	H16. 3. 31
紀要編集委員会	H 1. 4. 1	H12. 3. 31
広報委員会	H 6. 4. 1	H12. 3. 31
参与会	S61. 4. 1	H12. 3. 31
自己評価委員会	H 4. 5. 14	H12. 3. 31
事務情報化委員会	H12. 3. 1	H17. 9. 30
事務電算化委員会	S61. 12. 12	H12. 3. 1
事務電算化委員会専門部会	S61. 12. 12	H12. 3. 1
就職委員会	S62. 2. 17	H14. 3. 31
情報委員会	H12. 4. 1	H16. 3. 31
情報ネットワーク委員会	H 9. 4. 1	H12. 3. 31
将来構想検討委員会	S63. 9. 20	H12. 3. 31
専攻科運営委員会	H 7. 4. 1	H12. 3. 31
専攻科地域産業専攻運営委員会	S63. 4. 1	H 7. 3. 9
総務会	H 1. 4. 1	H12. 3. 31
短期大学開放センター運営委員会	S61. 4. 5	H16. 3. 31
短期大学研究会	S62. 9. 24	H12. 3. 31
地域産業資料研究室	H 1. 5. 16	H12. 3. 31
地域産業専攻科運営準備委員会	S63. 1. 14	S61. 3. 31
電子計算機室運営委員会	S62. 4. 1	H 7. 3. 9
図書館委員会	S62. 4. 1	H12. 3. 31
入学者選抜方法改善研究会	S62. 9. 25	H12. 3. 31
施設設備委員会	H 6. 4. 1	H 9. 3. 31

3.2.3 歴代役職員および教職員(平成17年1月1日現在)

3.2.3.1 歴代役職員

学長

初代 横山 保	58.10.1~4.3.31(58.8.1~58.9.30 創設準備室長)	(代) 水島和夫	15.5.26~15.6.19
2代目 宮本匡章	4.4.1~10.3.31		
3代目 蠟山昌一	10.4.1~15.6.19	4代目 西頭徳三	15.11.1~17.9.30
	(H15.6.19~H15.10.31は水島副学 長が学長事務取扱い)		

※平成16年4月から「高岡短期大学」は「国立大学法人高岡短期大学」となる。

西頭徳三 16.4.1~

副学長

初代 徳平 滋	59.7.1~61.3.31	5代目 高橋一之	7.5.1~9.12.31
2代目 島田 治	61.4.16~元.11.1	6代目 行田 博	10.1.1~13.3.31
3代目 戸田成一	元.12.1~5.3.31	7代目 水島和夫	13.4.1~16.3.31 16.4.1~17.9.30
4代目 大谷利治	5.4.1~7.4.30	滝沢 浩	16.4.1~17.9.30

※平成16年4月から「高岡短期大学」は「国立大学法人高岡短期大学」となり、「副学長」は「理事・副学長」となる。

理事・副学長

水島和夫 16.4.1~ (総務担当) 滝沢 浩 16.4.1~ (財務担当)

名誉教授

【退職・退任時の役職又は所属】

島田 治	2.1.16	副学長	高橋一之	10.1.1	副学長
須賀正佐	3.4.16	産業工芸学科金属工芸専攻	宮本匡章	10.4.1	学長
中川 宏	3.4.16	産業工芸学科木材工芸専攻	小関利紀也	10.4.1	産業工芸学科産業デザイン
横山 保	4.5.14	学長	林 暢夫	12.4.1	産業情報学科ビジネス外語
城村良一	4.5.14	一般教育科目	行田 博	13.4.1	副学長
阿部 統	4.5.14	一般教育科目	黒岩靖司	13.4.1	産業デザイン学科
後藤義雄	4.5.14	産業工芸学科漆工芸専攻	木村幸信	13.4.1	地域ビジネス学科
澤本正巳	4.5.14	産業情報学科経営実務専攻	倉田久敬	14.4.1	産業造形学科
戸田成一	5.5.13	副学長	中野清治	14.4.1	地域ビジネス学科
麻生三郎	7.5.11	産業工芸学科金属工芸専攻	蛭川 彰	15.4.1	産業造形学科
大谷利治	7.5.11	副学長	谷口義人	16.4.1	産業造形学科
尾崎秀男	8.4.1	一般教育科目等保健体育科目	根本曠子	16.4.1	産業造形学科
石井榮一	8.4.1	産業情報学科経営実務専攻	林 哲三	16.4.1	産業造形学科
久保脩治	9.4.1	一般教育科目			

学長補佐

野瀬正照	15.4.1~16.3.31、 16.4.1~	(富山県内3大学再編 ・統合担当)	小堀孝之	16.10.1~	(教育GP担当)
秦 正徳	15.4.1~16.3.31、 16.4.1~	(富山県内3大学再編 ・統合担当)	前田一樹	16.10.1~	(新学部広報担当)
佐藤孝紀	15.4.1~16.3.31、 16.4.1~	(北陸地区国立大学連合 協議会等担当)			

教育研究評議会委員

堀江秀夫	16.4.1~		林 暁	16.4.1~	
森田 力	16.4.1~		前田一樹	16.4.1~	
近藤 潔	16.4.1~		吉田俊六	16.4.1~	
佐藤孝紀	16.4.1~		磯部祐子	16.4.1~	
立浪 勝	16.4.1~		宮崎雅司	16.4.1~	
野瀬正照	16.4.1~		三船温尚	16.11.1~	
秦 正徳	16.4.1~		安達博文	16.11.1~	
小堀孝之	16.4.1~				

経営協議会委員

【就任時の役職】

大永尚武	16.4.1~	富山県副知事	木村光佑	16.4.1~	前京都工芸繊維大学長
佐藤孝志	16.4.1~ 16.5.24	高岡市長	末坂幸子	16.4.1~	高岡市デザイン・工芸 センター所長
南 義弘	16.4.1~	高岡商工会議所会頭	橘 慶一郎	16.7.1~	高岡市長
楠 顕秀	16.4.1~	高岡市生涯学習センター所長			

学長選考会議委員

水島和夫	16.4.1~		大永尚武	16.4.1~	
堀江秀夫	16.4.1~		佐藤孝志	16.4.1~16.5.24	
森田 力	16.4.1~		南 義弘	16.4.1~	
近藤 潔	16.4.1~		楠 顕秀	16.4.1~	
佐藤孝紀	16.4.1~		木村光佑	16.4.1~	
野瀬正照	16.4.1~		末坂幸子	16.4.1~	
秦 正徳	16.4.1~		橘 慶一郎	16.7.1~	

参与

【就任時の役職】

大井信一	61.9.1~ 4.10.31	富山大学長	川上哲郎	2.2.1~ 10.10.31	関西経済連合会副会長
中沖 豊	61.9.1~ 12.3.31	富山県知事	佐藤孝志	2.2.1~ 12.3.31	高岡市長
原谷敬吾	61.9.1~ 10.10.31	北陸経済連合会会長	島田 治	2.2.1~ 4.1.31	国立劇場理事
堀 健治	61.9.1~ 63.8.31	高岡市長	小黑千足	4.11.1~ 10.10.31	富山大学長
竹平政太郎	61.9.1~ 2.8.31	高岡商工会議所会頭	南 義弘	4.11.1~ 12.3.31	高岡商工会議所会頭
大西正文	10.11.1~ 12.3.31	大阪ガス(株)相談役	時澤 貢	10.11.1~ 12.3.31	富山大学長
山田圭蔵	10.11.1~ 12.3.31	北陸電力(株)会長			

※国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令により、平成12年3月31日をもって廃止となる。

運営諮問会議委員

【就任時の役職】

飯田宗映	12. 4. 1～ 16. 3. 31	富山県民生涯カレッジ学長	大永尚武	12. 4. 1～ 16. 3. 31	富山県副知事
大西正文	12. 4. 1～ 16. 3. 31	大阪ガス(株)相談役	時澤 貢	12. 4. 1～ 14. 3. 31	富山大学長
佐藤孝志	12. 4. 1～ 16. 3. 31	高岡市長	小松暁一	14. 4. 1～ 16. 3. 31	金沢卯辰山工芸工房館長
中川敏之	12. 4. 1～ 16. 3. 31	富山ガラス造形研究所所長	末坂幸子	12. 4. 1～ 16. 3. 31	高岡市デザイン・工芸センター所長、現 高岡市民文化振興事業団美術館副館長
中田善廣	12. 4. 1～ 14. 3. 31	富山県高等学校長協会会長	南 義弘	12. 4. 1～ 16. 3. 31	高岡商工会議所会頭
吉川 實	14. 4. 1～ 16. 3. 31	富山県高等学校長協会副会長			

※国立大学法人法等の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律の施行に伴う国立学校設置法の廃止により、平成16年3月31日をもって廃止となる。

3.2.3.2 歴任教員

一般教育科目

教授	城村良一	61. 7. 1～4. 3. 31	助教授	秦 正徳	10. 1. 1～11. 3. 31
教授	阿部 統	62. 4. 1～4. 3. 31	助教授	安達博文	6. 3. 1～12. 3. 31
教授	久保脩治	3. 4. 1～9. 3. 31	助教授	野瀬正照	6. 4. 1～12. 3. 31
教授	秦 正徳	11. 4. 1～12. 3. 31	講 師	伊東多佳子	9. 3. 1～12. 3. 31

外国語科目

教授	林 暢夫	61. 4. 1～3. 3. 31	講師	入江識元	8. 10. 1～9. 3. 31
助教授	小林和子	9. 4. 1～12. 3. 31	助手	入江識元	6. 11. 1～8. 9. 30

保健体育科目

教授	尾崎秀男	61. 4. 1～8. 3. 31	助手	加藤敏弘	61. 4. 1～2. 3. 31
助教授	立浪 勝	8. 4. 1～12. 3. 31	助手	久湊(内田)尚子	2. 5. 1～12. 3. 31

産業工芸学科

学科長	中川 宏	61. 4. 1～3. 3. 31	蜷川 彰	3. 4. 1～12. 3. 31
-----	------	-------------------	------	-------------------

金属工芸専攻

教授	麻生三郎	60. 4. 1～7. 3. 31	助教授	三船温尚	3. 4. 1～12. 3. 31
教授	須賀正佐	61. 4. 1～3. 3. 31	助教授	石井克巳	4. 12. 1～12. 3. 31
教授	横田 勝	元. 11. 1～12. 3. 31	助教授	小堀孝之	7. 4. 1～11. 3. 31
教授	中村滝雄	11. 4. 1～12. 3. 31	講師	三船温尚	60. 4. 1～3. 3. 31
教授	小堀孝之	11. 4. 1～12. 3. 31	講師	石井克巳	62. 4. 1～4. 11. 30
助教授	麻生三郎	58. 10. 1～60. 3. 31	講師	清水克朗	7. 8. 1～12. 3. 31
(短期高等教育機関(高岡)創設準備室	57. 5. 1～58. 3. 31)		講師	伊東多佳子	9. 3. 1～12. 3. 31
(高岡短期大学創設準備室	58. 4. 1～58. 9. 30)		助手	清水克朗	3. 4. 1～7. 7. 31
助教授	中村滝雄	62. 4. 1～11. 3. 31	助手	今淵純子	10. 4. 1～12. 3. 31

漆工芸専攻

教授	後藤義雄	61.4.1~4.3.31	助教授	高橋誠一	9.8.1~12.3.31
教授	蛭川 彰	62.4.1~12.3.31	講師	高橋誠一	4.4.1~9.7.31
教授	宮崎雅司	3.4.1~6.2.28	講師	齊藤晴之	6.4.1~12.3.31
教授	横山幸文	4.4.1~12.3.31	助手	江尻良子	3.5.1~4.3.31
教授	根本曠子	9.4.1~12.3.31	助手	永田幸子	4.4.1~5.3.31
助教授	辻 賢三	61.4.1~7.3.31	助手	四日利香	5.4.1~6.3.31
助教授	宮崎雅司	61.4.1~3.3.31	助手	山内しのぶ	6.4.1~7.3.31
助教授	横山幸文	62.4.1~4.3.31	助手	猿倉薫子	7.4.1~10.3.31
助教授	林 暁	7.4.1~12.3.31	助手	内多(岩峯)早織	10.4.1~12.3.31

木材工芸専攻

教授	中川 宏	60.4.1~3.3.31	助教授	丸谷芳正	11.4.1~12.3.31
教授	谷口義人	61.4.1~12.3.31	講師	小松研治	61.4.1~5.5.31
教授	倉田久敬	3.9.1~12.3.31	講師	秦 正徳	63.4.1~2.3.31
教授	林 哲三	9.3.1~12.3.31	助手	安井美樹	62.4.1~3.3.31
助教授	林 哲三	62.4.1~9.2.28	助手	秦 正徳	62.5.16~63.3.31
助教授	秦 正徳	2.4.1~9.12.31	助手	内藤裕孝	7.4.1~12.3.31
助教授	小松研治	5.6.1~12.3.31			

産業デザイン専攻

教授	黒岩靖司	59.4.1~12.3.31	助教授	武山良三	9.4.1~12.3.31
教授	小関利紀也	61.4.1~10.3.31	講師	安達博文	61.4.1~3.3.31
教授	南塚 豊	3.4.1~6.1.23	講師	矢口忠憲	2.4.1~12.3.31
教授	森田 力	6.7.16~12.3.31	講師	沖 和宏	10.4.1~12.3.31
助教授	南塚 豊	62.4.1~3.3.31	助手	矢口忠憲	63.5.28~2.3.31
助教授	安達博文	3.4.1~6.2.28	助手	沖 和宏	4.4.1~10.3.31
助教授	長山信一	7.1.1~12.3.31			

産業情報学科

学科長	澤本正巳	61.4.1~元.3.31	木村幸信	3.4.1~6.3.31
	石井榮一	元.4.1~3.3.31	佐藤孝紀	6.4.1~12.3.31

経営実務専攻

教授	澤本正巳	60.4.1~4.3.31	助教授	小郷直言	62.4.1~5.3.31
教授	中村 茂	61.4.1~62.9.16	助教授	田中晴人	6.3.1~12.3.31
教授	久保脩治	63.4.1~3.3.31	講師	田中晴人	4.4.1~6.2.28
教授	石井榮一	3.4.1~8.3.31	講師	市川直樹	4.4.1~8.3.31
教授	滝沢 浩	5.9.1~12.3.31	講師	上東正和	9.4.1~12.3.31
教授	鶴田彦夫	6.9.1~12.3.31	助手	室谷三千世	62.4.1~63.3.31
教授	木村幸信	7.4.1~12.3.31	助手	富成 幽	63.4.1~2.4.5
教授	吉田俊六	9.9.1~12.3.31	助手	田中晴人	3.1.1~4.3.31
助教授	金井繁雅	61.4.1~2.3.31	助手	市川直樹	3.10.1~4.3.31

情報処理専攻

教授	木村幸信	60.4.1~7.3.31	講師	小松(浅井)裕子	2.4.1~12.3.31
教授	佐藤孝紀	61.4.1~12.3.31	講師	藤田徹也	8.3.1~12.3.31

教授	久保欣五	4.4.1~12.3.31	助手	浅井裕子	63.10.1~2.3.31
教授	近藤 潔	11.4.1~12.3.31	助手	大江礼子	4.1.1~7.3.31
助教授	久保欣五	61.4.1~4.3.31	助手	藤田徹也	7.6.1~8.2.29
助教授	平田道憲	61.4.1~4.3.31	助手	米川 覚	7.10.1~12.3.31
助教授	近藤 潔	7.3.1~11.3.31			

ビジネス外語専攻(英米コース)

教授	石井榮一	60.4.1~3.3.31	助教授	小林和子	3.4.1~9.3.31
教授	林 暢夫	3.4.1~12.3.31	講師	小林和子	63.4.1~3.3.31
教授	中野清治	5.3.1~12.3.31	講師	入江識元	9.4.1~12.3.31
教授	村上恭子	11.4.1~12.3.31	助手	小林和子	62.8.1~63.3.31
助教授	中野清治	61.4.1~5.2.28	助手	仲谷祥子	7.4.1~10.3.31
助教授	村上恭子	61.4.1~11.3.31	助手	齊藤(北村)歌子	10.4.1~12.3.31

ビジネス外語専攻(中国コース)

教授	中野謙二	61.10.1~元.3.31	講師	磯部祐子	61.4.1~3.3.31
教授	関 憲三郎	元.8.1~6.3.31	講師	岡田文之助	62.4.1~2.3.31
教授	岡田文之助	11.4.1~12.3.31	講師	山田眞一	63.4.1~4.11.30
助教授	岡田文之助	2.4.1~11.3.31	講師	田中比呂志	7.10.1~10.9.30
助教授	磯部祐子	3.4.1~12.3.31	講師	諸星清佳	10.11.1~12.3.31
助教授	山田眞一	4.12.1~12.3.31	助手	金田(濱元)聡美	2.7.1~3.12.31
講師	伊原大策	61.4.1~62.9.30	助手	田中比呂志	6.4.1~7.9.30

※ 学科再編改組により、平成12年度から産業工芸学科、産業情報学科、一般教育科目等は産業造形学科、産業デザイン学科、地域ビジネス学科の3学科体制となる。

産業造形学科

学科長	横田 勝	12.4.1~14.3.31	堀江秀夫	16.4.1~	
	小堀孝之	14.4.1~16.3.31			
教授	倉田久敬	12.4.1~14.3.31	助教授	林 暁	12.4.1~15.1.31
教授	蛭川 彰	12.4.1~15.3.31	助教授	小松研治	12.4.1~15.1.31
教授	根本曠子	12.4.1~16.3.31	助教授	三船温尚	12.4.1~15.1.31
教授	谷口義人	12.4.1~16.3.31	助教授	高橋誠一	12.4.1~
教授	横田 勝	12.4.1~	助教授	齊藤晴之	12.11.1~
教授	横山幸文	12.4.1~14.11.11	助教授	村田 聡	16.2.1~
教授	林 哲三	12.4.1~16.3.31	助教授	伊東多佳子	16.4.1~
教授	小堀孝之	12.4.1~	助教授	清水克朗	16.4.1~
教授	中村滝雄	12.4.1~	講師	齊藤晴之	12.4.1~12.10.31
教授	野瀬正照	13.4.1~	講師	伊東多佳子	12.4.1~16.3.31
教授	堀江秀夫	14.4.1~	講師	清水克朗	12.4.1~16.3.31
教授	林 暁	15.2.1~	講師	鳥田稔弘	16.4.1~
教授	小松研治	15.2.1~	講師	河原雅典	16.4.1~
教授	三船温尚	15.2.1~	講師	渡邊雅志	16.4.1~
教授	丸谷芳正	16.4.1~	助手	内藤裕孝	12.4.1~
教授	貴志雅樹	16.4.1~	助手	今淵純子	12.4.1~
教授	竹村 譲	16.4.1~	助手	内多(岩峰)早織	12.4.1~13.3.31

助教授	丸谷芳正	12. 4. 1～16. 3. 31	助手	橋本千毅	13. 8. 1～
助教授	野瀬正照	12. 4. 1～13. 3. 31	助手	小川太郎	16. 4. 1～
助教授	石井克巳	12. 4. 1～14. 7. 9			

産業デザイン学科

学科長 森田 力 12. 4. 1～16. 3. 31、16. 4. 1～

教授	黒岩靖司	12. 4. 1～13. 3. 31	助教授	武山良三	12. 4. 1～15. 1. 31
教授	森田 力	12. 4. 1～	助教授	矢口忠憲	13. 4. 1～
教授	秦 正徳	12. 4. 1～	講師	矢口忠憲	12. 4. 1～13. 3. 31
教授	安達博文	12. 4. 1～	講師	沖 和宏	12. 4. 1～
教授	立浪 勝	12.12. 1～	助手	久湊(内田)尚子	12. 4. 1～15. 3. 31
教授	前田一樹	13.10. 1～	助手	玉井泰子	13. 4. 1～
教授	武山良三	15. 2. 1～	助手	澤(飯國)聡美	15. 4. 1～
教授	長山信一	16. 4. 1～			
助教授	長山信一	12. 4. 1～16. 3. 31			
助教授	立浪 勝	12. 4. 1～12.11.30			

地域ビジネス学科

学科長 佐藤孝紀 12. 4. 1～14. 3. 31

学科長 近藤 潔 14. 4. 11～16. 3. 31、16. 4. 1～

教授	中野清治	12. 4. 1～14. 3. 31	助教授	山田眞一	12. 4. 1～14. 3. 31
教授	木村幸信	12. 4. 1～13. 3. 31	助教授	磯部祐子	12. 4. 1～13. 3. 31
教授	滝沢 浩	12. 4. 1～16. 3. 31	助教授	C.R. コピー	12. 4. 1～
教授	佐藤孝紀	12. 4. 1～	助教授	小柳津英知	13. 4. 1～
教授	岡田文之助	12. 4. 1～	助教授	呉 在フォン	13. 9. 17～16. 3. 31
教授	久保欣五	12. 4. 1～	助教授	王 大鵬	14. 4. 1～
教授	吉田俊六	12. 4. 1～	助教授	藤田徹也	14. 7. 1～
教授	村上恭子	12. 4. 1～	助教授	入江識元	14. 7. 1～16. 3. 31
教授	近藤 潔	12. 4. 1～	助教授	高松朋史	16. 4. 1～
教授	小林和子	13. 4. 1～	講師	上東正和	12. 4. 1～
教授	磯部祐子	13. 4. 1～	講師	藤田徹也	12. 4. 1～14. 6. 30
教授	越野啓一	13. 4. 1～	講師	入江識元	12. 4. 1～14. 6. 30
教授	渡邊康洋	14. 4. 1～	講師	王 大鵬	12.11. 1～14. 3. 31
教授	山田眞一	14. 4. 1～	講師	米川 覚	16. 4. 1～
助教授	小林和子	12. 4. 1～13. 3. 31	講師	深谷公宣	16. 4. 1～
助教授	田中晴人	12. 4. 1～13. 3. 31	助手	米川 覚	12. 4. 1～16. 3. 31
助教授	小松(浅井)裕子	12. 4. 1～			

外国人教師 C.R. コピー 5. 10. 1～12. 3. 31

C.J. ロペズ 12. 4. 1～16. 9. 30

大学開放センター(旧短期大学開放センター)

センター長	鳥田 治	61. 4. 16～元.11. 1	センター教授	坂川幸雄	61. 9. 1～5. 8. 20
	戸田成一	元.12. 1～5. 3. 31	センター教授	宮崎雅司	6. 3. 1～
	大谷利治	5. 4. 1～7. 4. 30	センター助手	大場範明	63. 4. 1～3. 3. 31
	高橋一之	7. 5. 1～9. 12. 31	センター助手	藤田徹也	3. 4. 1～7. 5. 31

行田 博 10. 1. 1～13. 3. 31
水島和夫 13. 4. 1～16. 3. 31

※ 平成16年4月から「短期大学開放センター」は「大学開放センター」となる

荒井公夫 (非常勤理事) 16. 4. 1～

保健管理センター

センター所長 立浪 勝 13. 4. 1～16. 3. 31
センター講師 宮元芽久美 13. 4. 1～

図書館長

石井榮一 62. 2. 17～元. 2. 16 小関利紀也 8. 4. 1～9. 3. 31
須賀正佐 元. 4. 1～3. 3. 31 倉田久敬 9. 4. 1～12. 3. 31
澤本正巳 3. 4. 1～4. 3. 31 滝沢 浩 12. 4. 1～14. 3. 31
石井榮一 4. 4. 1～8. 3. 31 佐藤孝紀 14. 4. 1～16. 3. 31、16. 4. 1～

地域産業資料研究室長

後藤義雄 元. 6. 1～4. 3. 31 横山幸文 7. 4. 1～11. 3. 31
麻生三郎 4. 4. 1～7. 3. 31 林 哲三 11. 4. 1～12. 3. 31

電子計算機室長

木村幸信 62. 2. 17～元. 2. 16 佐藤孝紀 5. 4. 1～6. 3. 31
木村幸信 元. 4. 1～5. 3. 31 久保欣五 6. 4. 1～7. 3. 9

3.2.3.3 歴代事務職員

事務部

事務部長

江田晴夫 58.10. 1～61. 5. 31 (58. 4. 1～58. 9. 30創設準備室総主幹) 村田 武 7. 12. 1～9. 3. 31
川崎 晃 61. 6. 1～63. 3. 31 生永忠敏 9. 4. 1～11. 3. 31
宮崎治彦 63. 4. 1～3. 3. 31 原田 建 11. 4. 1～13. 9. 30
山崎繁行 3. 4. 1～5. 6. 30 古屋 勇 13. 10. 1～16. 3. 31
木野光郎 5. 7. 1～7. 11. 30 初山登志雄 16. 4. 1～

庶務課長(～61. 3. 31総務課長)

小林 武 58.10. 1～60. 3. 31 (58. 4. 1～58. 9. 30創設準備室総務主幹) 平山健一 3. 12. 1～6. 3. 31
與那原 進 60. 4. 1～61. 3. 31、61. 4. 1～63. 3. 31 住澤 久 6. 4. 1～8. 3. 31
白石明教 63. 4. 1～元. 3. 31 舟見 登 8. 4. 1～11. 3. 31
宇佐美政弘 元. 4. 1～3. 11. 30 谷口之武男 11. 4. 1～14. 3. 31
深津一也 14. 4. 1～

庶務係長(～61. 3. 31総務課総務係長)

雁田 彰 59. 4. 1～60. 3. 31 宮尾幸一 10. 4. 1～13. 3. 31
本吉友治 60. 4. 1～61. 3. 31、61. 4. 1～5. 11. 31 田中輝和 13. 4. 1～16. 9. 30
門前剛二 5. 12. 1～10. 3. 31 長崎 悟 16. 10. 1～

人事係長(～61. 3. 31総務課人事係長)

雁田 彰 60. 4. 1～61. 3. 31、61. 4. 1
～62. 3. 31
伊野不二夫 62. 4. 1～2. 3. 31
酒井利満 2. 4. 1～5. 3. 31

石坂淳子 5. 4. 1～9. 3. 31
道林一郎 9. 4. 1～11. 9. 30
島田勝弘 11. 10. 1～

図書係長

上龍敏章 61. 4. 1～元. 3. 31
四津忠一 元. 4. 1～11. 3. 31

畠山美苗 11. 4. 1～14. 3. 31
栗林裕子 14. 4. 1～

専門職員(企画広報担当)

小路 隆 13. 4. 1～16. 3. 31

専門職員(計画評価担当)

小路 隆 16. 4. 1～

専門職員(再編統合担当)

長崎 悟 16. 4. 1～16. 9. 30

武田正夫 16. 10. 1～

会計課長

吉田勝行 59. 4. 1～62. 3. 31
中林邦夫 62. 4. 1～元. 3. 31
佐藤 隆 元. 4. 1～3. 3. 31
柳橋恒久 3. 4. 1～5. 3. 31

倉橋陸雄 5. 4. 1～8. 3. 31
水内邦顯 8. 4. 1～10. 3. 31
落合博行 10. 4. 1～13. 3. 31
小野 章 13. 4. 1～

司計係長

桶 喜一 60. 4. 1～63. 3. 31
北川 功 63. 4. 1～元. 10. 31
東仙 博 元. 11. 1～4. 3. 31
羽広孝司 4. 4. 1～7. 4. 9

池上久晴 7. 4. 10～10. 3. 31
山田裕司 10. 4. 1～13. 3. 31
庄司正文 13. 4. 1～

出納係長

河上 孝 61. 4. 1～3. 3. 31
武田知己郎 3. 4. 1～5. 3. 31
牧石信康 5. 4. 1～7. 3. 31
塚田健夫 7. 4. 1～9. 3. 31

北川敬信 9. 4. 1～12. 3. 31
荒間 孝 12. 4. 1～14. 3. 31
片桐 茂 14. 4. 1～

用度係長

北川 功 60. 4. 1～63. 3. 31
東仙 博 63. 4. 1～元. 10. 31
西口一夫 元. 11. 1～5. 3. 31
新出信幸 5. 4. 1～9. 3. 31

荒間 孝 9. 4. 1～12. 3. 31
菅谷正清 12. 4. 1～15. 3. 31
寺脇誠一 15. 4. 1～

施設係長

小林 裕 60. 4. 1～9. 3. 31
洪谷省一 9. 4. 1～11. 3. 31

三浦伸幸 11. 4. 1～

学生課長

竹内利榮	61. 4. 1 ~ 63. 3. 31	磯村 信	7. 4. 1 ~ 10. 3. 31
佐藤 隆	63. 4. 1 ~ 元. 3. 31	佐藤健一	10. 4. 1 ~ 12. 3. 31
坂部忠昭	元. 4. 1 ~ 4. 3. 31	水野勇治	12. 4. 1 ~ 14. 3. 31
岡山一雄	4. 4. 1 ~ 7. 3. 31	野本文雄	14. 4. 1 ~

学生課専門員(就職指導担当)

竹下義美	12. 4. 1 ~ 14. 3. 31	高邑英市	14. 4. 1 ~
------	----------------------	------	------------

教務係長(~61. 3. 31総務課学務係長)

保正邦久	60. 4. 1 ~ 61. 3. 31、61. 4. 1 ~ 元. 3. 31	濱屋隆二	6. 4. 1 ~ 9. 3. 31
柳田邦雄	元. 4. 1 ~ 4. 3. 31	荒田一成	9. 4. 1 ~ 11. 3. 31
佐野 勤	4. 4. 1 ~ 6. 3. 31	大西光男	11. 4. 1 ~ 12. 3. 31
		新井健二	12. 4. 1 ~

専門職員(入学者選抜担当)

荒田一成	11. 4. 1 ~ 13. 3. 31	林 茂美	13. 4. 1 ~
------	----------------------	------	------------

専門職員(厚生補導担当)

林 茂美	12. 4. 1 ~ 13. 3. 31	寺脇誠一	14. 4. 1 ~ 15. 3. 31
北野悦郎	13. 4. 1 ~ 14. 3. 31	辻澤良夫	15. 4. 1 ~

技術専門官

奥田 都	14. 4. 1 ~ 16. 3. 31
------	----------------------

技術専門職員

畑 篤	10. 4. 1 ~ 11. 3. 31	奥田 都	11. 4. 1 ~ 14. 3. 31
砺波浩二	10. 4. 1 ~	二上正明	13. 4. 1 ~

実習係長(~61. 3. 31総務課実習係長)

二上正明	60. 4. 1 ~ 61. 3. 31、61. 4. 1 ~ 13. 3. 31
------	---

学生係長

竹下義美	61. 4. 1 ~ 2. 1. 15	本吉友治	6. 4. 1 ~ 9. 3. 31
佐野 勤	2. 1. 16 ~ 4. 3. 31	柴田利治	9. 4. 1 ~ 11. 3. 31
林 武	4. 4. 1 ~ 6. 3. 31		

専門職員(就職指導担当)

林 茂美	11. 4. 1 ~ 12. 3. 31
------	----------------------

事業課長

平岡幸一	60. 4. 1 ~ 62. 3. 31	鈴木昭美	5. 4. 1 ~ 7. 3. 31
白石明教	62. 4. 1 ~ 63. 3. 31	松田幹夫	7. 4. 1 ~ 11. 3. 31
奥野正明	63. 4. 1 ~ 2. 3. 31	関 賢一	11. 4. 1 ~ 13. 3. 31
橋口勝善	2. 4. 1 ~ 5. 3. 31	川久保 守	13. 4. 1 ~ 15. 3. 31

水野元洋 15. 4. 1～

企画調査係長(～10. 3. 31企画係長)

中村 進	61. 4. 1～63. 3. 31	牧石信康	7. 4. 1～8. 3. 31
中村信一	63. 4. 1～2. 3. 31	出村昭宏	8. 4. 1～10. 3. 31
林 武	2. 4. 1～4. 3. 31	河西義一	10. 4. 1～13. 3. 31
西尾 久	4. 4. 1～7. 3. 31	近藤達也	13. 4. 1～

専門職員(生涯学習担当)

泉田享一	9. 4. 1～12. 3. 31	笹岡博史	14. 4. 1～16. 3. 31
大西光男	12. 4. 1～14. 3. 31	新井 浩	16. 4. 1～

専門職員(情報サービス担当)

小路 隆	10. 4. 1～13. 3. 31	高瀬範和	13. 4. 1～
------	--------------------	------	-----------

専門職員(研究協力担当)

渡邊敬夫	10. 4. 1～11. 3. 31	北野悦郎	14. 4. 1～16. 3. 31
近藤達也	11. 4. 1～13. 3. 31	濱野松男	16. 4. 1～
笹岡博史	13. 4. 1～14. 3. 31		

研究協力係長

稲垣市雄	61. 4. 1～元. 3. 31	中越米雄	3. 4. 1～6. 3. 31
西口一夫	元. 4. 1～元. 10. 31	坂下吉宏	6. 4. 1～9. 3. 31
武田知己郎	元. 11. 1～3. 3. 31	宮尾幸一	9. 4. 1～10. 3. 31

資料調査係長

中村信一	61. 4. 1～63. 3. 31	本吉友治	5. 12. 1～6. 3. 31
中野賢二	63. 4. 1～3. 3. 31	出村昭宏	6. 4. 1～8. 3. 31
門前剛二	3. 4. 1～5. 11. 31	道林一郎	8. 4. 1～9. 3. 31

専門職員(国際交流担当)

田中輝和	9. 4. 1～13. 3. 31	長崎 悟	13. 4. 1～16. 3. 31
------	-------------------	------	--------------------

3.2.4 教職員数

平成17年1月1日現在

教 育 職 員						その他職員	
学 長	副学長	教 授	助教授	講 師	助 手	専門職	医療職
1	2	30	12	8	6	36	2
小 計 59						小 計 38	
計 97							

3.2.5 図書館

3.2.5.1 蔵書数

年度	区分	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	技術	産業	芸術	語学	文学	計	雑誌(受入)	
													国内	外国
昭和58	和書	1	0	1	9	0	7	3	107	0	0	128	0	0
	洋書	0	0	0	4	0	0	7	0	1	0	12	0	0
59	和書	87	843	878	2	26	40	2	51	857	842	3,628	0	0
	洋書	25	350	250	100	15	1	2	25	518	563	1,849	0	0
60	和書	1,310	648	649	2,609	795	1,511	364	2,584	1,415	2,226	14,111	0	0
	洋書	633	53	72	457	117	262	72	698	129	94	2,587	0	0
61	和書	681	262	395	1,085	452	384	170	1,006	212	587	5,234	203	105
	洋書	87	16	6	53	4	71	4	64	136	67	508	225	102
62	和書	226	133	190	1,046	167	262	328	578	230	222	3,382	225	102
	洋書	79	20	15	72	8	92	21	135	68	34	544	226	99
63	和書	108	53	39	405	52	186	59	191	79	147	1,319	226	99
	洋書	65	3	3	82	17	50	32	85	61	20	418	228	99
平成元	和書	233	91	86	981	84	231	147	359	246	137	2,595	228	99
	洋書	42	2	3	70	10	15	39	100	49	20	350	234	98
2	和書	128	46	90	323	103	153	129	312	98	107	1,489	239	95
	洋書	35	3	0	42	10	21	32	50	47	20	260	248	87
3	和書	166	45	99	412	163	181	127	317	129	156	1,795	248	87
	洋書	39	1	0	36	10	17	30	53	42	31	259	249	98
4	和書	104	34	127	308	57	101	109	215	128	86	1,269	249	98
	洋書	70	2	0	47	11	24	39	72	43	97	405	259	94
5	和書	314	216	233	1,627	390	157	152	308	293	299	3,989	260	92
	洋書	58	56	44	360	25	20	10	60	84	144	861	264	90
6	和書	204	140	230	307	141	84	55	2,501	185	209	4,056	260	92
	洋書	51	36	63	24	45	20	11	106	125	45	526	264	90
7	和書	134	72	100	326	108	132	47	288	136	192	1,535	260	92
	洋書	59	26	21	67	16	29	16	75	66	55	430	264	90
8	和書	105	37	49	198	51	92	31	146	50	71	830	260	93
	洋書	28	10	13	52	14	24	8	38	13	19	219	259	85
9	和書	112	25	49	467	26	183	98	200	59	76	1,295	259	85
	洋書	10	25	3	140	5	48	4	52	29	45	361	259	85
10	和書	99	35	70	406	49	117	118	158	80	91	1,223	259	85
	洋書	11	16	5	23	1	8	8	13	54	61	200	259	85
11	和書	96	27	35	332	51	103	43	324	89	63	1,163	259	77
	洋書	81	40	1	67	3	15	10	125	72	31	445	231	48
12	和書	60	17	69	275	44	83	51	225	65	76	965	230	48
	洋書	24	28	18	61	4	15	11	57	101	23	342	230	48
13	和書	55	48	102	538	54	147	74	304	118	71	1,511	224	49
	洋書	15	7	8	74	2	23	16	73	91	377	686	224	49
14	和書	98	29	87	447	35	148	71	272	99	70	1,356	226	48
	洋書	16	3	7	28	2	6	6	44	62	101	275	226	48
15	和書	30	17	36	473	69	241	90	101	63	57	1,177	223	45
	洋書	34	8	8	72	1	76	3	35	95	43	375	223	45
15(減)	和書	-499	0	-130	-173	-75	-12	-14	-2	0	0	-905	-	-
	洋書	-25	0	0	-11	0	0	0	0	0	0	-36	-	-
16	和書	37	29	75	210	27	158	34	248	27	64	909	223	45
	洋書	0	1	2	11	2	6	1	39	34	19	115	223	45
合計	和書	3,889	2,847	3,559	12,613	2,869	4,689	2,288	10,793	4,658	5,849	54,054	-	-
	洋書	1,437	706	542	1,931	322	843	382	1,999	1,920	1,909	11,991	-	-

3.2.5.2 利用者数

年度区分	入館者数	貸出延人数	貸出冊数	開館日数
昭和61	-	735	1,120	263
62	10,527	2,394	4,016	282
63	15,899	2,919	5,063	281
平成元	11,501	2,693	4,628	281
2	12,515	2,474	4,034	273
3	7,477	1,989	3,047	277
4	8,636	1,729	3,035	239
5	9,158	1,911	3,286	222
6	8,766	1,868	3,212	224
7	9,649	2,055	3,532	224

年度区分	入館者数	貸出延人数	貸出冊数	開館日数
8	11,662	1,893	3,530	235
9	14,018	1,353	3,114	263
10	15,165	1,268	2,987	263
11	16,933	1,431	2,822	262
12	16,583	1,690	3,608	262
13	16,484	1,714	3,664	265
14	16,505	1,653	3,260	265
15	14,911	1,515	3,155	267
16	16,553	1,707	3,418	262

3.2.6 入学式および卒業式(後期)

・入学式

平成5年度	平成5年4月8日
平成6年度	平成6年4月8日
平成7年度	平成7年4月10日
平成8年度	平成8年4月8日
平成9年度	平成9年4月8日
平成10年度	平成10年4月8日
平成11年度	平成11年4月5日
平成12年度	平成12年4月5日
平成13年度	平成13年4月5日
平成14年度	平成14年4月5日
平成15年度	平成15年4月7日
平成16年度	平成16年4月5日
平成17年度	平成17年4月5日

・卒業式

平成5年度	平成6年3月18日
平成6年度	平成7年3月20日
平成7年度	平成8年3月19日
平成8年度	平成9年3月19日
平成9年度	平成10年3月20日
平成10年度	平成11年3月19日
平成11年度	平成12年3月17日
平成12年度	平成13年3月16日
平成13年度	平成14年3月20日
平成14年度	平成15年3月20日
平成15年度	平成16年3月19日
平成16年度	平成17年3月18日

3.2.7 国立大学法人化

1. 法人化への対応

法人化に向けた準備の推進及び法人化への円滑な移行のため、法人化準備委員会を設置し、中期目標・中期計画、法人化に対応した管理運営組織、就業規則、その他諸規則等の検討を行った。また、新たな制度や実施体制等について、全職員を対象に「法人化に関する説明会」を開催し、各種説明、質疑応答を行った。

2. 法人化準備委員会開催状況

年度	事 項
平成14	10.1第1回法人化準備委員会/10.21第2回法人化準備委員会/10.28第3回法人化準備委員会/11.6第6回法人化準備委員会/11.14第5回法人化準備委員会/11.20第6回法人化準備委員会/11.22第7回法人化準備委員会/12.4第8回法人化準備委員会/2.3第9回法人化準備委員会/2.4第10回法人化準備委員会/2.5第11回法人化準備委員会
15	5.16第1回法人化準備委員会/9.2第2回法人化準備委員会/10.16第3回法人化準備委員会/11.19第4回法人化準備委員会/12.4第5回法人化準備委員会/12.18第6回法人化準備委員会/1.15第7回法人化準備委員会/2.5第8回法人化準備委員会/3.2第9回法人化準備委員会/3.8第10回法人化準備委員会/3.15第11回法人化準備委員会/3.22第12回法人化準備委員会/3.25第13回法人化準備委員会

3. 法人化に関する説明会

16	2.12第1回法人化に関する説明会/3.24第2回法人化に関する説明会
----	-------------------------------------

3.2.8 富山県内国立3大学の再編・統合

平成13年 6月	<p>[6.14]平成13年度国立大学長会議において、文部科学大臣から「大学(国立大学)の構造改革の方針」が出された。(遠山プラン)</p> <p>[6.19]蠟山学長から、全教職員に、「平成13年度国立大学長会議」における大臣挨拶の要点、コメント等を関係資料と併せて送付した。</p>
7月	<p>[7.12]学長から、運営会議、教授会において資料「高岡短期大学の将来をどう描くか」について提案があり、意見交換がなされた。</p> <p>[7.18]学長から、小澤富山大学長に「遠山プランに対する各大学のスタンス」についての、3大学長意見交換会を提案。</p> <p>[7.26]学長から、資料「大学(国立大学)の構造改革の方針に対する本学の対応について」を全教職員に配付。</p>
8月	<p>[8.17]学長から、「高岡短期大学としての再編・統合構想」を全教職員に配布。</p> <p>[8.27]学長から、全教職員に対し、本学と富山大学・富山医科薬科大学との再編統合についての資料配布。 ・富山県内国立3機関の再編統合推進に関する合意書(案) ・高岡短期大学としての再編・統合構想</p> <p>[8.28]3大学長が文科省に工藤高等教育局長を訪ね、現況報告。</p>
9月	<p>[9.6]3大学長が中沖県知事を訪ね、再編統合を検討することを学内で正式決定する意向である旨を報告。</p> <p>[9.6]教職員集会－学長から、再編・統合における概要説明及び出席者との意見交換。</p> <p>[9.13]第6回教授会で、学長から、再編統合問題に対する本学の基本姿勢について提案があり、次の3原則が生かされることを前提に、3大学の協議に入ることを承認。 1. 伝統工芸の継承、良き社会人の育成等、本学の果たしてきた使命を継続すること 2. 高岡に高等教育機関を存続ないし拡大をはかること 3. 短期の高等教育機関としての実績やニーズに基づき、準学士制度が生かされること</p> <p>[9.17]学長から、「再編統合検討のためのプロジェクトチーム・メンバー」の編成及び参加希望者の募集通知。(後に、このチームがprojectとして発足)</p> <p>[9.21]第1回project検討会開催。</p>
10月	<p>[10.2]「第3回富山国立3大学長、副学長、事務局長意見交換会」開催/本学から、資料「高岡短期大学としての再編統合構想：富山総合大学(仮称)のイメージ」を提示。</p> <p>[10.9]第2回project検討会開催。</p> <p>[10.11]第8回教授会において、学長から、projectメンバーの中から、3大学の意見交換会出席者の選出、及び3大学が検討に入ることへの合意ができ、協議を開始した後の学内等への情報公開について速やかに実施する旨の説明。</p>
11月	<p>[11.8]第3回project検討会開催。資料：「新大学のイメージ深化のために」配布。</p> <p>[11.12]県主催の「国立大学の改革等に関する懇談会」に、県内3大学長が出席して状況説明/資料：「富山総合大学(仮称)の創設をめざして」：高岡短期大学からの再編統合構想(2001年11月)を提示。</p> <p>[11.16]国立3大学再編統合に関する富山大学・高岡短期大学との第1回目の意見交換会開催/高岡短期大学から、資料：「富山総合大学(仮称)の創設をめざして」再編統合構想(2001年11月)を提示。</p> <p>[11.19]金沢大学において、「北陸地区国立大学学長懇談会」開催(副学長出席)。</p> <p>[11.26]県主催の「第2回国立大学の改革に関する懇談会」開催(於富山第一ホテル)。</p> <p>[11.27]南日(国立大学の改革等に関する懇談会)会長が来学、県からの「国立大学の改革再編について」の中間提言書を受理。中間提言書は、県から文科省にも提出。</p>
12月	<p>[12.4]瀧澤富山大学長、風巻副学長来学、国立3大学の再編統合問題について懇談。再編統合プロジェクトチーム(スモール)による本学の対応を協議。</p> <p>[12.6]「富山県大学長懇談会」開催。学長から、富山大学長に対し「富山大学長からの打診を受けて」を手渡し。</p> <p>[12.7]学長、文科省に杉野室長、清木主任改革官、村田改革官を訪ね面談。</p> <p>[12.12]学長、副学長、学科長、図書館長、再編統合プロジェクトチーム(スモール)による打合せ実施。</p> <p>[12.13]第12回教授会で、学長から状況報告及び意見交換。学長から、富山大学長に「富山大学長書簡：県内3大学再編統合問題について(12月9日)を受けて」を送付。</p> <p>[12.26]「国立3大学再編統合に関する富山大学・高岡短期大学との意見交換会」開催。本学から、資料「新大学における高岡キャンパス」を提示。</p>
平成14年 1月	<p>[1.8]「富山県内国立大学の再編・統合に係る懇談会」開催。富山医科薬科大学からの基本的要望事項及び合意書案について意見交換。</p>

	<p>[1.9]再編統合プロジェクトチーム(スモール)メンバーにて意見交換。</p> <p>[1.10]第13回教授会において、学長から再編統合に係る状況説明及び本学としての対応等意見交換。(プロジェクトチームとの合同会議) 資料:1月8日の懇談会資料配付。</p> <p>[1.15]「富山県内国立大学の再編・統合に係る懇談会」開催。富山医科薬科大学からの基本的要望事項及び合意書案について意見交換。本学から、資料「富山総合大学(仮称)の創設をめざして」:高岡短期大学からの再編統合構想再論(2002年1月15日)提示。</p> <p>[1.18]臨時教授会を開催し、学長から状況説明及び本学としての対応等意見交換。(プロジェクトチームとの合同会議) 資料:1月15日の懇談会資料配付。富山医科薬科大学から提案のあった「富山県内国立大学の再編・統合に係る基本的確認事項(案)」及び合意書(案)について、項目、内容等については、本学としては基本的に合意。</p> <p>[1.22]「富山県内国立大学の再編・統合に係る懇談会」開催。本学から基本的確認事項及び合意書案についての修正文を提出。</p> <p>[1.23]富山第一ホテルにおいて、県内各界の有識者による「国立大学の改革等に関する懇談会」の小委員会を開催、3国立大学の副学長が出席し、状況説明後質疑応答。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのキャンパスを残し、県民にとって魅力ある大学にしてほしい。 ・短期大学を含む再編統合を創り上げれば、一段と特色ある大学が打ち出せるものと期待する。 ・その他、教員養成機能のあり方、地域貢献の視点などの要望、意見があった。 <p>[1.26]「国立3大学再編統合に関する富山大学と高岡短期大学の見交換会」を開催。本学から資料「富山総合大学(仮称)の創設をめざして」:高岡短期大学からの再編統合構想再再論(2002年1月26日)提示。</p> <p>[1.28]「富山県内国立大学の再編・統合に係る懇談会」開催。</p>
2月	<p>[2.19]「富山県内国立大学の再編・統合に係る懇談会」開催。</p> <p>[2.2]学長、副学長、学科長、図書館長、再編統合プロジェクトチーム(スモール)による打合せ。</p> <p>[2.22]国立3大学再編統合に関する富山大学と高岡短期大学の意見交換会を開催。富山大学から、新大学の学部構想(案)提示。</p>
3月	<p>[3.5]「富山県内国立大学の再編・統合に係る懇談会」開催。</p> <p>[3.6]第11回運営会議において、再編統合プロジェクトチーム(スモール)+αメンバーを加えて意見交換。</p> <p>[3.11]「国立3大学再編統合に関する富山大学と高岡短期大学の意見交換会」を開催。/金沢大学において、「北陸地区国立大学学長懇談会」開催(学長出席)</p> <p>[3.19]「富山県内国立大学の再編・統合に係る懇談会」開催。基本的確認事項等について合意、26日に調印することになった。</p> <p>[3.26]再編・統合への協議開始についての合意書及び基本的確認事項に調印。</p> <p>[3.29]文部科学省において、再編・統合及び教育学部に関するヒアリングを受けた。</p>
4月	<p>[4.2]学長、副学長、学科長、図書館長、再編統合プロジェクトチーム(スモール)による打合せ。</p> <p>[4.8]「富山県内国立大学の再編・統合に係る懇談会」開催。新大学構想協議会(仮称)を設置し、新大学のグランドデザイン等を話し合うことになった。</p> <p>[4.10]第1回運営会議において、再編統合プロジェクトチーム(スモール)を加えて意見交換。</p> <p>[4.11]第1回教授会終了後、教職員集会を開催し、再編・統合に関する現状等報告を行い、併せて意見交換を行った。</p> <p>[4.15]学長、副学長、学科長、図書館長、再編統合プロジェクトチーム(スモール)+αによる打合せ。</p> <p>[4.18]学長、副学長、学科長、図書館長、再編統合プロジェクトチーム(スモール)+αによる打合せ。</p> <p>[4.22]第1回新大学構想協議会を開催し、各大学の構想案を提示しフリーディスカッションを行った。</p> <p>[4.25]高志会館において、県内各界の有識者による「国立大学の改革等に関する懇談会」の第2回小委員会を開催、瀧澤富大学長、小林医薬大副学長、蠟山高岡短大学長が出席し、状況説明後質疑応答を行った。/学長、副学長、学科長、図書館長、再編統合プロジェクトチーム(スモール)+αによる打合せ。</p> <p>[4.30]第2回新大学構想協議会を開催し、フリーディスカッションを行った。</p>
5月	<p>[5.14]第3回新大学構想協議会を開催し、富山大学から提示された新大学構想を中心にフリーディスカッションを行った。</p> <p>[5.29]第4回新大学構想協議会を開催し、フリーディスカッションを行ったが、構想策定委員会を開催することは時期尚早であるので今後もフリーディスカッションを行うことになった。</p>
6月	<p>[6.25]第5回新大学構想協議会を開催し、フリーディスカッションを行った。教養教育については、各大学の意見も出そろい具体的な協議が可能と思われるので、各大学の副学長からなる議長団で教養教育に関するワーキンググループの設置の是非を協議し、併せて今後の検討事項の整理も行うことになった。なお、議長団の協議の結果、教養教育に関するワーキンググループを設置し、具体的に協議していくことになった。</p>
7月	<p>[7.10]学長、副学長、学科長、図書館長、再編統合プロジェクトチーム(ラージ)による打合せ。</p> <p>[7.18]富山大学教育学部教官との懇談会。</p> <p>[7.29]第6回新大学構想協議会を開催。教養教育WGの他に大学院WGを設置することになった。また、8月に、3大学長による教職員向けパネルディスカッションを開催することになった。</p>

8月	<p>[8.6]第1回教養教育ワーキンググループを開催。</p> <p>[8.30]「富山県内国立大学の再編・統合に関する説明会」を富山大学黒田講堂で開催。三大学長をパネラーとするパネルディスカッション形式で行われ、三大学で合計471名の出席があった。(富大283名、医薬大125名、高岡短大63名)</p>
9月	<p>[9.17]第2回教養教育ワーキンググループを開催。</p> <p>[9.24]富山大学教育学部長、教官2名と懇談会を実施。(学長出席)</p> <p>[9.25]第7回新大学構想協議会を開催。管理運営体制について及び大学院ワーキンググループの設置等について協議を行った。また、この協議会から、各大学の運営諮問会議委員及び県関係者がオブザーバー出席した。</p>
10月	<p>[10.7]第3回教養教育ワーキンググループを開催。</p> <p>[10.21]金沢大学において、「北陸地区国立大学学長懇談会」開催。(副学長出席)</p> <p>[10.22]第8回新大学構想協議会を開催。教養教育、学部編成等について協議を行った。</p>
11月	<p>[11.5]第4回教養教育ワーキンググループを開催。</p> <p>[11.11]第9回新大学構想協議会を開催。学部編成等について協議を行い、今後、構想策定委員会を開催し、学部、大学院、教養教育、管理運営について協議していくことになった。</p> <p>[11.15]富山大学教育学部教官と懇談会を実施。</p> <p>[11.18]第1回大学院ワーキンググループを開催。富山医科薬科大学教官との懇談会を実施。</p> <p>[11.19]第5回教養教育ワーキンググループを開催。</p> <p>[11.20]第1回構想策定委員会を開催。</p> <p>[11.22]高岡市役所において「国立大学の再編・統合について聞く会」を開催。</p> <p>[11.27]第2回構想策定委員会を開催。構想策定委員会終了後、経済学部教官及び教育学部教官と懇談会をそれぞれ実施。</p> <p>[11.28]第2回大学院ワーキンググループを開催。</p>
12月	<p>[12.5]文部科学省 清水審議官及び村田大学企画調整室長と3大学(学長(副学長)、事務局長(事務部長))で懇談会を実施。</p> <p>[12.6]第3回構想策定委員会を開催。金沢大学において、「北陸地区国立大学学長懇談会」開催。(副学長出席)</p> <p>[12.10]学長、副学長、学科長、図書館長、再編統合プロジェクトチーム(ラージ)+αによる打合せ実施。</p> <p>[12.11]第4回構想策定委員会を開催。</p> <p>[12.18]副学長、学科長、図書館長、再編統合プロジェクトチーム(スモール)による打合せ。</p> <p>[12.19]教職員集会を開催し、全教職員に経緯と今後の方向性について、学長から説明があった。</p> <p>[12.24]第5回構想策定委員会を開催。</p> <p>[12.25]富山県庁において、経営企画部長等への説明会を開催。新大学構想協議会の流れ及び状況について説明の後質疑応答を行った。</p> <p>[12.27]第6回構想策定委員会を開催。</p>
平成15年 1月	<p>[1.7]第7回構想策定委員会を開催。</p> <p>[1.9]学長、副学長、学科長、図書館長、再編統合プロジェクトチーム(スモール)+αによる打合せ実施。</p> <p>[1.14]第8回構想策定委員会を開催。</p> <p>[1.16]第1回任期制・評価体制ワーキンググループを開催。</p> <p>[1.21]第9回構想策定委員会を開催。金沢大学において、「北陸地区国立大学学長懇談会」開催(学長出席)</p> <p>[1.23]第1回芸術文化学部ワーキンググループを開催。</p> <p>[1.24]第1回研究所・センターワーキンググループを開催。</p> <p>[1.28]富山県民会館において、県内各界の有識者による「国立大学の改革等に関する懇談会」の第3回小委員会を開催。瀧澤富大学長、高久医薬大学長、蠟山高岡短大学長、水島高岡短大副学長が出席し、状況説明後質疑応答を行った。</p> <p>[1.30]第2回芸術文化学部ワーキンググループを開催。</p> <p>[1.31]第2回任期制・評価体制ワーキンググループを開催。</p>
2月	<p>[2.6]第3回芸術文化学部ワーキンググループを開催。</p> <p>[2.13]第10回構想策定委員会を開催/第2回研究所・センターワーキンググループを開催。</p> <p>[2.14]第3回任期制・評価体制ワーキンググループを開催。</p> <p>[2.17]金沢大学において、「北陸地区国立大学学長懇談会」開催。(副学長出席)</p> <p>[2.21]第3回研究所・センターワーキンググループを開催。</p> <p>[2.26]第4回芸術文化学部ワーキンググループを開催。</p> <p>[2.27]第1回文化創造学部(仮称)懇談会を開催。</p> <p>[2.28]金沢大学において、「北陸地区国立大学学長懇談会」開催。(学長出席)</p>
3月	<p>[3.4]第11回構想策定委員会を開催。</p>

	<p>[3.6]第2回文化創造科学部(仮称)懇談会を開催。</p> <p>[3.11]第12回構想策定委員会を開催。</p> <p>[3.18]第13回構想策定委員会を開催。</p> <p>[3.24]第4回研究所・センターワーキンググループを開催。</p> <p>[3.31]第14回構想策定委員会を開催。</p>
4月	<p>[4.8]第1回芸術文化学部(仮称)タスクフォースを開催。芸術文化学部(仮称)案を示し意見交換した。</p> <p>[4.15]第2回芸術文化学部(仮称)タスクフォースを開催。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸術文化学部(仮称)案について意見交換を行った。 ・教員移動について確認し、教員人事が決まるまでタスクフォースを存続することとした。 ・実質的な検討を学長を除くタスクフォース委員で行うこととした。 <p>[4.17]教職員集会を開催し、全教職員に経緯と今後の方向性について、学長から説明。</p> <p>[4.22]第15回構想策定委員会を開催。</p> <p>[4.30]教職員集会を開催し、全教職員に経緯と再編・統合の合意を行うことについて、副学長から説明があった。</p>
5月	<p>[5.2]臨時教授会を開催し、3大学の再編・統合に合意することを機関決定。</p> <p>[5.6]高岡市へ、3大学が再編・統合に合意する機関決定した旨を報告。</p> <p>[5.7]第10回新大学構想協議会を開催し、3大学が再編・統合に合意することを了承し、併せて調印式も行った。</p> <p>富山県知事へ、3大学が再編・統合に合意することについて報告。</p> <p>[5.8]全学(職員・学生)集会を開催し、副学長から再編・統合に合意したことを報告。</p> <p>[5.9]文部科学省へ、3大学が再編・統合に合意したことについて報告。</p> <p>[5.12]富山県民会館において、県内各界の有識者による「国立大学の改革等に関する懇談会」の第4回小委員会を開催。</p> <p>[5.15]再編統合 SP と関心のある教員に芸術文化学部(仮称)の考え方についての説明会を実施。</p> <p>[5.30]第1回新大学創設準備にかかる懇談会を開催。</p>
6月	<p>[6.5]第4回教授会において、芸術文化学部(仮称)設置準備委員会の設置を承認。</p> <p>[6.12]第1回芸術文化学部(仮称)タスクフォース小委員会を開催。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸術文化学部(仮称)の素案は、小委員会メンバーで作成することとした。 ・新規採用教員について、今年中に人選も行なうことを確認した。 <p>[6.13]第1回芸術文化学部(仮称)設置準備委員会を開催。</p> <p>[6.17]第2回新大学創設準備にかかる懇談会を開催し、創設準備委員会及び推進委員会を設立することに同意。</p> <p>[6.17]芸術文化学部芸術文化学部(仮称)設置準備委員会ワーキンググループに関する説明会を開催。</p> <p>[6.26]第3回新大学創設準備に係る懇談会を開催。設準備委員会及び推進委員会の任務及び部会の設置、創設準備室の設置を確認し、早急に第1回新大学創設準備委員会を開催することとした。</p>
7月	<p>[7.1]富山大学内に創設準備事務室を設置。</p> <p>[7.8]第1回新大学創設準備協議会を開催し、新大学創設準備協議会及び新大学創設準備推進委員会の設置並びに部会及びタスクフォースの設置を了承し、従前の新大学構想協議会を廃止することとした。</p> <p>部会及びタスクフォース(8組織)</p> <ul style="list-style-type: none"> 人間発達科学部(仮称)部会 芸術文化学部(仮称)タスクフォース 人文学部部会 経済学部部会 機構・センター部会 病院部会 事務組織部会 情報部会 <p>[7.28]第2回芸術文化学部(仮称)設置準備委員会を開催。芸術文化学部(仮称)設置の骨子(案)及び3大学統合のメリットについて提示し協議。</p> <p>[7.29]第1回機構・センター部会を開催。部会の下に、4ワーキンググループを設けた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館ワーキンググループ ・保健管理センターワーキンググループ ・地域連携推進機構ワーキンググループ ・大学教育・学生支援ワーキンググループ <p>[7.30]第1回情報部会を開催。</p>
8月	<p>[8.5]第3回芸術文化学部(仮称)設置準備委員会を開催。芸術文化学部(仮称)設置の骨子(案)を再検討し、企業や高校生へのアンケート調査を外部委託で実施することとした。</p> <p>[8.6]第2回芸術文化学部(仮称)タスクフォース小委員会を開催。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術文化学部(仮称)設置の骨子(案)について意見交換した。 ・芸術文化学部(仮称)の開設科目の調整を行なうことを確認した。 <p>[8.11]第1回人文学部部会を開催。第1回事務組織部会を開催。/第4回芸術文化学部(仮称)設置準備委員会を開催。</p> <p>[8.12]教職員へ芸術文化学部(仮称)の骨子に関する説明懇談会を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸術文化学部(仮称)設置の骨子(案)について ・各教員からの質問に関する回答 <p>[8.18]第1回経済学部部会を開催。</p> <p>[8.25]第1回病院部会を開催。</p> <p>[8.27]第3回芸術文化学部(仮称)タスクフォース小委員会を開催。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸術文化学部(仮称)の開設科目について、9月中には素案を作成することとした。 ・教養教育の実施体制等について、創設準備委員会又は、創設準備推進委員会へ申し入れることとした。 ・課程認定について意見交換した。 ・早急に新規教員の人選を進めることを確認した。 ・芸術文化学部(仮称)に関するアンケートについて確認した。 <p>[8.28]第1回管理運営部会を開催。</p>
9月	<p>[9.1]第1回人間発達科学部(仮称)部会を開催。</p> <p>[9.3]第1回入試部会を開催。</p> <p>[9.17]第3回芸術文化学部(仮称)タスクフォースを開催。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸術文化学部(仮称)設置の骨子(案)について確認した。 ・今後のスケジュールを確認した。 <p>/第2回入試部会を開催。</p> <p>[9.24]文部科学省に芸術文化学部(仮称)設置の骨子(案)について、説明及び懇談</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新大学像の全体像の早期提出 ・教養教育の全体の取り組み方や実施方法の検討 ・設置審査について助言 <p>/第2回機構・センター部会を開催。</p>
10月	<p>[10.9]第5回芸術文化学部(仮称)設置準備委員会を開催。</p> <p>[10.15]第4回芸術文化学部(仮称)タスクフォースを開催。</p> <p>[10.16]第6回芸術文化学部(仮称)設置準備委員会を開催。</p> <p>[10.17]第2回事務組織部会を開催。</p> <p>[10.20]第7回芸術文化学部(仮称)設置準備委員会を開催。</p> <p>[10.21]第1回創設準備推進委員会を開催。</p> <p>[10.23]第2回人文学部部会を開催。</p> <p>[10.29]第8回芸術文化学部(仮称)設置準備委員会を開催。</p> <p>[10.31]第2回情報部会を開催。</p>
11月	<p>[11.4]第2回人間発達科学部部会を開催。</p> <p>[11.10]第3回入試部会を開催。</p> <p>[11.17]第3回情報部会を開催。</p> <p>[11.19]第2回経済学部部会を開催。</p> <p>[11.21]第3回機構・センター部会を開催。</p> <p>[11.25]第9回芸術文化学部(仮称)設置準備委員会を開催。</p> <p>[11.28]第1回中期目標・中期計画部会を開催。/第10回芸術文化学部(仮称)設置準備委員会を開催。</p>
12月	<p>[12.1]第4回入試部会を開催。</p> <p>[12.4]第1回教養教育部会を開催。/第4回情報部会を開催。</p> <p>[12.5]第2回病院部会を開催。</p> <p>[12.8]第2回創設準備推進委員会を開催。</p> <p>[12.9]第11回芸術文化学部(仮称)設置準備委員会を開催。</p> <p>[12.11]第12回芸術文化学部(仮称)設置準備委員会を開催。</p> <p>[12.12]第13回芸術文化学部(仮称)設置準備委員会(持ち回り)を開催。</p> <p>[12.17]第14回芸術文化学部(仮称)設置準備委員会を開催。</p> <p>[12.18]第15回芸術文化学部(仮称)設置準備委員会を開催。</p> <p>[12.22]第4回機構・センター部会を開催。/第5回入試部会を開催。</p> <p>[12.24]第3回人間発達科学部部会を開催。</p>
平成16年 1月	<p>[1.6]第16回芸術文化学部(仮称)設置準備委員会を開催。</p>

	<p>[1.13]第17回芸術文化学部(仮称)設置準備委員会を開催。</p> <p>[1.20]第2回教養教育部会を開催。／第18回芸術文化学部(仮称)設置準備委員会を開催。</p> <p>[1.27]第19回芸術文化学部(仮称)設置準備委員会を開催。</p>
2月	<p>[2.5]第20回芸術文化学部(仮称)設置準備委員会を開催。</p> <p>[2.12]第21回芸術文化学部(仮称)設置準備委員会を開催。</p> <p>[2.23]第22回芸術文化学部(仮称)設置準備委員会を開催。</p> <p>[2.27]第23回芸術文化学部(仮称)設置準備委員会を開催。</p>
3月	<p>[3.2]第1回大学院部会を開催。／第24回芸術文化学部(仮称)設置準備委員会を開催。</p> <p>[3.4]第25回芸術文化学部(仮称)設置準備委員会を開催。</p> <p>[3.15]第4回人間発達科学部部会を開催。</p> <p>[3.18]文部科学省に芸術文化学部(仮称)設置の骨子(案)について、説明及び懇談</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回(9.24)からの変更点及び宿題について説明 ・4月以降は国立大学法人支援課が対応すること ・今後のスケジュールの確認 ・設置の趣旨の内容について質疑応答 <p>[3.22]高岡短期大学において、第5回芸術文化学部(仮称)タスクフォースを開催。</p> <p>新規採用者の設置審査後の対応及び学部長の選出方法等について確認。</p> <p>[3.23]第3回教養教育部会を開催。</p> <p>[3.26]名鉄富山ホテルにおいて、第2回新大学創設準備協議会を開催。</p>
4月	<p>[4.9]第3回新大学創設準備協議会を開催。</p> <p>[4.12]平成16年度第1回芸術文化学部(仮称)設置準備委員会を開催。</p> <p>[4.15]全教員を対象に芸術文化学部(仮称)に関する説明会を開催。現状及び今後のスケジュール等について説明。</p> <p>[4.22]第4回教養教育部会を開催。</p> <p>[4.26]平成16年度第2回芸術文化学部(仮称)設置準備委員会を開催。</p>
5月	<p>[5.10]平成16年度第3回芸術文化学部(仮称)設置準備委員会を開催。</p> <p>[5.11]第5回人間発達科学部(仮称)部会を開催。</p> <p>[5.14]第3回事務組織部会を開催。／第5回教養教育部会を開催。</p> <p>[5.17]平成16年度第4回芸術文化学部(仮称)設置準備委員会を開催。</p> <p>[5.18]第6回芸術文化学部(仮称)タスクフォースを開催。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸術文化学部(仮称)設置構想案について了承。 ・新学部の名称及び学位について了承。 ・移動教員の研究室等の確保についての配慮を確認。 <p>[5.19]第2回管理運営部会を開催。</p> <p>[5.20]第6回入試部会を開催。</p> <p>[5.25]全教員を対象に芸術文化学部(仮称)に関する説明会を開催。</p> <p>[5.27]第3回管理運営部会を開催。／平成16年度第5回芸術文化学部(仮称)設置準備委員会を開催。移動教員の研究室等の確保、新学部の英語表記及び新学部のPR活動等について検討。</p> <p>[5.31]平成16年度第6回芸術文化学部(仮称)設置準備委員会を開催。</p>
6月	<p>[6.3]第5回機構・センター部会を開催。</p> <p>[6.7]第3回新大学創設準備推進委員会を開催。</p> <p>[6.9]第7回入試部会を開催。</p> <p>[6.10]第6回教養教育部会を開催。</p> <p>[6.11]第2回大学院部会を開催。</p> <p>[6.14]第4回新大学創設準備推進委員会を開催。</p> <p>[6.21]富山県民会館において、県内各界の有識者による「国立大学の改革等に関する懇談会」の第6回小委員会を開催。芸術文化学部及び人間発達科学部の検討状況を説明。</p> <p>[6.22]平成16年度第7回芸術文化学部(仮称)設置準備委員会を開催。文部科学省との打ち合せの結果概ね了承を得たことの報告。</p> <p>[6.23]第4回新大学創設準備協議会を開催。</p> <p>[6.30]第7回教養教育部会を開催。／文部科学省に設置計画書(正本1部、抜刷3部)を提出。</p>
7月	<p>[7.23]全学(職員・学生)集会を開催し、学生を中心に芸術文化学部の内容等を説明。</p> <p>[7.28]平成16年度第8回芸術文化学部設置準備委員会を開催。</p> <p>[7.30]創設準備事務局から、文部科学省に新学部に関する大学設置・学校法人審議会大学設置分科会資料(10部)提出。</p>
8月	<p>[8.4]第8回入試部会を開催。</p>

- [8 . 5]平成16年度第 9 回芸術文化学部設置準備委員会を開催。
- [8 . 9]文部科学省に設置計画書の残り(抜刷32部、個人調書等15部)を提出。／高岡市役所において、「新富山大学設置構想及び芸術文化学部の概要についての説明会」を開催。
- [8 . 11]第 5 回情報部会を開催。
- [8 . 27]第 7 回芸術文化学部(仮称)タスクフォースを開催。

3.2.9 年表(後期)

平成 7	3月学内情報ネットワークシステム TNC-NET(Takaoka National College NETwork)が稼働する。／4月専攻科(1年制、1専攻)が2年制、3専攻(産業造形専攻・産業デザイン専攻・地域ビジネス専攻)に再編改組されるとともに、学位授与機構が定める要件を満たす専攻科として認定される。
9	3月専攻科棟が竣工する。
12	4月学科が、従前の2学科(産業工芸学科、産業情報学科)から、3学科(産業造形学科、産業デザイン学科、地域ビジネス学科)に再編改組される。
13	4月保健管理センターが設置される。
14	3月学内情報ネットワークシステム TNC-NET を高速キャンパス情報ネットワークシステムに更新する。
16	4月国立大学法人法の施行によって、国立大学法人高岡短期大学となる。
17	9月国立大学法人高岡短期大学閉学式を挙げる。

3.3 会計課

3.3.1 決算額

(単位：千円)

区分		年度	昭和58	59	60	61	62	63	平成元
歳入	授業料及 入学金検 定料		-	-	36,294	99,393	123,347	139,181	142,019
	雑収入		-	-	0	107,669	1,570	1,369	1,852
	計		-	-	36,294	207,062	124,917	140,550	143,871
歳出	人件費		15,694	53,616	127,877	317,244	433,279	496,859	583,774
	物件費		9,700	40,342	525,452	2,061,471	1,432,793	1,021,480	208,227
	計		25,394	93,958	653,329	2,378,715	1,866,072	1,518,339	792,001

区分		年度	平成2	3	4	5	6	7	8
歳入	授業料及 入学金検 定料		149,499	157,878	162,385	166,773	177,352	185,121	199,526
	雑収入		2,068	3,934	3,943	4,453	4,032	3,543	5,813
	計		151,567	161,812	166,328	171,226	181,384	188,664	205,339
歳出	人件費		593,918	723,326	614,187	668,007	703,323	843,248	763,430
	物件費		214,142	235,339	225,199	305,393	279,444	322,385	388,760
	計		808,060	958,665	839,386	973,400	982,767	1,165,633	1,152,190

区分		年度	9	10	11	12	13	14	15
歳入	授業料及 入学金検 定料		206,353	219,671	221,402	215,341	234,433	243,275	249,313
	雑収入		6,179	9,913	10,054	14,596	9,816	13,752	13,043
	計		212,532	229,584	231,456	229,937	244,249	257,027	262,356
歳出	人件費		918,272	778,688	856,036	814,080	829,326	836,233	925,662
	物件費		328,173	369,155	361,404	319,555	383,519	348,827	370,731
	計		1,246,445	1,147,843	1,217,440	1,133,635	1,212,845	1,185,060	1,296,393

(単位：千円)

区分		年度	16
収入	運営費交付金		1,162,461
	施設整備費補助金		13,000
	授業料及び入学金 検定料収入		237,647
	雑収入		11,672
	産学連携等研究収入 及び寄附金収入等		122,636
	計		1,547,416
支出	教育研究経費		762,851
	一般管理費		456,888
	施設整備費		13,000
	産学連携等研究経費 及び寄附金事業費等		13,741
	計		1,246,480

3.3.2 施設の概要

区 分	所 在 地	敷地面積	建物面積
高岡短期大学	高岡市二上町180番地	99,847㎡	18,934㎡
古府宿舎	高岡市伏木古府 2 - 2 - 30	2,817㎡	1,822㎡
伏木宿舎	高岡市伏木矢田 7 - 50	3,130㎡	1,277㎡
	合 計	105,794㎡	22,033㎡

建物の概要

高岡短期大学

区 分	名 称 等	構 造	延面積	建設年度	位 置
講義・管理棟 (講義、管理部門)	管理部門、講義室、デッサン室、基礎デザイン室、彫塑室、製図室等	鉄筋コンクリート造 2 階建	3,337㎡	昭和60年度	①
研究棟 (研究部門)	教員研究室、CG ルーム、映像利用室、演習室等	鉄筋コンクリート造 4 階建	3,451㎡	〃	②
講義演習棟 (開放センター)	LL 教室、講堂、エントランスホール、演習室、食堂、談話室、売店、コンサルテーション室等	鉄筋コンクリート造 2 階建	3,508㎡	〃	③
実験実習棟	原型室、金属機械室、塗装室、木工機械室、鋳造室、木彫室、彫・鍛金室、漆実技室等	鉄筋コンクリート造平屋建	2,336㎡	〃	④
エネルギー棟	電気室、ボイラー室、ポンプ室等	鉄筋コンクリート造 2 階建	721㎡	〃	⑤
体育館	体育室、シャワー室、更衣室、課外活動室等	鉄骨鉄筋コンクリート造 2 階建	1,734㎡	昭和61年度	⑥
図書館	閲覧室、情報資料室、グループ読書室等	鉄筋コンクリート造 2 階建	1,078㎡	〃	⑦
洗心苑 (非常勤講師宿泊施設)	宿泊室、ラウンジ、和室等	鉄筋コンクリート造 2 階建	428㎡	昭和62年度	⑧
体育器具庫	器具庫、便所、シャワー等	鉄筋コンクリート造平屋建	84㎡	平成元年度	⑨
危険物倉庫		鉄筋コンクリート造平屋建	32㎡	平成 2 年度	⑩
専攻科棟	デザインモデリングルーム、漆素地造形室、ビジネス演習室、木材実験室 2、金属実験室等	鉄筋コンクリート造 4 階建	2,225㎡	平成 8 年度	⑪

古府宿舎

区 分	名 称 等	構 造	延面積	建設年度
宿舎(職員宿舎)	24戸	鉄筋コンクリート造 4 階建	1,767㎡	61年度
附属施設	自転車置場、ポンプ室、プロパン庫	-	55㎡	-

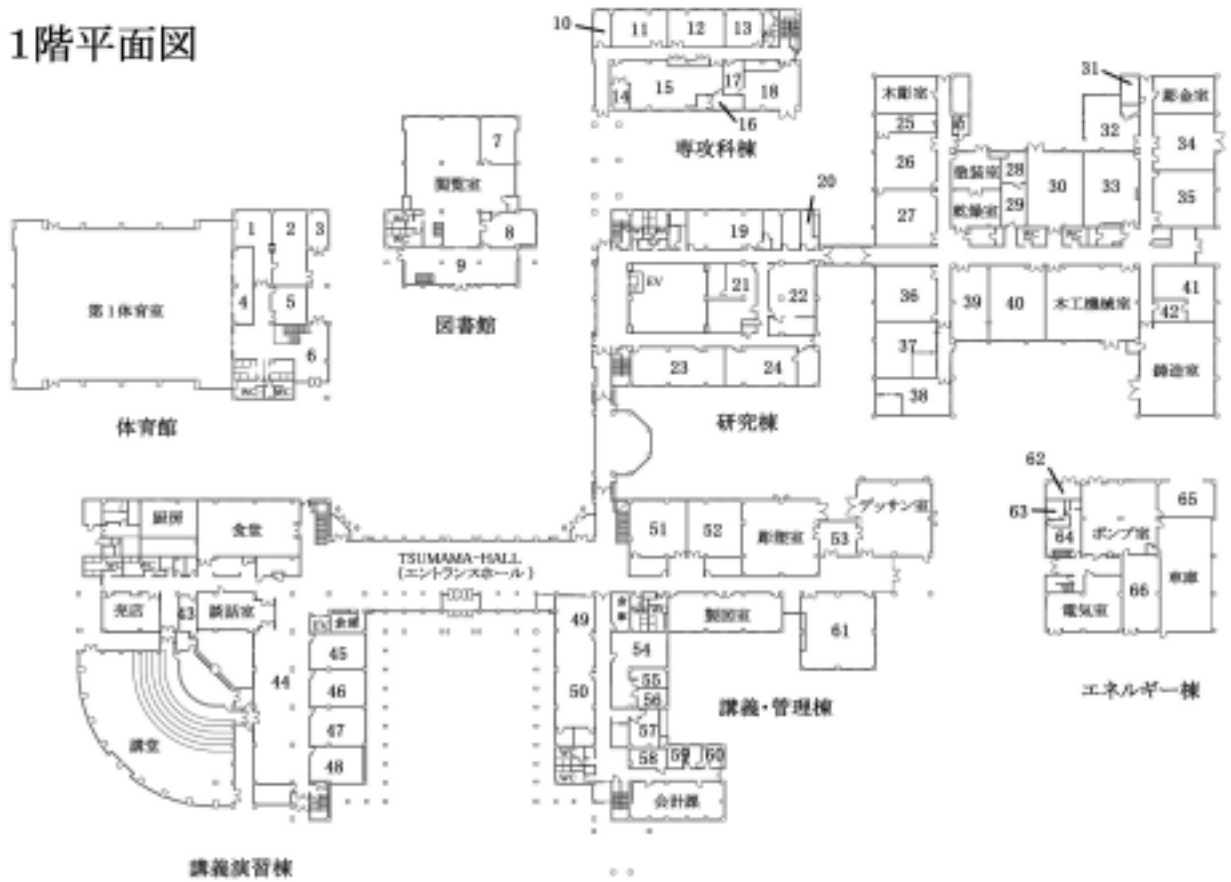
伏木宿舎

区分	名 称 等	構造	延面積	建設年度
宿舎(職員宿舎)	18戸	鉄筋コンクリート造 3 階建	1,218㎡	51年度
附属施設	LPG 庫、ポンプ室、自転車置場、物置	-	59㎡	-

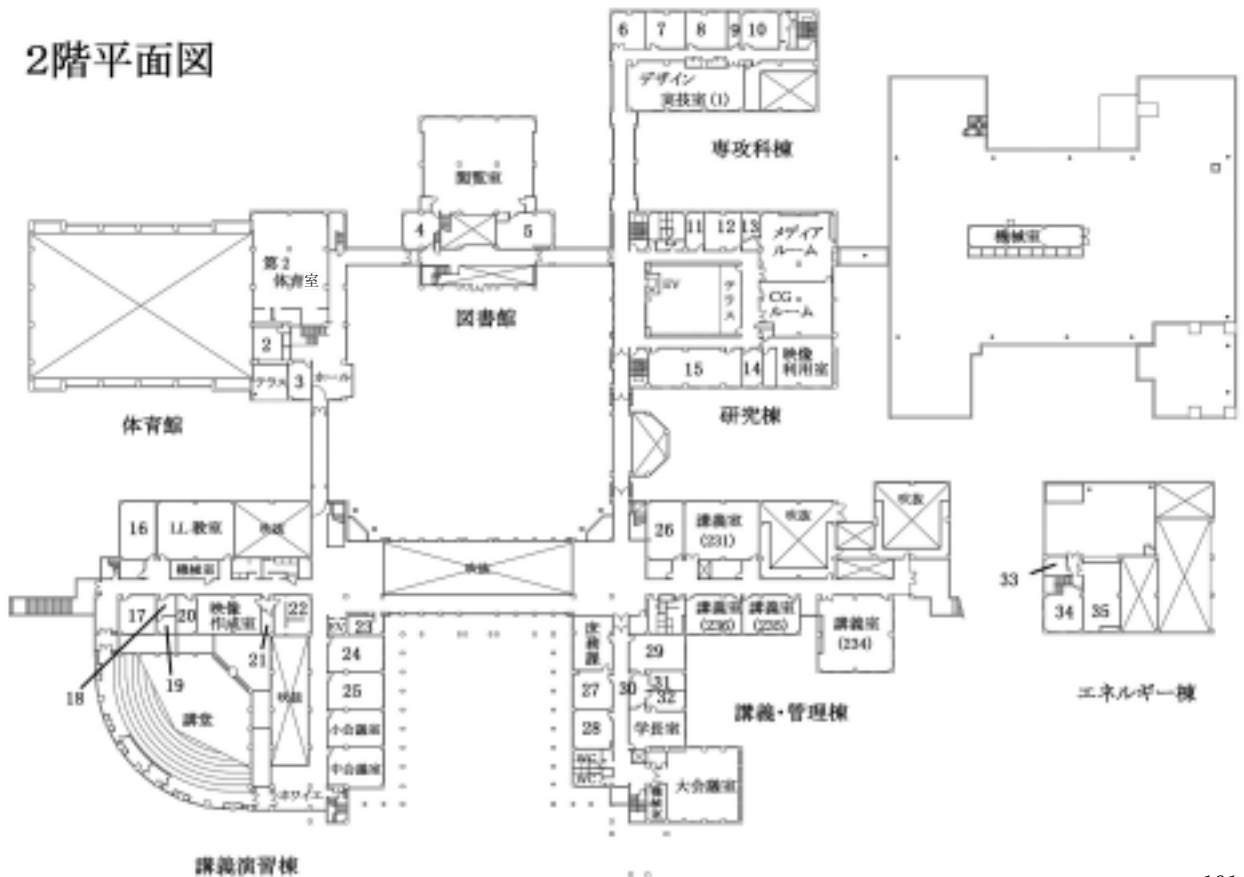
3.3.3 建物の平面図



1階平面図



2階平面図



1階

体育館

- 1.課外活動室
- 2.課外活動室
- 3.電気室
- 4.器具庫
- 5.更衣室
- 6.ホール

図書館

- 7.閉架書庫
- 8.事務室
- 9.ホール

専攻科棟

- 10.演習室 170
- 11.材料実験室
- 12.漆器造形室
- 13.きゆう漆室
- 14.プラスチック加工室
- 15.デザインモデリングルーム
- 16.塗装室
- 17.データ解析室
- 18.デザイン実験室 (1)

研究棟

- 19.漆工業教員室
- 20.材料実験室
- 21.基礎専門教員室
- 22.木材工業教員室
- 23.産業デザイン教員室
- 24.金属工業教員室

実験実習棟

- 25.木材実験室1
- 26.接着成型室
- 27.木材実技室
- 28.磨水処理室
- 29.表面処理室
- 30.金属機械室
- 31.木材試験室
- 32.実習作業室
- 33.彫・鍛金室
- 34.金属立体造形室
- 35.金属実技室
- 36.漆実技室1
- 37.漆実技室2
- 38.漆実技室3
- 39.原形室
- 40.木材加工室
- 41.鋳造研究室
- 42.精密鋳造室

講義演習棟

- 43.ロッカー室
- 44.ホワイエ
- 45.工業演習室 (161)
- 46.工業演習室 (162)
- 47.工業演習室 (163)
- 48.展示室

講義・管理棟

- 49.学生課
- 50.専業課
- 51.講義室 (130)
- 52.講義室 (131)
- 53.倉庫
- 54.保健管理センター
- 55.医師室
- 56.相談室
- 57.事務電算室
- 58.機械室
- 59.休養室
- 60.守衛室
- 61.基礎デザイン室

エネルギー棟

- 62.ポンベ室
- 63.和室
- 64.管理室
- 65.ゴミ置場
- 66.ボイラー室

3階平面図



研究棟

4階平面図



研究棟

2階

体育館

- 1.器具庫
- 2.和室
- 3.体育教員室

図書館

- 4.グループ 読書室
- 5.情報資料室

専攻科棟

- 6.ラフレッシュルーム
- 7.デザイン実技室 (2)
- 8.デザイン実技室 (3)
- 9.保管室
- 10.デザイン実験室 (2)

研究棟

- 11.資料室
- 12.ネットワーク管理室
- 13.機械室
- 14.機械室
- 15.自習・教材作成室
応用演習室

講義演習棟

- 16.会話演習室
- 17.平面造形室
- 18.教員準備室
- 19.録音室
- 20.個人実習室
- 21.映像調整室
- 22.暗室
- 23.コンサルテーション室
- 24.コンピュータ演習室
- 25.多目的講義室

講義・管理棟

- 26.講義室 (230)
- 27.事務部長室
- 28.監事室
- 29.理事室副学長
- 30.秘書室
- 31.理事室
- 32.理事室副学長

エネルギー棟

- 33.倉庫 (1)
- 34.倉庫 (2)
- 35.送風機室

3階

専攻科棟

- 1.演習室 (370)
- 2.ビジネス演習室
- 3.デザインCGルーム
- 4.デザイン実験室 (2)
- 5.デザインビジュアル実験室 (1)
- 6.ビジネス資料室
- 7.ビジネス実験室
- 8.造形計画室
- 9.暗室
- 10.写植印字室
- 11.デザインビジュアル実技室

研究棟

- 12.演習室 (301)
- 13.演習室 (302)
- 14.演習室 (303)
- 15.演習室 (304)
- 16.演習室 (305)
- 17.演習室 (306)
- 18.非常勤講師室
- 19.教員室 (308)
- 20.教員室 (309)
- 21.教員室 (310)
- 22.教員室 (311)
- 23.教員室 (312)
- 24.教員室 (313)
- 25.教員室 (314)
- 26.教員室 (315)
- 27.教員室 (316)
- 28.教員室 (317)
- 29.教員室 (318)
- 30.教員室 (319)
- 31.教員室 (320)
- 32.教員談話室
- 33.事務室

4階

専攻科棟

- 1.演習室 (470)
- 2.金属実験室
- 3.複合材料実験室1
- 4.講義室 (471)
- 5.NMR室
- 6.漆実験室2
- 7.漆実験室1
- 8.木材実験室2
- 9.産業工業資料室
- 10.複合材料実験室2

研究棟

- 11.演習室 (401)
- 12.演習室 (402)
- 13.演習室 (403)
- 14.教員室 (404)
- 15.教員室 (405)
- 16.教員室 (406)
- 17.教員室 (407)
- 18.教員室 (408)
- 19.教員室 (409)
- 20.教員室 (410)
- 21.教員室 (411)
- 22.教員室 (412)
- 23.教員室 (413)
- 24.教員室 (414)
- 25.教員室 (415)
- 26.教員室 (416)
- 27.教員室 (417)
- 28.教員室 (418)

3.3.4 年表(後期)

会計課

年 度	竣 工 日	工 事 名
平成5年度	H5.11.30	講義演習棟エレベータ設備工事が竣工する
	H5.12.20	実験実習棟デザイン実験室模様替工事が竣工する
平成6年度	H6.6.20	テニスコート夜間照明設備工事が竣工する
	H7.1.31	研究棟コンピュータ室模様替工事が竣工する
	H7.2.10	情報ネットワーク配線工事が竣工する
	H7.3.31	電話交換機設備更新工事が竣工する
平成7年度	H7.8.30	講義演習棟工芸演習室模様替工事が竣工する
平成9年度	H9.10.31	講義演習棟等自動ドア取設工事が竣工する
平成10年度	H10.12.22	体育館等屋上防水改修工事が竣工する
	H10.12.25	体育館課外活動室間仕切取設工事が竣工する
	H11.1.20	講義演習棟等屋上防水補修工事が竣工する
平成11年度	H12.3.30	講義棟大講義室等空調機取設工事が竣工する
平成12年度	H12.12.25	図書館防水改修工事が竣工する
	H13.3.30	講義演習棟談話室模様替工事が竣工する
	H13.3.30	講義管理棟保健管理センター模様替工事が竣工する
平成13年度	H13.12.7	講義演習棟等防水改修工事が竣工する
	H14.3.29	テニスコート改修工事が竣工する
	H14.3.29	高速キャンパス情報ネットワーク工事が竣工する
平成14年度	H14.12.19	実験実習棟等防水改修工事が竣工する
	H15.3.31	体育館課外活動室模様替工事が竣工する
平成15年度	H16.1.13	講義管理棟等防水改修工事が竣工する
平成16年度	H16.11.25	講義演習棟講堂空気調和機取替工事が竣工する
平成17年度	H17.9.26	校舎(芸術文化学部)改修工事が竣工する
	H17.9.26	校舎(芸術文化学部)電気設備改修工事が竣工する
	H17.9.26	校舎(芸術文化学部)機械設備改修工事が竣工する

3.4 学生課

3.4.1 大学説明会およびオープンキャンパス参加者数(後期)

平成年度	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	
参加者人数	83(注1)	518(注2)	478	607	556	523	269	266	323	302	324	286	349

注1：(新)富山大学芸術文化学部説明会(教員向け)

注2：(新)富山大学芸術文化学部オープンキャンパス

3.4.2 入学志願者および入学者

3.4.2.1 学科

年度	学科名	産業工芸学科					産業情報学科					合計
	専攻名	金属工芸	漆工芸	木材工芸	産 業 デザイン	計	経営実務	情報処理	ビジネス 外語(英)	ビジネス 外語(中)	計	
	入学定員	20	15	15	25	75	40	40	45		125	200
昭和 61年	志願者	13	21	17	100	151	321	632	240	72	1,265	1,416
	受験者	13	21	17	96	147	311	604	230	71	1,216	1,363
	入学者	20	15	17	22	74	46	46	36	19	147	221
62	志願者	24	30	25	155	234	346	662	269	76	1,353	1,587
	受験者	24	28	25	146	223	317	615	241	72	1,245	1,468
	入学者	26	15	16	28	85	44	36	29	18	127	212
63	志願者	24	31	23	126	204	381	427	237	65	1,110	1,314
	受験者	24	30	21	118	193	369	382	217	61	1,029	1,222
	入学者	20	16	17	26	79	42	44	30	15	131	210
平成 元年	志願者	29	34	38	115	216	396	497	238	65	1,196	1,412
	受験者	26	32	38	105	201	374	468	222	56	1,120	1,321
	入学者	20	15	17	25	77	48	40	30	17	135	212
2	志願者	28	35	45	98	206	332	422	235	72	1,061	1,267
	受験者	25	34	43	97	199	312	389	204	59	964	1,163
	入学者	21	15	15	26	77	45	40	33	17	135	212
3	志願者	26	19	28	88	161	279	353	208	71	911	1,072
	受験者	25	19	28	86	158	268	322	185	66	841	999
	入学者	20	18	16	24	78	43	40	30	17	130	208
4	志願者	32	27	16	83	158	252	357	164	56	829	987
	受験者	32	26	16	75	149	232	326	144	48	750	899
	入学者	20	15	15	26	76	43	40	32	15	130	206
5	志願者	32	23	40	65	160	169	226	150	55	600	760
	受験者	26	23	38	61	148	157	211	133	54	555	703
	入学者	20	16	15	26	77	47	41	34	15	137	214
6	志願者	39	22	33	61	155	190	254	115	41	600	755
	受験者	37	20	32	56	145	182	235	101	39	557	702
	入学者	22	16	15	25	78	41	40	31	15	127	205
7	志願者	47	16	23	59	145	130	163	122	51	466	611
	受験者	43	16	21	56	136	120	151	107	42	420	556
	入学者	20	15	15	25	75	40	40	30	16	126	201
8	志願者	35	25	36	78	174	142	132	125	44	443	617
	受験者	31	24	33	70	158	127	118	101	43	389	547
	入学者	22	15	15	25	77	43	40	30	15	128	205
9	志願者	35	28	33	75	171	135	133	115	38	421	592
	受験者	31	27	31	72	161	125	127	107	34	393	554
	入学者	20	16	15	25	76	46	48	33	17	144	220
10	志願者	38	28	24	58	148	110	141	108	50	409	557
	受験者	33	26	24	57	140	106	131	96	45	378	518
	入学者	23	18	16	25	82	41	40	33	15	129	211
11	志願者	46	31	33	78	188	124	163	139	36	462	650
	受験者	40	29	31	77	177	123	154	119	34	430	607
	入学者	20	15	15	25	75	40	40	30	15	125	200

年度	学科名 コース名	産業造形				産業 デザイン	地域ビジネス					合計
		金属工芸	漆工芸	木材工芸	計		経営	情報	国際・ 英語	国際・ 中国語	計	
平成 12	入学定員	20	15	15	50	25	40	40	30	15	125	200
	志願者	37	22	28	87	72	133	157	94	39	423	582
	受験者	36	20	27	83	66	121	149	90	35	395	544
13	入学者	21	15	17	53	28	40	37	34	15	126	207
	志願者	21	20	21	62	81	89	139	126	36	390	533
	受験者	17	19	21	57	79	88	130	120	35	373	509
14	入学者	23	16	16	55	26	45	40	35	18	138	219
	志願者	22	23	28	73	105	156	162	139	51	508	686
	受験者	19	23	28	70	103	153	155	135	48	491	664
15	入学者	23	16	18	57	25	41	48	29	20	138	220
	志願者	41	29	39	109	120	161	153	140	47	501	730
	受験者	40	28	37	105	118	156	150	127	42	475	698
16	入学者	21	14	18	53	26	45	33	29	18	125	204
	志願者	57	21	50	128	118	130	91	146	30	397	643
	受験者	55	20	50	125	115	125	87	138	28	378	618
17	入学者	18	17	15	50	26	40	55	32	13	140	216
	志願者	31	28	29	88	125	158	109	154	47	468	681
	受験者	30	28	29	87	115	149	105	147	44	445	647
	入学者	19	16	16	51	27	33	42	35	16	126	204

3.4.2.2 専攻科(1年制) (志：志願者、受：受験者、入：入学者を示す)

専攻名	入学 定員	昭和63		平成元		2		3		4		5		6	
		志	入	志	入	志	入	志	入	志	入	志	入	志	入
地域産業専攻	10	14	11	4	4	10	7	13	8	8	8	13	10	13	12

専攻科(2年制)

専攻名	入学 定員	平成7		8		9		10		11		12		13		14		15		16		17	
		志	入	志	入	志	入	志	入	志	入	志	入	志	入	志	入	志	入	志	入	志	入
産業造形専攻	14	22	17	22	16	29	18	24	18	30	20	32	20	30	21	32	21	31	20	38	23	44	23
産業デザイン専攻	5	6	6	9	7	7	5	6	6	11	7	8	7	11	8	13	8	10	8	9	9	14	8
地域ビジネス専攻	6	5	5	6	5	1	1	7	5	13	7	10	6	5	4	8	8	15	7	16	7	11	9
計	25	33	28	37	28	37	24	37	29	54	34	50	33	46	33	53	37	56	35	63	39	69	40

3.4.3 学生定員及び現員(後期)

学科/専攻科	学 科											専 攻 科				総 計		
	産業造形				産業デザイン		地域ビジネス					計	産 業 造 形	産 業 デ ザ イ ン	地 域 ビ ジ ネ ス		計	
コース/専攻	金 属 工 芸	漆 工 芸	木 材 工 芸	小 計	デ ザ イ ン イン ビ ジ ュ ア ル	プ ロ ジ ク ト デ ザ イ ン 小 計	経 営	情 報	国 際 ・ 英 語	国 際 ・ 中 国 語	小 計					計		産 業 造 形
入学定員	50			50	25	25	125					125	200	14	5	6	25	225
平成 12年	学科、専攻科/1年	21(4)	15(3)	17(7)	53(14)	28(2)	28(2)	41(3)	38(0)	34(0)	15(1)	128(4)	209(20)	20(3)	7(2)	6(0)	33(5)	242(25)
	学科、専攻科/2年	20(4)	15(1)	15(4)	50(9)	24(5)	24(5)	39(1)	41(3)	30(0)	14(1)	124(5)	198(19)	22(6)	7(1)	7(2)	36(9)	234(28)
	合 計	41(8)	30(4)	32(11)	103(23)	52(7)	52(7)	80(4)	79(3)	64(0)	29(2)	252(9)	407(39)	42(9)	14(3)	13(2)	69(14)	476(53)
13	学科、専攻科/1年	24(8)	16(2)	16(2)	56(12)	26(4)	26(4)	47(3)	41(8)	37(0)	18(3)	143(14)	225(30)	21(5)	8(2)	4(2)	33(9)	258(39)
	学科、専攻科/2年	21(5)	15(3)	17(7)	53(15)	28(2)	28(2)	42(3)	39(1)	33(0)	14(1)	128(5)	209(22)	22(4)	7(2)	7(0)	36(6)	245(28)
	合 計	45(13)	31(5)	33(9)	109(27)	54(6)	54(6)	89(6)	80(9)	70(0)	32(4)	271(19)	434(52)	43(9)	15(4)	11(2)	69(15)	503(67)
14	学科、専攻科/1年	23(3)	16(5)	18(2)	57(10)	25(1)	25(1)	42(2) ①	49(6) ①	29(1)	20(2)	140(11) ②	222(22) ②	21(5)	8(1)	8(1) ②	37(7) ②	259(29) ④
	学科、専攻科/2年	26(9) ①	16(2)	15(2)	57(13) ①	27(4)	27(4)	47(3) ②	41(8) ①	38(0) ①	18(3)	144(14) ④	228(31) ⑤	21(5)	8(2)	4(2)	33(9)	261(40) ⑤
	合 計	49(12) ①	32(7)	33(4)	114(23) ①	52(5)	52(5)	89(5) ③	90(14) ②	67(1) ①	38(5)	284(25) ⑥	450(53) ⑦	42(10)	16(3)	12(3) ②	70(16) ②	520(69) ⑨
15	学科、専攻科/1年	22(1)	14(1)	18(4)	54(6)	26(5)	26(5)	47(1) ②	34(3) ①	29(1)	18(2)	128(7) ③	208(18) ③	20(1) ①	8(1)	7(2) ①	35(4) ②	243(22) ⑤
	学科、専攻科/2年	24(3)	16(6)	19(3)	59(12)	26(1)	26(1)	44(3) ③	48(7) ①	30(1)	20(2)	142(13) ④	227(26) ④	22(5)	8(1)	8(1) ②	38(7) ②	265(33) ⑥
	合 計	46(4)	30(7)	37(7)	113(18)	52(6)	52(6)	91(4) ⑤	82(10) ②	59(2)	38(4)	270(20) ⑦	435(44) ⑦	42(6) ①	16(2)	15(3) ③	73(11) ④	508(55) ⑪
16	学科、専攻科/1年	19(5) ①	17(3)	15(4)	51(12) ①	26(3)	26(3)	41(2)	55(8)	32(2)	13(2)	141(14)	218(29) ①	23(7)	9(1)	7(2) ①	39(10) ①	257(39) ②
	学科、専攻科/2年	23(1) ①	15(2)	18(5)	56(8) ①	27(4)	27(4)	47(1) ②	34(3) ①	29(1)	18(2)	128(7) ③	211(19) ④	24(3) ①	8(1)	7(2) ①	39(6) ②	250(25) ⑥
	合 計	42(6) ②	32(5)	33(9)	107(20) ②	53(7)	53(7)	88(3) ②	89(11) ①	61(3)	31(4)	269(21) ③	429(48) ⑤	47(10) ①	17(2)	14(4) ②	78(16) ③	507(64) ⑧
17	学科、専攻科/1年	19(1)	16(3)	16(4)	51(8)	27(8)	27(8)	35(5) ②	42(3)	35(3)	16(1)	128(12)	206(28) ②	23(3) ①	8(1)	9(1) ②	40(5) ③	246(33) ⑤
	学科、専攻科/2年	20(5) ①	17(4)	14(3)	51(12) ①	27(3)	27(3)	42(2)	54(8)	31(2)	13(2)	140(14)	218(29) ①	25(7)	9(1)	8(2) ①	42(10) ①	260(39) ②
	合 計	39(6) ①	33(7)	30(7)	102(20) ①	54(11)	54(11)	77(7) ②	96(11)	66(5)	29(3)	268(26) ②	424(57) ③	48(10) ①	17(2)	17(3) ③	82(15) ④	506(72) ⑦

()内は男子で内数

○内は留学生数で内数

3.4.4 出身地別学生数(後期)

平成年度 地域	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	合計	
北海道		1	1		1	2	2			3	2	2	14	
東北地方	青森				2		1						3	
	岩手	1(1)	1				1	1	1(1)	2		2(1)	9(3)	
	宮城								2				2	
	秋田	1					1	2	1				5	
	山形			2(1)	1								3(1)	
	福島											1	1	
関東地方	茨城	1	1(1)			1			1				4(1)	
	栃木	2(1)							1(1)			1	4(2)	
	群馬			2(1)		1(1)					1(1)		4(3)	
	埼玉		2(1)	3(3)	2(2)	1		1(1)	1	1		2(1)	1	14(8)
	千葉		1				1	1		2(1)	1	1	7(1)	
	東京	2(1)	3(1)	2(1)	1	3	3(1)	3	3(1)	3(1)	3(1)	3(1)		29(8)
	神奈川	1(1)	1			2(1)			2	1	2		2(2)	11(4)
中部地方	新潟	3	4(1)	2(1)	2(1)	2	1	1		2	4(1)	1	4(1)	26(5)
	富山	123(7)	115(5)	120(8)	126(4)	116(5)	109(8)	108(5)	124(10)	132(10)	95(5)	122(14)	116(14)	1,406(95)
	石川	37(1)	38	42(3)	51(1)	43	43(2)	49(5)	46(2)	48(2)	59(5)	52(3)	47(3)	555(27)
	福井	8	4	2	9	9	8	7	8(2)	3	4(1)	6(1)	3(1)	71(5)
	長野	1	3	3		2	5(2)	7(1)		2(1)		2	1(1)	26(5)
	山梨				1									1
	岐阜	2(2)	6(1)	5(1)	4(1)	1			3(1)	2	2(1)	3(1)	1	29(8)
	静岡	1	2		3	1				1	1	1		10
	愛知	3	4(1)	7(1)	6(3)	3	5	1	5(2)	2	2		1	39(7)
	三重			2		3		1	1	1		1		9
近畿地方	滋賀		1(1)	1			1		1(1)			1	3	8(2)
	京都	6(5)	1	3(1)	2(1)	2(2)	2(1)	1	2(2)	3	5(1)	4(2)	2(1)	33(16)
	大阪	2(1)	3(1)	5	4(3)	7(1)	1	5(1)	5(1)	3(1)	2	6	4	47(9)
	兵庫	1	2		1	1	3(1)	2(1)	3	2	8	1(1)	3(1)	27(4)
	奈良						1			1	1	1	1	5
	和歌山													
	鳥取			1					1					2
中国地方	鳥根							1						1
	岡山		2	1(1)		1(1)	2(1)			3(1)				9(4)
	広島	2	1				2(1)				2	1(1)	1	9(2)
	山口								1		2			3
	徳島				1									1
四国地方	香川	2	2	1	2(1)	2	3(1)	4(1)	2	3(2)	2(1)		2	25(6)
	愛媛		1			2	1	1	1			1(1)		7(1)
	高知													
	福岡	3(1)				1(1)	1	5(4)	2(2)	2(2)	3(1)	1(1)	3(1)	21(13)
九州地方	佐賀													
	長崎													
	熊本	1	1(1)		1	1	1	1	1(1)		1			8(2)
	大分	1												1
	宮崎								2				1(1)	3(1)
	鹿児島					3		3	1(1)		1	2(1)	1	11(2)
沖縄				1									1	
合計	204(21)	200(14)	205(22)	218(17)	211(12)	197(18)	207(19)	219(28)	220(21)	204(18)	216(28)	203(27)	2,504(245)	

()内は男子で内数

3.4.5 授業料免除および奨学金(後期)

3.4.5.2 日本育英会・日本学生支援機構奨学生採用数

3.4.5.1 授業料免除許可者数

年度	授業料免除					
	前期		後期		合計	
	全額	半額	全額	半額	全額合計	半額合計
5年度	16	1	13	5	29	6
6年度	14	0	9	1	23	1
7年度	10	0	11	2	21	2
8年度	14	3	15	1	29	4
9年度	23	2	24	6	47	8
10年度	18	1	21	2	39	3
11年度	19	4	30	5	49	9
12年度	30	2	32	3	62	5
13年度	30	8	29	7	59	15
14年度	27	3	27	6	54	9
15年度	26	2	26	3	52	5
16年度	25	8	26	6	51	14
17年度	27	4	24	9	51	13
	279	38	287	56	566	94

年度	奨学金	
	日本育英会	日本学生支援機構
5年度	25	
6年度	22	
7年度	35	
8年度	25	
9年度	33	
10年度	36	
11年度	37	
12年度	45	
13年度	58	
14年度	65	
15年度	61	
16年度		63
17年度		61
	442	124

注：日本育英会奨学金は、平成16年度から日本学生支援機構奨学金となった。

3.4.6 卒業生・修了生の進路(後期)

3.4.6.1 本科

年度・学科名	区分	卒業生	就職者	進学・研修等	自営・その他	就職者の内訳								
						公務	農林漁業	建設業	製造業	電気・ガス・水道	卸売・小売業	サービス	その他	計
平成5	産業工芸	80	46	26	8			1	26		6	11	2	46
	産業情報	122	110	8	4	10		3	21	4	19	37	16	110
	計	202	156	34	12	10		4	47	4	25	48	18	156
6	産業工芸	76	35	36	5			4	21		7	3		35
	産業情報	138	122	11	5	7		4	41	2	18	25	25	122
	計	214	157	47	10	7		8	62	2	25	28	25	157
7	産業工芸	70	34	29	7	1			25		3	4	1	34
	産業情報	126	118	6	2	5		6	39	3	14	25	26	118
	計	196	152	35	9	6		6	64	3	17	29	27	152
8	産業工芸	77	27	31	19			1	14		4	7	1	27
	産業情報	122	109	10	3	8		4	39	1	7	23	27	109
	計	199	136	41	22	8		5	53	1	11	30	28	136
9	産業工芸	74	29	27	18			1	17		3	7	1	29
	産業情報	125	112	11	2	6			39	4	15	24	24	112
	計	199	141	38	20	6		1	56	4	18	31	25	141
10	産業工芸	71	23	27	21			1	9	1	3	8	1	23
	産業情報	136	111	16	9	4		2	26	5	27	24	23	111
	計	207	134	43	30	4		3	35	6	30	32	24	134
11	産業工芸	80	21	40	19			1	8		3	9		21
	産業情報	126	106	15	5	2		2	27	1	22	19	33	106
	計	206	127	55	24	2		3	35	1	25	28	33	127
12	産業工芸	70	24	35	11			2	12		4	6		24
	産業情報	121	107	12	2	2			24	3	21	32	25	107
	計	191	131	47	13	2		2	36	3	25	38	25	131
13	産業造形	50	6	27	17				1		4	1		6
	産業デザイン	27	13	11	3			1	5		3	4		13
	地域ビジネス	127	105	18	4	1		2	19	2	29	24	28	105
	計	204	124	56	24	1		3	25	2	36	29	28	124

区分 年度・学科名	卒業生	就職者	進学・ 研修等	自営・ その他	就職者の内訳								計	
					公務	農林漁業	建設業	製造業	電気・ガ ス・水道	卸売・ 小売業	サービス	その他		
14	産業造形	54	14	27	13	1			2		5	6		14
	産業デザイン	24	11	9	4				4		2	3	2	11
	地域ビジネス	140	110	20	10	3		1	24	1	22	32	27	110
	計	218	135	56	27	4		1	30	1	29	41	29	135
15	産業造形	54	27	23	4				15		8	4		27
	産業デザイン	23	12	11					6		2	3	1	12
	地域ビジネス	138	109	23	6	3		4	17	1	29	23	32	109
	計	215	148	57	10	3		4	38	1	39	30	33	148
16	産業造形	54	19	29	6			3	8		5	1	2	19
	産業デザイン	25	11	12	2				5			4	2	11
	地域ビジネス	126	104	17	5			3	16	2	26	8	49	104
	計	205	134	58	13			6	29	2	31	13	53	134

3.4.6.2 専攻科

区分 年度・専攻名	修了者	就職者	進学・ 研修等	自営・ その他	就職者の内訳								計	
					公務	農林漁業	建設業	製造業	電気・ガ ス・水道	卸売・ 小売業	サービス	その他		
平成5	地域産業	10	7	2	1			1	6					7
6	地域産業	12	4	2	6				4					4
8	産業造形	15	8	3	4				5		1	1	1	8
	産業デザイン	6	6						4		2			6
	地域ビジネス	4	4						3			1		4
	計	25	18	3	4				12		3	2	1	18
9	産業造形	17	8	1	8	1			4		2	1		8
	産業デザイン	7	6	1					5			1		6
	地域ビジネス	5	5									5		5
	計	29	19	2	8	1			9		2	7		19
10	産業造形	16	9	1	6				8			1		9
	産業デザイン	5	5						1			4		5
	地域ビジネス	1	1									1		1
	計	22	15	1	6				9			6		15
11	産業造形	17	10		7	1			6			3		10
	産業デザイン	6	4		2				2			2		4
	地域ビジネス	5	5						3			2		5
	計	28	19	0	9	1			11			7		19
12	産業造形	19	13	2	4	1			7		3	2		13
	産業デザイン	7	7						2			5		7
	地域ビジネス	6	5		1				2			3		5
	計	32	25	2	5	1			11		3	10		25
13	産業造形	21	11	1	9			1	3		4	3		11
	産業デザイン	7	5		2				5					5
	地域ビジネス	7	5		2	1		1	1			1	1	5
	計	35	21	1	13	1		2	9		4	4	1	21
14	産業造形	20	12	4	4				10		1	1		12
	産業デザイン	8	7		1			1	6					7
	地域ビジネス	4	3		1				1			2		3
	計	32	22	4	6			1	17		1	3		22
15	産業造形	18	9	3	6			1	5		1	2		9
	産業デザイン	8	8						7			1		8
	地域ビジネス	8	5		3			1	1		1		2	5
	計	34	22	3	9			2	13		2	3	2	22
16	産業造形	21	13	3	5				9		1	1	2	13
	産業デザイン	8	7		1				6		1			7
	地域ビジネス	6	3	1	2								3	3
	計	35	23	4	8				15		2	1	5	23

3.4.6.3 専攻科修了者「学士」学位取得状況

平成17年4月28日

専攻名	学区分	年 度	修了者数	申請者数	合格者数	合格率(%)
産業造形	芸術学	8	15	7	5	71
		9	17	17	14	82
		10	16	15	13	87
		11	17	15	15	100
		12	19	18	16	89
		13	21	21	21	100
		14	20	16	16	100
		15	18	18	18	100
産業デザイン	芸術工学	16	21	20	18	90
		8	6	2	2	100
		9	7	5	5	100
		10	5	5	4	80
		11	6	5	5	100
		12	7	6	6	100
		13	7	6	6	100
		14	8	8	8	100
地域ビジネス	経営学	15	8	8	8	100
		16	8	8	8	100
		8	4	4	4	100
		9	5	5	4	80
		10	1	1	1	100
		11	5	5	5	100
		12	6	5	5	100
		13	7	7	6	86
合 計		14	4	4	4	100
		15	8	7	7	100
		16	6	4	4	100
		8	25	13	11	85
		9	29	27	23	85
		10	22	20	17	85
		11	28	25	25	100
		12	32	29	27	93
計		13	35	34	33	97
		14	32	28	28	100
		15	34	33	33	100
		16	35	32	30	94

3.4.7 インターンシップ一覧

年度	専攻(分野)	人数
平成13	産業造形(木材)	1
	産業デザイン	1
14	産業造形(金属)	4
	〃 (漆)	2
	〃 (木材)	3
15	産業造形(木材)	1
	産業デザイン	2
16	産業造形学科 木材コース	2
	産業造形(木材)	1
17	産業デザイン	1

注 専攻科は産業造形専攻(金属、漆、木材)、産業デザイン専攻、地域ビジネス専攻があります。
授業科目 特別講義「インターンシップ」
単位 1週間：1単位
2週間：2単位

3.4.8 留学生の交流状況 (平成17年7月26日現在)

- ・平成8年度から、大連外国語学院との友好協力協定に基づき、短期語学研修を行っている。
- ・平成10年度から、ラハティ・ポリテクニク(フィンランド)との友好協力協定に基づき、留学生の交流を行っている。
- ・平成15年度から、ウエスタンオレゴン大学(米国)との友好協力協定に基づき、留学生の交流及び短期語学研修を開始した。
- ・留学生に対する日本語教育を含む教育指導体制の充実が課題である。

1. 受入外国人留学生数

年度	区 分	学科学生	専攻科学生	特別聴講学生 (ラハティ/テクニク)	研究生	計
平成9		1	1			2
10		2		2		4
11		1		2	1	4
12		2			1	3
13		6		1		7
14		2	2	3		7
15		3	2	2		7
16		1	1	1		3
17		2	3	4	1	10
備考	富山県国際交流奨学金月額1万円/富山県国際理解研究費月額5千円分図書券/私費外国人留学生学習奨励費月額5万2千円					

※全て私費留学生である。

2. 大連外国語学院(中国)との交流

年度	履修者数(人)	備 考
平成8	13	中国語コースのみ
9	15	中国語コースのみ
10	9	中国語コースのみ
11	14	中国語コースのみ
12	20	造形学科6名、中国語コース14名
13	22	造形学科2名、ビジネス学科20名(中国15名)
14	39	造形学科12名、デザイン学科2名、ビジネス学科24名(中国17名)、ビジネス専攻1名
15	0	中止(SARS問題のため)
16	26	ビジネス学科24名(中国24名)、ビジネス専攻2名
17	14	ビジネス学科14名(中国14名)

大連外国語学院において、短期語学研修(19日間)を実施し、学科学生は、中国語海外研修(2又は4単位)、専攻科学生は、海外研修(4単位)として認定している。
・履修者数
※ 16年度より、研修は8月～9月期で実施。

3. ラハティ・ポリテクニク(フィンランド)との交流

1年の期間内で相互に学生の派遣及び受入れを行っている(授業料等不徴収)。

・交流学生数

年度	派遣(人)	受入(人)	備 考
10	0	2	
11	2	2	派遣：専攻科産業造形専攻
12	2	0	派遣：専攻科産業造形専攻
13	2	1	派遣：専攻科産業造形専攻 専攻科産業デザイン専攻
14	3	3	派遣：専攻科産業造形専攻 2名 産業デザイン学科 1名
15	4	2	派遣：専攻科産業造形専攻 3名 産業造形学科 1名
16	2	1(1)	派遣：専攻科産業造形専攻 2名
17	3(1)	4(1)	派遣：専攻科産業造形専攻 3名

※()は、短期留学推進制度(受入・派遣)学生数

4. ウェスタンオレゴン大学(米国)との交流

・履修者数

年度	履修者数(人)	備 考
15	14	デザイン学科2名、ビジネス学科9名(英語6名)、専攻科3名
16	16	地域ビジネス学科16名(英語10名)
17	13	地域ビジネス学科13名(英語11名、経営2名)

平成15年度から、ウェスタンオレゴン大学において、短期語学研修(26~27日間)を実施し、学科学生は特別講義「英語海外研修」(4単位)、専攻科学生は海外研修(4単位)として認定している。

3.4.9 学科教育課程

1 基礎教育科目(産業造形学科, 産業デザイン学科, 地域ビジネス学科共通)

◎：必修科目 ○：選択必修科目 空欄：選択科目

科目のねらい	授業科目	授業方法	単位数	産業造形学科				産業デザイン学科		地域ビジネス学科			
				履修コース				履修コース		履修コース			
				金属工芸	漆工芸	木材工芸	(造形工学)	デザイン	デジタル	経営	情報	国際・英語	国際・中国語
自分を知る	健康	スポーツ健康科学Ⅰ	講義・実技	1									
		スポーツ健康科学Ⅱ	〃	1									
	体育	体育Ⅰ(からだ育て)	〃	1	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		体育Ⅱ(からだ気づき)	〃	1	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
哲学美学	人と文化	講義	2	○									
高短を知る		造形入門	〃	2				*◎	*◎	*◎	*◎	*◎	
		デザイン入門	〃	2	*◎	*◎	*◎	*◎		*◎	*◎	*◎	
		ビジネス入門	〃	2	*◎	*◎	*◎	*◎					
他を知る	言葉でもって	英語の読み方	〃	2	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		英語での表現	〃	2	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		英語会話入門	〃	2		○							
		インターネット利用のための英語	〃	2								○	
		工芸のための英語	〃	2									
		中国語入門	〃	2									
	コンピュータでもって	情報処理入門	〃	2	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		ビジネス情報処理入門	〃	2						◎	◎	◎	
		統計データ分析入門	〃	2							◎		
		CG入門	〃	2					◎				
社会を知る	政治	日本の政治	〃	2									
	法律	市民と法	〃	2					○				
	経済	経済システム	〃	2					○				
	文化	比較文化	〃	2			○				○	○	
	環境	地球環境と人間	〃	2	○						○	○	
	地域・経営	地域産業史	〃	2	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		生産管理	〃	2									
		まちづくり	〃	2									
モノを知る	工芸一般	工芸の世界	〃	2	○	○	○						
	材料	工芸材料	〃	2	○	○							
	色彩	色彩入門	〃	2			○		○				
	建築	人と空間	〃	2									
	技術	科学と技術	〃	2									
		産業デザイン史	〃	2			○		○				
自分を表現する	形態発想	形の発想法	〃	2				○					
	平面・立体表現	造形観察・表現(平面)	演習	2	◎	◎	◎	◎	○				
		造形観察・表現(立体)	〃	2		○			○				
	図学	図法と製図	講義	2	○	○							
		図学	〃	2			○		○				
	プレゼンテーション	〃	2	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
自分を役立たせる	経営実務	企業経営入門	〃	2					○	○	○	○	
	会計情報	企業会計	〃	2					○	○			
	経営情報	経営情報システム	〃	2					○	○	○	○	
	マーケティング	マーケティング	〃	2			○		○	○	○	○	
				必修	16	16	16	16	16	14	14	14	14
				選必	6	6	6	6	6	8	8	8	8
				選択	8以上	8以上	8以上	8以上	8以上	8以上	8以上	8以上	8以上
				計	30以上	30以上	30以上	30以上	30以上	30以上	30以上	30以上	30以上

- (注) 1 この表に掲げる授業科目のほか、「特別講義」を設けることができるとし、講義名及び単位数はその都度定める。
 2 造形工学コースにおいては、入学時におけるコースがいずれであるかにより、選択必修科目が異なる。
 3 選択必修科目において、卒業所要単位数を超えて履修した場合は選択科目として取り扱う。
 4 *造形入門、デザイン入門及びビジネス入門については、所属する学科以外の1科目を必修とし、他は選択科目として取り扱う。

2 専門教育科目

(1) 産業造形学科

◎：必修科目 ○：選択必修科目 空欄：選択科目

授 業 科 目	授 業 方 法	単 位 数	履修コース			
			金 属 工 芸	漆 工 芸	木 材 工 芸	(造 形 工 学)
卒業研究・制作	実習	6	◎	◎	◎	◎
金属学入門	講義	2	◎			
鋳金加工法	〃	2	◎			
彫鍛金加工法	〃	2	◎			
込型鋳造	実習	2	◎			
彫金	〃	2	◎			
鍛金	〃	2	◎			
金属材料	講義	2	○			
金属工学基礎加工	実習	2	○			
生型鋳造	〃	2	○			
蝟型鋳造	〃	2	○			
装身具入門	〃	2	○			
原型制作	〃	2	◎			
金属工学史	講義	2				
金属加工法	〃	2				
金属表面処理	〃	2				
金属工学研修	職習	2				
漆工芸史	講義	2		◎		
漆工制作法	演習	2		◎		
漆工素地制作	実習	2		◎		
漆塗装	〃	2		◎		
蒔絵	〃	2		◎		
螺鈿	〃	2		○		
漆工技法・材料	講義	2		○		
化学塗料	〃	2		○		
化学塗装	演習	2		○		
スクリーン印刷	〃	2		○		
変わり塗り	実習	2		○		
漆工芸研修	演習	2		○		
木材の性質	講義	2			◎	
家具構法	〃	2			◎	
手道具での加工	演習	2			◎	
木工機械での加工	実習	2			◎	
室内設計製図	〃	2			◎	
家具制作	〃	2			◎	
加工機械の安全操作	講義	2	○	○	○	
室内計画	〃	2			○	
製品計画	〃	2			○	
木材造形の基礎	講義	2			○	
挽物	実習	2			○	
木彫	〃	2			○	
木材実験	実験	2				
構造設計	講義	2				
建築計画	〃	2				
造形工学基礎	〃	2				◎
造形工学実験	実験	2				◎
卒業所要単位数	必修	20	16	18	18	
	選必	6	10	8	8	
	選択	8以上	8以上	8以上	8以上	
	計	34以上	34以上	34以上	34以上	

- (注) 1 この表に掲げる授業科目のほか、「特別講義」を設けることができることとし、講義名及び単位数はその都度定める。
 2 造形工学コースは、副として履修するコースであり、主として履修する金属工学、漆工学、木材工学の各コースのいずれかにより、必修科目及び選択必修科目が異なる。
 3 選択必修科目において、卒業所要単位数を超えて履修した場合は選択科目として取り扱う。

(2) 産業デザイン学科

◎：必修科目 ○：選択必修科目 空欄：選択科目

授 業 科 目	授 業 方 法	単 位 数	履修コース	
			デブ プロ ダク ト	デジ タ ル
卒業研究・制作	実 習	6	◎	◎
デザイン材料	講 義	2	◎	◎
形の発想とデザイン	実 習	2	◎	◎
デザイン基礎表現	演 習	2	◎	◎
デザインプレゼンテーション	〃	2	◎	◎
製品デザイン	実 習	2	◎	
CI デザイン	〃	2		◎
プロダクト基礎表現	演 習	2	○	○
ビジュアル基礎表現	〃	2	○	○
広告デザイン	〃	2		○
製図	〃	2	○	○
タイポグラフィ	〃	2	○	○
リビングデザイン	〃	2	○	
CG デザイン	〃	2	○	○
CG 応用デザイン	〃	2	○	○
デザインの進め方	〃	2		
インターフェースデザイン	〃	2		
パブリックスペース	〃	2		
化学塗装	〃	2		
スクリーン印刷	〃	2		
木工機械での加工	実 習	2		
構造設計	講 義	2		
加工機械の安全操作	〃	2		
室内計画	〃	2		
装身具入門	実 習	2		
造形工学基礎	講 義	2		
造形工学実験	実 験	2		
卒業所要単位数	必修	16	16	
	選必	8	8	
	選択	10以上	10以上	
	計	34以上	34以上	

- (注) 1 この表に掲げる授業科目のほか、「特別講義」を設けることができることとし、講義名及び単位数はその都度定める。
 2 選択必修科目において、卒業所要単位数を超えて履修した場合は選択科目として取り扱う。

(3) 地域ビジネス学科

◎：必修科目 ○：選択必修科目 空欄：選択科目

授 業 科 目	授 業 方 法	単 位 数	履修コース			
			経 営	情 報	国際・英語	国際・中国語
卒業研究	演習	4	◎	◎	◎	◎
国際ビジネス	講義	2	○			
企業分析	〃	2	○			
コンピュータ会計	〃	2	○			
需要予測	〃	2	○			
ビジネス法	〃	2	○			
社会環境と産業	〃	2	○			
簿記入門	〃	2	○			
中級簿記	〃	2				
経営管理	〃	2	○			
現代の企業経営	〃	2	○			
管理会計	〃	2	○			
国際経済	〃	2	○			
ビジネス情報処理	〃	2	○	○		
地域経済	〃	2				
中小企業経営	〃	2				
欧米企業の経営戦略	〃	2				
プログラミング基礎	〃	4		◎		
コンピュータの基礎	〃	2		◎		
コンピュータの処理機構	〃	2		◎		
情報ネットワーク	〃	2		○		
イントラネット	〃	2		○		
システム思考法	〃	2		○		
C プログラミング初級	〃	2		○		
C プログラミング中級	〃	2		○		
ビジュアルプログラミング基礎	〃	2		○		
ビジュアルプログラミング応用	〃	2		○		
ビジネスプログラミング	〃	2		○		
アルゴリズムとデータ構造	〃	2		○		
ソフトウェア開発技法	〃	2		○		
データベース設計	〃	2		○		
英語会話基礎	〃	2	○		◎	
英語会話中級	〃	2			◎	
英語講読基礎	〃	2			◎	
英語作文基礎	〃	2			◎	
時事英語基礎	〃	2			◎	
ビジネスライティング	〃	2			◎	
英語音声演習基礎	〃	2			◎	
英語会話上級	〃	2			◎	
英語講読上級	〃	2			◎	
英語作文上級	〃	2			○	
時事英語上級	〃	2			○	
英語音声演習上級	〃	2			○	
英米の社会と文化	〃	2			○	
検定英語	〃	2			○	
国際コミュニケーション	〃	2				
ポップスと映画の英語	〃	2				
基礎中国語 A	〃	2				*◎
基礎中国語 B	〃	2				*◎
基礎中国語 C	〃	2				*◎
中国語理解初級	〃	2				○
中国語理解中級	〃	2				○
中国語表現初級	〃	2				○
中国語表現中級	〃	2				○
応用中国語 A	〃	2				*◎
応用中国語 B	〃	2				*◎
応用中国語 C	〃	2				*◎

授 業 科 目	授 業 方 法	単 位 数	履修コース			
			経 営	情 報	国際・英語	国際・中国語
中国語プレゼンテーション初級	〃	2				○
中国語プレゼンテーション中級	〃	2				○
時事中国語	〃	2				○
中国文化史	〃	2				○
中国近代の歩み	〃	2				○
中国研究基礎Ⅰ	〃	2				
中国研究基礎Ⅱ	〃	2				
ビジネス中国語	〃	2				
中国語海外研修	〃	4又は				
卒 業 所 要 単 位 数	必修	4	12	22	10	
	選必	22	14	4	16	
	選択	8以上	8以上	8以上	8以上	
	計	34以上	34以上	34以上	34以上	

- (注) 1 この表に掲げる授業科目のほか、「特別講義」を設けることができることとし、講義名及び単位数はその都度定める。
 2 中国語海外研修は、国際・中国語を履修コースとする学生は4単位、他の履修コースの学生は2単位として開講する。
 3 選択必修科目において、卒業所要単位数を超えて履修した場合は選択科目として取り扱う。
 4 *「基礎中国語(A、B、C)」及び※「応用中国語(A、B、C)」は、どちらか一方を必修とし、他は選択科目として取り扱う。
 5 ※「応用中国語(A、B、C)」は中国語既習者を対象とする。

3.4.10 専攻教育課程

1 基礎科目(産業造形専攻、産業デザイン専攻、地域ビジネス専攻)

◎：必修科目 ○：選択必修科目 空欄：選択科目

授 業 科 目	授 業 方 法	単 位 数	産 業 造 形 専 攻		産 業 デ ザ イン 専 攻	地 域 ビ ジ ネ ス 専 攻
			工 芸 を 主 と し て 学 習 す る 場 合	工 学 を 主 と し て 学 習 す る 場 合		
美術概論	講義	2	○	○		
日本美術史	〃	2	○	○		
西洋美術史	〃	2	○	○		
科学技術論	〃	2	○	○		○
知的所有権法規	〃	2	○	○		○
CG 演習 I	演習	2	○	○	◎	
CG 演習 II	演習	2	○	○	◎	
外国語文献講読 A	講義	2	○	◎	◎	◎
外国語文献講読 B	〃	2	○	◎	◎	◎
色彩学	〃	2	○	○		
造形工学	演習	2	○	○		
ライフスタイル	講義	2	○	○		○
地域企業経営	〃	2	○	○		
工芸科教育法	〃	2	○	○		
美術科教育法	〃	2	○	○		
地域経済分析	〃	2				○
時事英語研究	〃	2				○
時事中国語研究	〃	2				○
ビジネス中国語研究	〃	2				○
世界の英語	〃	2				○
英米文化研究	〃	2				○
総合中国語初級	〃	2				○
総合中国語中級	〃	2				○
中国語理解上級	〃	2				○
中国語表現上級	〃	2				○
修了所要単位数	必修	－	4	8	4	
	選必	10	6	－	8	
	選択	6 以上	6 以上	8 以上	4 以上	
	計	16以上	16以上	16以上	16以上	

(注) 選択必修科目において、修了所要単位数を超えて履修した場合は選択科目として取り扱う。

2 専門科目

(1) 産業造形専攻

① 工芸を主として学修する学生対象の授業科目等

授 業 科 目	授 業 方 法	単 位 数	区 別		修 了 所 要 単 位 数
			必 修	選 択	
修了制作・研究	演習	8	8		46 単 位 以 上
金属工芸演習	〃	2	8 うちから1分野を選択する	16	
漆工芸演習	〃	2			
木材工芸演習	〃	2			
造形工芸実習(金属)Ⅰ	実習	2			
造形工芸実習(金属)Ⅱ	〃	4			
造形工芸実習(漆)Ⅰ	〃	2			
造形工芸実習(漆)Ⅱ	〃	4			
造形工芸実習(木材)Ⅰ	〃	2			
造形工芸実習(木材)Ⅱ	〃	4			
造形材料学(金属)Ⅰ	講義	2			
造形材料学(金属)Ⅱ	〃	2		2	
造形材料学(漆)Ⅰ	〃	2		2	
造形材料学(漆)Ⅱ	〃	2		2	
造形材料学(木材)Ⅰ	〃	2		2	
造形材料学(木材)Ⅱ	〃	2		2	
造形材料実験(金属)Ⅰ	実験	4		4	
造形材料実験(金属)Ⅱ	〃	4		4	
造形材料実験(漆)Ⅰ	〃	4		4	
造形材料実験(漆)Ⅱ	〃	4		4	
造形材料実験(木材)Ⅰ	〃	4		4	
造形材料実験(木材)Ⅱ	〃	4		4	
平面表現演習	演習	2		2	
立体表現演習	〃	2		2	
総合工芸演習	〃	2		2	
造形発想	講義	2		2	
複合造形	実習	2		2	
材料力学	講義	2		2	
人間工学	〃	2		2	
空間デザイン論	〃	2		2	
接着	〃	2		2	
姿勢保持デザイン	〃	2		2	
家具の製造原価計算	〃	2		2	
現代の工芸	〃	2		2	
金属工芸制作法	演習	2		2	
漆工芸制作法	〃	2		2	
木材工芸制作法	〃	2		2	

(注) 1 専門科目のうちで、ⅠとⅡが開講される授業科目は、Ⅰを履修しその単位を修得しなければ、Ⅱを履修することはできない。

2 専門科目においては、この表に掲げる授業科目のほか、「特別講義」を設けることができるとし、講義名及び単位数はその都度定める。

② 工学を主として学修する学生対象の授業科目等

授 業 科 目	授 業 方 法	単 位 数	区 別		修 了 所 要 単 位 数		
			必 修	選 択			
修了制作・研究	演習	8	8		46 単 位 以 上		
金属工芸演習	〃	2		2			
漆工芸演習	〃	2		2			
木材工芸演習	〃	2		2			
造形工芸実習(金属)Ⅰ	実習	2		2			
造形工芸実習(金属)Ⅱ	〃	4		4			
造形工芸実習(漆)Ⅰ	〃	2		2			
造形工芸実習(漆)Ⅱ	〃	4		4			
造形工芸実習(木材)Ⅰ	〃	2		2			
造形工芸実習(木材)Ⅱ	〃	4		4			
造形材料学(金属)Ⅰ	講義	2	8 分野のうちから2分野を選択する	4			
造形材料学(金属)Ⅱ	〃	2					
造形材料学(漆)Ⅰ	〃	2					
造形材料学(漆)Ⅱ	〃	2					
造形材料学(木材)Ⅰ	〃	2					
造形材料学(木材)Ⅱ	〃	2					
造形材料実験(金属)Ⅰ	実験	4				8 分野のうちから1分野を選択する	16
造形材料実験(金属)Ⅱ	〃	4					
造形材料実験(漆)Ⅰ	〃	4					
造形材料実験(漆)Ⅱ	〃	4					
造形材料実験(木材)Ⅰ	〃	4					
造形材料実験(木材)Ⅱ	〃	4					
平面表現演習	演習	2		2			
立体表現演習	〃	2		2			
総合工芸演習	〃	2		2			
造形発想	講義	2		2			
複合造形	実習	2		2			
材料力学	講義	2		2			
人間工学	〃	2		2			
空間デザイン論	〃	2		2			
接着	〃	2		2			
姿勢保持デザイン	〃	2		2			
家具の製造原価計算	〃	2		2			
現代の工芸	〃	2		2			
金属工芸制作法	演習	2		2			
漆工芸制作法	〃	2		2			
木材工芸制作法	〃	2		2			

(注) 1 専門科目のうちで、ⅠとⅡが開講される授業科目は、Ⅰを履修しその単位を修得しなければ、Ⅱを履修することはできない。

2 専門科目の「造形材料実験」は造形材料学で選択した2分野のうちから1分野を選択しなければならない。

3 専門科目においては、この表に掲げる授業科目のほか、「特別講義」を設けることができるとし、講義名及び単位数はその都度定める。

(2) 産業デザイン専攻

授 業 科 目	授 業 方 法	単 位 数	区 別		修了所要単位数
			必 修	選 択	
特別研究	演習	8	8		46 単 位 以 上
総合デザイン実習Ⅰ	実習	4	4		
総合デザイン実習Ⅱ	〃	4	4		
デザイン表現演習(平面)	演習	2	2		
デザイン表現演習(立体)	〃	2	2		
形態発想特論	講義	4		4	
デザインリサーチ論	〃	2		2	
製品評価法	〃	2		2	
画像情報処理実習	実習	2		2	
音響情報処理実習	〃	2		2	
インテリア材料学	講義	2		2	
構造計画論	〃	2		2	
産業デザイン史特論	〃	2		2	
グラフィックデザイン論	〃	2		2	
グラフィックデザイン演習	演習	2		2	
材料力学	講義	2		2	
人間工学	〃	2		2	
設計製図	演習	2		2	
空間デザイン論	講義	2		2	
空間デザイン実習	実習	2		2	
デザイン法規	講義	2		2	
住居論	〃	2		2	

(注)専門科目においては、この表に掲げる授業科目のほか、「特別講義」を設けることができるとし、講義名及び単位数はその都度定める。

(3)地域ビジネス専攻

授 業 科 目	授 業 方 法	単 位 数	区 別		修了所要単位数
			必 修	選 択	
特別研究	演習	8	8		46 単 位 以 上
地域ビジネス演習	〃	4	4		
経営情報	講義	2		2	
地域企業経営論	〃	2		2	
経営システム	〃	2		2	
経営戦略	〃	2		2	
財務会計	〃	2		2	
企業財務	〃	2		2	
管理会計論	〃	2		2	
原価管理	〃	2		2	
流通経済	〃	2		2	
マーケティング・マネジメント	〃	2		2	
生産マネジメント	〃	2		2	
物流システム	〃	2		2	
知識ベース管理	〃	2		2	
応用ビジネス情報処理	〃	2		2	
ビジネス・リエンジニアリング	〃	2		2	
エンドユーザコンピューティング	〃	2		2	
インターネット技術	〃	2		2	
応用ソフトウェア開発	演習	2		2	
応用データベース	講義	2		2	
特定産業英語研究	〃	2		2	
検定英語中級	〃	2		2	
欧米のニュービジネス理解	〃	2		2	
英語によるアジア事情理解	〃	2		2	
中国経済	〃	2		2	
中国ビジネス概論	〃	2		2	
海外研修	〃	4		4	

(注)専門科目においては、この表に掲げる授業科目のほか、「特別講義」を設けることができるとし、講義名及び単位数はその都度定める。

3.4.11 入試日程(後期)

種類	年度													
	H7年度 (H6年度実施)	8 (H7)	9 (H8)	10 (H9)	11 (H10)		12 (H11)	13 (H12)		14 (H13)	15 (H14)	16 (H15)	17 (H16)	18 (H17)
推薦、帰国・社会人	11月	11月	11月	11月	11月		11月	11月		11月	11月	11月	11月	
一般選抜・私費留学生	2月	2月	2月	2月	2月		2月	2月		2月	2月	2月	2月	
専攻科(一次)		11月	10月	10月	10月	専攻科 (秋期)	10月	10月	専攻科 (夏期)	7月	7月	7月	7月	7月
専攻科(二次)	2月	3月	1月	1月	1月	専攻科 (冬期)	1月	1月	専攻科 (秋期)	10月	10月			
									専攻科 (冬期)	1月	1月	1月	1月	1月

3.4.12 行事日程(後期)

1. 創己祭(学園祭)

創己祭は毎年10月下旬から11月上旬の土、日曜日の2日間で実施された。

回(平成年度)	テ　　マ	イ　ベ　ン　ト
8(5)		
9(6)	高岡の力こぶ	フリマ、仮装大会、模擬店、化粧講習会等
10(7)	青春チキンレース	フリマ、模擬店、チキンレース、ライブ等
11(8)	ハッスルスル	フリマ、ライブ、模擬店、作品展示等
12(9)		
13(10)	高岡ビックバン	ライブ、チキンレース、模擬店、ゲーム等
14(11)	たん・たん・たかたん♪～高短交響曲 序章～	ライブ、模擬店、ゲーム等
15(12)		
16(13)	響きだしたらとまらない	ライブ、劇、映画上映、模擬店等
17(14)	アレを超えろ	ダックレース、模擬店、サークル発表等
18(15)	花火	ライブ、模擬店、サークル発表等
19(16)	BROTHERS	ライブ、模擬店、サークル発表等
20(17)	創	ライブ、模擬店、サークル発表等

2. 新入生合宿研修

新入生合宿研修は全新生生に対して、大学での学習計画、学生生活などに対するガイダンスを行うものであり、入学式後、国立立山少年自然の家で毎年実施した。

3. 厚生補導研究会

厚生補導研究会は、学生たちが安全に、かつ快適な学生生活を過ごすにはどのような工夫が必要か、を多角的な見地から検討する研究会であり、毎年12月から1月の間に、1泊2日をかけて実施した。

4. サークルリーダー研修会

サークルリーダー研修会は、学生たちのサークル活動を正常かつ活性化させるために、各サークルのリーダーを集め、リーダーとしての自覚を高めさせ、また所属するサークルの活性化を図るための方策を話し合うものである。研修会は国立のと青年の家等で1泊2日をかけて実施した。

3.5 事業課

3.5.1 公開講座(後期)

年度	講座名	受講人員
平成五	造形研究Ⅰ -人体をモチーフとして(骨格を意識する)-	15
	造形研究Ⅱ -金属工芸の基本技法-(彫金)-	10
	小売業の経営戦略 -21世紀に向けての戦略事務-	5
	産業と教育 -教育の現場から-	23
	漢字新聞の読み方	22
	ワープロによる中国語講座(初級)	16
	「うるし」でもの造り -木地溜塗り漆絵鉢を作る-	15
	クリエイティブ・ムーブメント -障害者と共 にからだを解き放し、心を遊ばせる-	24
	パソコン通信入門講座	24
	環境を考える	12
イタリアの都市と広場・彫刻	23	
六	造形研究Ⅰ -人体をモチーフとして(人体の構成を考える)-	14
	造形研究Ⅱ -金属工芸の基本技法(蠟型鑄造、コンピュータ・真鍮の鑄造)-	15
	中国語会話入門講座	20
	情報処理技術者養成講座	17
	暮らしの中のコンピュータ利用 -栄養管理-	18
	色彩学 -色彩学と現代生活の影響-	37
	わたしの生活に必要なもの -木を使った制作-	10
	テンペラ画入門講座	15
	英語でアメリカ演劇を読む	11
	英語のファースト・ネーム A to Z	20
パソコン通信入門講座 -未経験者・初心者 のための-	18	
七	造形研究Ⅰ -人体をモチーフとして(人体を 量としてとらえる)-	28
	造形研究Ⅱ -金属工芸のまとめ-	15
	シスアド技術者養成講座	19
	東アジアの女性観・子ども観 -主に中国の文 学作品を通じて-	16
	木工ろくろと挽物技法 -木器-をつくる-	10
	「うるし」でもの造りパート3 -朱塗り漆碗を作る-	18
	中堅経理マンの経理の勘どころ	19
	テンペラ画入門講座	20
	インテリアデザイン入門講座	18
	英会話講座 -英会話と健康法-	23
パソコンによるマルチメディア入門講座	15	
八	造形研究 -人体をモチーフとして(感情と表現)-	17
	中国古代の鑄造技法を探る (考察と鑄造実験)	12
	インテリアデザイン講座	23
	心地よいからだをつくらう -ダンス・セラピー-	33
	わたしの生活に必要なもの -木を使った制作-	11
	いんぐりっしゅ・わらえてい -英語のジョーク とことば遊び-	12
	「うるし」でもの造りパート4 -変わり塗り トレーを作る-	19
	楽しいパソコン入門講座	35
	中国語会話速修講座	25
	テンペラ画入門講座	15

年度	講座名	受講人員
	造形研究 -人体をモチーフとして(着衣の人体を制作する)-	15
	インターネットホームページ作成講座	24
九	伝統的蠟型鑄造による器 (香炉)制作	12
	造形研究 -人体をモチーフとして(座像をつくる)-	16
	UNIX 環境での画像処理基礎実験	6
	ビジネスにおける情報処理入門 -表計算・ データベースの活用-	25
	水中運動とリラククス	17
	楽しいパソコン入門講座	29
	木工ろくろと挽物技法 -木器をつくる-	10
	高岡考現学	12
	簿記入門講座	23
	インターネットホームページ作成講座	23
テンペラ画入門講座	14	
続・映画と英語	33	
原形制作Ⅱ	19	
十	鍛金 -銀でカップを造る-	10
	造形研究 -人体をモチーフとして-	9
	木造建築(住宅)の基礎知識	10
	教員のためのパソコン初級講座	17
	ビジネスにおける情報処理入門 -表計算・ データベースの活用-	10
	理解を得るためのマルチメディア・プレゼン テーション技法	10
	インターネットとホームページ -地域活性へ の支援講座-	32
	木を使った制作 -身近な小物製作-	8
	「うるし」でもの造りパート5 -平蒔絵小皿を作る-	19
	テンペラ画入門講座	17
インターネットホームページ作成講座	13	
アメリカ文学と文学理論への招待	4	
原形制作Ⅲ	21	
十一	「うるし」でもの造りパート6 -曲輪造り弁 当箱を作る-	14
	パソコンを活用したグラフィックデザイン	19
	中国語会話速修講座	34
	やさしい翻訳入門	13
	水中運動とリラククスⅡ	12
	装身具 -彫金-	10
	教員のためのパソコン初級講座	22
	木工の基礎技法 -木工ろくろ-	10
	テンペラ画入門講座	19
	理解を得るための マルチメディア・プレゼン テーション技法	6
Javascript プログラミング講座	9	
アメリカの日常生活に於ける英会話	15	
造形研究 -人体をモチーフとして-	18	
営業技術マンのための建築講座	15	
ビジネスにおける情報処理 -応用から始める 表計算入門-	18	
原形制作Ⅳ	25	

年度	講座名	受講人員
平成十二	「うるし」でもの造り 一乾漆技法で菓子盆を作る	19
	パソコンを活用したグラフィックデザイン	24
	中国語で中国を知る	17
	健康水中ウォークとリラックス	15
	身近な木製小物の製作	11
	中高年のためのやさしいパソコン入門	20
	イタリア式石膏鑄造の基礎技法	10
	企業人のためのウインドウズ・プログラミング(VB基礎)	12
	イソップで英語のリフレッシュ	11
	教員のための Excel VBA プログラミング講座	10
	表計算応用講座	16
	鍛金 一器を造る	7
	テンペラ画入門講座	21
	造形研究 一人体をモチーフとして	18
彫刻を造る 一人体をモチーフとして	24	
十三	公開授業「ライフスタイル」 一ライフスタイルと価値観の研究	9
	パソコンを活用したグラフィックデザイン	22
	市民が手がけるまちづくり	20
	「うるし」でもの造り 一自由な発想で漆小物を造る	15
	バリアフリーからユニバーサルデザイン	6
	公開授業「経済システム」 一これからの暮らしと経済	16
	シェイプアップスイミング 一あなたの泳ぎを磨いてみませんか	10
	中高年のためのやさしいパソコン入門	26
	造形研究(前期) 一人体をモチーフとして	21
	Windows プログラミング(VB入門)	13
	木工の基礎技法 一木工ろくろ	10
	テンペラ画入門講座	20
	装身具	10
	造形研究(後期) 一人体をモチーフとして	13
英語で語る身近な日本	15	
心地よいからだをつくらう 一ボディ・アウェアネス	6	
機械金属工業のための表面改質	13	
十四	公開授業「ライフスタイル」 一ライフスタイルと価値観の研究	9
	メディア中国語	9
	パソコンを活用したグラフィックデザイン	18
	パッケージデザインとは	8
	利長が開き利常が育てた「高岡」	13
	ものづくりのための抽写教室	30
	デジタル・プレゼンテーション	22
	資産運用のすすめ	38
	造形研究(前期) 一人体をモチーフとして	20
	中高年のためのやさしいパソコン入門	24
	デジタル・プレゼンテーション(速習版)	10
	小型木工機械による木工入門	19
	遠心精密鑄造で作る銀のアクセサリ	20
	デジタル・プレゼンテーション(速習版)	14
	「うるし」でもの造り 一堆朱の香合の制作	11
	「鍛金」 一おもてなしの器を造る	8
	シニアスポーツ健康大学	8
	「現代生活と著作権」 一著作権の基礎知識	7
	テンペラ画入門	15
	造形研究(後期) 一人体をモチーフとして	16
	アメリカの日常生活に応じる英会話	14
	Internet のための英語	7

年度	講座名	受講人員
十五	Excel VBA プログラミング講座	15
	公開授業「金属工芸史」	2
	ライフスタイル(公開授業)	5
	日商簿記検定1級入門講座	2
	海外旅行の英会話	12
	社会人のための英会話	8
	速修基礎中国語	19
	パソコンを活用したグラフィックデザイン	23
	小型木工機械による木工入門(続編) 一卓袱台(ちゃぶだい)に挑戦しよう	14
	圧迫鑄造による銀の指輪作り (小杉高等学校生徒対称)	11
	海外旅行の英会話(2)	11
	造形研究(前期) 一人体をモチーフとして	18
	中高年のためのやさしいパソコン入門	20
	無鉛高錫青銅の熱処理技術実習 一ミソ焼き法による銀白色変化と焼入れ法による割れやすさの改善	13
遠心精密鑄造で作る銀のアクセサリ	11	
考古学のための青銅鏡制作	18	
教員のためのデジタル・プレゼンテーション(A日程)	19	
教員のためのデジタル・プレゼンテーション(B日程)	22	
木工の基礎技法 一木工ろくろ	7	
生活に役立つ漆の技術 一金接ぎと摺り漆	17	
木工「小棚の制作」 一暮らしを飾る	5	
新聞・インターネットで学ぶ著作権	5	
シニアスポーツ健康教室Ⅱ	4	
医療従事者のための中国語入門講座	4	
テンペラ画入門	17	
造形研究(後期) 一人体をモチーフとして	14	
Excel VBA プログラミング講座	12	
金属工芸史 (公開授業)	2	
海外旅行の英会話(3)	9	
アメリカ映画での語学習得と世界の文化の理解	4	
日商簿記検定3級受験講座	6	
金型の表面改質技術とその評価法	9	
日商簿記検定2級受験講座	7	
十六	初心者のための CAD 入門	21
	小型木工機械による木工入門(続編その2) 一椅子に挑戦しよう	16
	木工の基礎技法講座 一トレー・器の制作	15
	造形研究(前期) 一人体をモチーフとして(Aコース)	6
	造形研究(前期) 一人体をモチーフとして(Bコース)	16
	遠心精密鑄造で作る銀のアクセサリ	7
	うるしで絵を描く 一金胎漆パネルと額の制作	10
	造形研究(後期) 一人体をモチーフとして(Aコース)	1
	造形研究(後期) 一人体をモチーフとして(Bコース)	17
	鍛金(手絞り) 一扇幼と透かし模様的小物入れ	9
	パソコンを活用したグラフィックデザイン	14
	中高年のためのやさしいパソコン入門	25
	Excel VBA プログラミング講座	14
	やさしい英会話 一海外旅行で使える英語	18
社会人のための英会話	9	
味読中国小説・獲得中国知識	12	
日商簿記検定3級受験講座	14	
日商簿記検定2級受験講座(工業簿記)	8	
日商簿記検定2級受験講座(商業簿記)	6	
高岡のまちづくり	13	
中国古代青銅器から学ぶもの 一三星堆青銅仮面の分鈔・青銅器金文の鑄造・青銅鏡の熱処理について	27	
やさしい英会話(2) 一海外旅行で使える英語	17	

年度	講座名	受講人員
平成十六	青銅のキーホルダーをつくろうー蠟型鑄造の体験ー	48
	圧迫鑄造による銀の指輪作り (小杉高等学校生対称)	10
	中国語とその背景研究 (小杉高等学校生対称)	7
	デザイン (富山北部高等学校生対称)	10
	情報処理 (高岡市立看護学校生対称)	47
十七	漆碗の制作	16
	富山のまちづくり	27
	小型木工機械による木工入門(続編その3)ー照明器具に挑戦しようー	15
	木製の北風風カップ制作	25
	造形研究(前期)ー人体をモチーフとしてー(Aコース)	7
	造形研究(前期)ー人体をモチーフとしてー(Bコース)	17
	精密鑄造で作る小物	8
	テンペラ画入門 Aコース	9

年度	講座名	受講人員
十七	テンペラ画入門 Bコース	10
	造形研究(後期)ー人体をモチーフとしてー(Aコース)	1
	造形研究(後期)ー人体をモチーフとしてー(Bコース)	16
	やさしい英会話ー海外旅行で使える英語ー	16
	中高年のための CAD 入門	17
	パソコンを活用したグラフィックデザイン	13
	初心者のための CAD 入門	17
	中高年のためのやさしい表計算入門	19
	日商簿記検定 3 級受験講座	未定
	日商簿記検定 2 級受験講座(工業簿記)	未定
	日商簿記検定 2 級受験講座(商業簿記)	未定
	圧迫鑄造による銀の指輪作り(小杉高等学校生対称)	11
	デザイン(富山北部高等学校生対称)	10
	情報処理(高岡市立看護学校生対称)	26

3.5.2 施設開放状況(後期)

(平成17年7月15日現在)

年 度	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
テニスコート	98	118	231	210	339	310	357	356	354	476	723	801	374
グラウンド	39	57	134	79	88	106	151	120	44	50	17	12	6
体育館	4	4	8	24	88	77	16	35	11	10	15	20	5
講 堂	5	2	3	4	6	14	11	8	12	11	12	10	5
講義室等	6	3	4	3	3	17	22	43	55	21	14	8	6
計	152	184	380	320	524	524	557	562	476	568	781	851	396

- ・グラウンドやテニスコートは、大会等のイベントの他、定期的な練習のために使用されています。
- ・講堂(定員406名)や講義室等も講演会や研修会のために使用されています。

3.5.3 展示公開事業(後期)

年度	展 示 名 称	会 場		会 期	
		平成	平成	平成	平成
平成五	第8回産業デザイン専攻作品展(NEED'93-NICE なイスたち)	5.4.22	5.4.28	～	5.4.28
	高岡短期大学開学10周年記念展ー教育とその成果ー	5.10.1	5.10.5	～	5.10.5
	第9回金属工芸専攻作品展	5.10.8	5.10.13	～	5.10.13
	第7回漆工芸専攻作品展	5.10.15	5.10.20	～	5.10.20
	第9回回木材工芸専攻作品展(樹木との語らい展)	5.10.22	5.10.27	～	5.10.27
	平成5年度常設展示	5.11.1	6.1.31	～	6.1.31
	第3回工芸三機関合同展ー用と美の世界ー	5.11.10	5.11.14	～	5.11.14
	清水克朗鑄金展	5.11.20	5.11.24	～	5.11.24
	デザイン技法Ⅲ(演習)評価展示	5.11.25	5.12.2	～	5.12.2
六	第7回高岡短期大学産業工芸学科卒業制作展	学外展: 6.2.10	6.2.14	～	6.2.14
		学内展: 6.3.12	6.3.18	～	6.3.18
	第9回産業デザイン専攻学生作品展(NEED'94-いっしょにつれてっ展)	6.4.14	6.4.21	～	6.4.21
	ウィーン市集合住宅富山展	6.4.22	6.4.24	～	6.4.24
	金属工芸展	6.5.20	6.5.29	～	6.5.29
	平成6年度常設展示	6.6.1	6.8.31	～	6.8.31
	第10回木材工芸専攻学生作品展(樹木との語らい展)	6.10.7	6.10.12	～	6.10.12
	第10回金属工芸専攻学生作品展	6.10.14	6.10.19	～	6.10.19
	第8回漆工芸専攻学生作品展	6.10.21	6.10.26	～	6.10.26
産業デザイン専攻デザイン技法評価展	6.10.28	6.11.7	～	6.11.7	
第4回工芸三機関合同展ー芸術と技術の融和ー	6.11.9	6.11.13	～	6.11.13	

年度	展 示 名 称	会 場	会 期
			平成 平成
平成六	写真にみる木造体育館の温もり展		6.12.12 ~ 6.12.15
	麻生三郎教授退官記念作品展		7.2.8 ~ 7.2.14
	第8回高岡短期大学産業工芸学科卒業制作展	学外展： 学内展：	7.3.8 ~ 7.3.12 7.3.14 ~ 7.3.20
七	第10回産業デザイン専攻学生作品展(NEED'95-カセットコンロ展)		7.4.14 ~ 7.4.21
	平成7年度常設展示		7.6.7 ~ 7.8.10
	第9回漆工芸専攻学生作品展		7.10.6 ~ 7.10.11
	情報処理基礎Ⅰ総合課題作品展		7.10.9 ~ 7.10.20
	第11回木材工芸専攻学生作品展(樹木との語らい展)		7.10.13 ~ 7.10.18
	第11回金属工芸専攻学生作品展		7.10.20 ~ 7.10.25
	伝統行事にみる盤持ちと力石展		7.11.13 ~ 7.11.17
	産業デザイン専攻デザイン技法評価展		7.11.28 ~ 7.12.5
	「人体をモチーフとして」展		7.12.4 ~ 7.12.15
第9回高岡短期大学産業工芸学科卒業制作展	学外展： 学内展：	8.2.9 ~ 8.2.13 8.3.12 ~ 8.3.19	
八	第11回産業デザイン専攻学生作品展(NEED'96-ドライな幸せ展-)		8.4.12 ~ 8.4.19
	平成8年度常設展示		8.5.29 ~ 8.7.4
	専攻科学生作品展		8.7.8 ~ 8.7.15
	第10回漆工芸専攻学生作品展		8.10.4 ~ 8.10.9
	情報処理基礎Ⅰ総合課題作品展		8.10.7 ~ 8.10.18
	第12回木材工芸専攻学生作品展		8.10.11 ~ 8.10.16
	第12回金属工芸専攻学生作品展		8.10.18 ~ 8.10.23
	第5回工芸三機関合同展		8.11.15 ~ 8.11.19
	産業デザイン専攻デザイン技法評価展		8.11.26 ~ 8.12.3
	「人体をモチーフとして」展		8.12.2 ~ 8.12.13
	第10回高岡短期大学産業工芸学科卒業制作展・第1回高岡短期大学専攻科修了制作展	学外展： 学内展：	9.2.7 ~ 9.2.11 9.3.11 ~ 9.3.18
九	第12回産業デザイン専攻学生作品展(NEED'97-ハンドDEクリーナー展-)		9.4.11 ~ 9.4.22
	産業工芸資料収蔵品展		9.7.1 ~ 9.7.31
	「文楽の魅力」展		9.8.21 ~ 9.8.28
	第13回樹木との語らい展		9.9.24 ~ 9.9.30
	第13回金属工芸専攻学生作品展		9.10.3 ~ 9.10.8
	第11回漆工芸専攻学生作品展		9.10.16 ~ 9.10.22
	第2回専攻科(産業造形専攻)展		9.10.25 ~ 9.10.31
	第6回工芸三機関合同展		9.11.11 ~ 9.11.21
	視覚情報伝達法 評価展示		9.11.26 ~ 9.12.2
	国際共同課題作品展「5才児のための椅子展」		9.12.8 ~ 9.12.17
	第11回高岡短期大学産業工芸学科卒業制作展・第2回高岡短期大学専攻科修了制作展	学外展： 学内展：	10.2.7 ~ 10.2.11 10.3.13 ~ 10.3.20
十	第13回産業デザイン専攻学生作品展(NEED'98-温風地帯-)		10.4.11 ~ 10.4.23
	産業工芸資料収蔵品展		10.4.1 ~ 10.9.25
	第14回樹木との語らい展		10.9.29 ~ 10.10.5
	第14回金属工芸専攻学生作品展		10.10.7 ~ 10.10.13
	第12回漆工芸専攻学生作品展		10.10.7 ~ 10.10.13
	第3回三造展(産業造形専攻)		10.10.24 ~ 10.10.30
	第7回工芸三機関合同展		10.11.10 ~ 10.11.17
	視覚情報伝達法 評価展示		10.11.25 ~ 10.12.4
	中村富栄漆クラフト作品展		10.12.10 ~ 10.12.18
	第12回高岡短期大学産業工芸学科卒業制作展・第3回高岡短期大学専攻科修了制作展	学外展： 学内展：	11.2.5 ~ 11.2.9 11.3.12 ~ 11.3.19
十一	第14回産業デザイン専攻学生作品展(NEED'99-クリーンライフサポート-)		11.4.8 ~ 11.4.16
	産業工芸資料収蔵品展		11.4.21 ~ 11.6.30
	平成11年度公開講座受講者作品展		11.9.22 ~ 11.9.30
	第15回 金属工芸専攻学生作品展		11.10.6 ~ 11.10.12
	第15回 樹木との語らい展		11.10.14 ~ 11.10.20
	第13回 漆工芸専攻学生作品展		11.10.14 ~ 11.10.20
	第4回 三造展(産業造形専攻)		11.10.23 ~ 11.10.31
	産業デザイン学科学生作品展(新聞広告評価展示)		11.11.5 ~ 11.11.11
第8回 工芸三機関合同展		11.11.24 ~ 11.12.3	
産業デザイン専攻学生作品展(高岡銅器の未来を探る)-デザインリサーチ-		11.11.24 ~ 11.12.3	

年度	展 示 名 称	会 場		会 期	
				平成	平成
十一	第13回高岡短期大学産業工芸学科卒業制作展・第4回高岡短期大学専攻科 修了制作展	学外展：		12. 2. 10	～ 12. 2. 14
		学内展：		12. 3. 10	～ 12. 3. 17
十二	第15回産業デザイン専攻学生作品(NEED2000HairDrier)			12. 4. 8	～ 12. 4. 20
	平成11年度取蔵作品展			12. 7. 1	～ 12. 9. 30
	第16回 樹木との語らい展			12. 10. 11	～ 12. 10. 15
	第15回 漆工展			12. 10. 11	～ 12. 10. 15
	第16回 金工展			12. 10. 17	～ 12. 10. 22
	第5回 三造展			12. 10. 31	～ 12. 11. 5
	平成12年度公開講座受講者作品展			12. 10. 31	～ 12. 11. 5
	平成12年度「親子で体験 夢づくり・ものづくり」参加者作品展			12. 10. 31	～ 12. 11. 5
	産業デザイン学科学生作品展(高岡銅器の未来を探る)			13. 1. 22	～ 13. 2. 2
	産業デザイン学科学生作品展(新聞広告評価展示)			13. 3. 5	～ 13. 3. 19
十二	第14回高岡短期大学産業工芸学科卒業制作展・第5回高岡短期大学専攻科 修了制作展	学外展：		13. 2. 9	～ 13. 2. 13
		学内展：		13. 3. 9	～ 13. 3. 16
十三	産業デザイン学科学生作品展(CI デザイン・製品デザイン)	学外展：		13. 7. 14	～ 13. 7. 18
		学内展：		13. 7. 23	～ 13. 7. 31
	第17回 金工展			13. 10. 11	～ 13. 10. 16
	第17回 樹木との語らい展			13. 10. 18	～ 13. 10. 23
	第15回 漆工展			13. 10. 18	～ 13. 10. 23
	第6回 三造展			13. 10. 30	～ 13. 11. 4
	平成13年度公開講座受講者作品展			13. 10. 30	～ 13. 11. 4
	平成13年度「親子で体験 夢づくり・ものづくり」参加者作品展			13. 10. 30	～ 13. 11. 4
	産業デザイン学科学生作品展(Zip-Zip-Zip 寒くても T シャツ展)			13. 11. 2	～ 13. 11. 6
	高岡短期大学地域をつなぐ特別展「まちをデザインするパブリックアート」			13. 11. 7	～ 13. 11. 18
	産業デザイン学科学生作品展(高岡銅器の未来を探る)			14. 1. 21	～ 14. 2. 6
	産業デザイン学科学生作品展(新聞広告評価展示)			14. 3. 4	～ 14. 3. 28
	十三	平成13年度高岡短期大学卒業・修了制作展 (第15回高岡短期大学産業工芸学科卒業制作展・第6回高岡短期大学専攻科 修了制作展)	学外展：		14. 2. 9
学内展：				14. 3. 14	～ 14. 3. 20
十四	ふるさとみらい21高岡			14. 4. 28	～ 14. 4. 29
	産業デザイン学科学生作品展(ビジュアル基礎表現)			14. 8. 2	
	ラハティポリテクニクでの学生作品の相互交流展	シベリウスホール: ラハティポリテクニク:		14. 9. 19	～ 14. 9. 21
				14. 9. 25	～ 14. 10. 8
	第18回 樹木との語らい展			14. 10. 10	～ 14. 10. 15
	第16回 漆工展			14. 10. 10	～ 14. 10. 15
	さまのこアートインよっさ			14. 10. 19	～ 14. 10. 20
	第18回 金工展			14. 10. 17	～ 14. 10. 23
	第7回 三造展			14. 10. 29	～ 14. 11. 3
	平成14年度公開講座受講者作品展			14. 10. 29	～ 14. 11. 3
	平成14年度大学 Jr. サイエンス&ものづくり参加者作品展			14. 10. 29	～ 14. 11. 3
	高岡短期大学地域をつなぐ特別展「素材と造形」			14. 11. 15	～ 14. 11. 28
	産業デザイン学科学生作品展(CI デザイン・製品デザイン・CG 演習)			14. 12. 2	～ 14. 12. 13
	産業造形学科学生作品展(CG 入門・CG 演習)			15. 1. 20	～ 15. 2. 3
	産業デザイン学科学生作品展(デザインの進め方)			15. 1. 20	～ 15. 2. 3
	産業デザイン学科学生作品展(新聞広告評価展示)			15. 3. 1	～ 15. 4. 15
	十四	平成14年度高岡短期大学卒業・修了制作展 (第16回高岡短期大学産業工芸学科卒業制作展・第7回高岡短期大学専攻科 修了制作展)	学外展：		15. 2. 8
学内展：				15. 3. 14	～ 15. 3. 20
十五	蜷川彰教授退官記念高岡短期大学漆工芸同窓生作品展			15. 4. 12	～ 15. 4. 20
	金屋町「さまのこ」フェスタ			15. 5. 4	～ 15. 5. 5
	産業デザイン学科学生作品展(ビジュアル基礎表現)			15. 8. 1	
	第19回 金工展			15. 10. 9	～ 15. 10. 15
	第19回 樹木との語らい展			15. 10. 17	～ 15. 10. 22
	第17回 漆工展			15. 10. 17	～ 15. 10. 22
	さまのこアートインよっさ			15. 10. 18	～ 15. 10. 19
	フランスのパブリックデザイン			15. 10. 22	～ 15. 10. 28
	第8回 三造展			15. 10. 28	～ 15. 11. 3
	平成15年度公開講座受講者作品展			15. 10. 28	～ 15. 11. 2
	平成15年度大学 Jr. サイエンス&ものづくり紹介			15. 10. 28	～ 15. 11. 2
	高岡短期大学地域をつなぐ特別展「高岡とその周辺の漆工芸」			15. 11. 5	～ 15. 11. 18

年度	展 示 名 称	会 場	会 期	
			平成 平成	
平成十五	産業デザイン学科学生作品展(CI デザイン・製品デザイン・CG 演習)		15.11.20 ~ 15.11.28	
	ラハティポリテクニク学生作品の相互交流展		15.12.2 ~ 15.12.15	
	『フィンランドの現在と未来』パネル展		15.12.2 ~ 15.12.15	
	産業デザイン学科学生作品展(デザインの進め方)		16.1.19 ~ 16.2.2	
	谷口義人教授退官記念作品展		16.2.10 ~ 16.2.15	
	産業造形学科学生作品展(CG 入門・CG 演習)		16.2.13 ~ 16.2.27	
	根本曠子教授退官記念作品展・特別展示 奥出寿泉漆工技術調査記録		16.2.25 ~ 16.3.1	
	産業デザイン学科学生作品展(新聞広告評価展示)	氷見郵便局： 氷見伏木信用 金庫本店：	16.3.8 ~ 16.3.19 16.3.22 ~ 16.4.2	
	平成15年度高岡短期大学卒業・修了制作展 (第17回高岡短期大学産業工芸学科卒業制作展・第8回高岡短期大学専攻科 修了制作展)	学外展： 学内展：	16.2.7 ~ 16.2.11 16.3.13 ~ 16.3.19	
十六	楽しいノーマイカーデーの提案	高岡市役所	16.4.5 ~ 16.4.9	
	高岡短期大学 平成15年度寄贈作品展		16.4.13 ~ 16.4.19	
	金屋町「さまのこ」フェスタ		16.5.2 ~ 16.5.3	
	産業デザイン学科学生作品展(ビジュアル基礎表現)		16.8.2	
	研究成果パネル展 Part 1		16.8.2 ~ 16.8.11	
	金屋町のポストデザイン提案	金屋町公民館	16.8.7 ~ 16.8.8	
	鳥田宗吾(稔弘)作品展		16.9.14 ~ 16.10.4	
	宮崎雅司作品展		16.9.28 ~ 16.10.5	
	第20回 樹木との語らい展		16.10.6 ~ 16.10.12	
	第18回 漆工展		16.10.6 ~ 16.10.12	
	高岡景観ポスター展示	三鷹産業プラザ	16.10.9 ~ 16.10.10	
	第20回 金工展		16.10.14 ~ 16.10.20	
	さまのこアートインよっさ		16.10.16 ~ 16.10.17	
	第9回 三造展		16.10.26 ~ 16.10.31	
	平成16年度公開講座受講者作品展		16.10.26 ~ 16.10.31	
	平成16年度小中学生ものづくり体験講座紹介		16.10.26 ~ 16.10.31	
	高岡短期大学地域をつなぐ特別展「とやまの工芸と技術」	実演： 展示：	16.10.30 ~ 16.10.31 16.11.2 ~ 16.11.8	
	研究成果パネル展 Part 2		16.11.24 ~ 16.12.28	
	日本ディスプレイデザイン協会・日本サインデザイン協会・日本商業環境設 計家協会入賞作品パネル展		16.12.2 ~ 16.12.6	
	学生作品によるクリスマス・ディスプレイ		16.12.13 ~ 16.12.24	
	現代 GP「連鎖授業」高岡銅器・漆器の未来を探る！」パネル展		17.1.17 ~ 17.1.31	
	現代仏具・偲ぶ空間の調度品のデザイン展(総合工芸演習)		17.2.4 ~ 17.2.9	
	専攻科産業デザイン専攻学生作品展(グラフィックデザイン演習、総合デザイン実習 I)		17.2.28 ~ 17.3.4	
	産業デザイン学科学生作品展(新聞広告評価展示)	氷見中央郵便局： 氷見伏木信用金庫： ハートフルスケエ アーG(岐阜市)：	17.3.7 ~ 17.3.18 17.3.21 ~ 17.3.31 17.3.16 ~ 17.3.21	
	平成16年度高岡短期大学卒業・修了制作展(第18回高岡短期大学産業工芸学 科卒業制作展・第9回高岡短期大学専攻科修了制作展)	学外展： 学内展：	17.2.11 ~ 17.2.15 17.3.12 ~ 17.3.18	
	十七	金屋町「さまのこ」フェスタ		17.4.30 ~ 17.5.1
		「地場産杉を使用したインテリア・家具の提案」展 (産学連携授業による成果発表会)	氷見市海浜植物園 本学ホワイエ ウイングウイング高岡	17.6.8 ~ 17.7.4 17.7.5 ~ 17.8.5 17.8.9 ~ 17.8.21
		高岡短期大学の紹介	ウイングウイング高岡	17.6.14 ~ 17.6.26
		日本-フィンランド 響きあう心展		17.6.15 ~ 17.7.8
		産業造形学科学生作品展(家具制作)「洗心苑」のための家具制作 作品展		17.7.12 ~ 17.7.15
現代 GP「焔端談義プロジェクト」展			17.7.25 ~ 17.8.5	
ラハティポリテクニクとの学生作品相互交流展		フィンランド	17.9.9 ~ 17.9.22	
「工芸都市高岡 伝統と革新」展		高岡市美術館	17.9.16 ~ 17.10.16	
特別展「高岡短期大学展」			17.9.17 ~ 17.9.30	
第21回 金工展			17.10.6 ~ 17.10.11	
第21回 樹木との語らい展			17.10.13 ~ 17.10.18	
第19回 漆工展			17.10.13 ~ 17.10.18	
第10回 三造展			17.10.20 ~ 17.10.30	
平成17年度公開講座受講者作品展			17.10.20 ~ 17.10.30	

*平成13年度より毎年収蔵品展を実施(企画展実施中を除く)

3.5.4 テレビ公開講座

年度	講座名	主任講師	放映日時	募集人員	受講者数	スクーリング状況 ()内女性
平成五	企業経営とコンピュータ	産業情報学科 教授 木村幸信	毎週土曜日 10:30~11:00 9回放送	200人	146人	第1回 51名(7) 第2回 42名(9) 第3回 39名(8) 第4回 43名(10)
六	工芸の世界-身近な技法-	産業工芸学科 教授 麻生三郎	毎週土曜日 10:30~11:00 9回放送	200人	152人	第1回 37名(19) 第2回 24名(12) 第3回 24名(12) 第4回 19名(12)
七	英語で富山を語ろう	産業情報学科 教授 林 暢夫	毎週土曜日 9:30~10:00 9回放送	200人	218人	第1回 100名(57) 第2回 57名(38) 第3回 52名(31) 第4回 40名(24)
八	時代がみえる21・トヤマ -豊かさ, 快適さを考える-	総合基礎グループ 教授 久保脩治	毎週土曜日 10:00~10:30 9回放送	200人	234人	第1回 19名(11) 第2回 11名(6) 第3回 9名(4) 第4回 11名(5)
九	創・クリエイトの時代 -とやまの工芸とデザイン-	産業工芸学科 教授 倉田久敬	毎週金曜日 10:30~11:00 9回放送	200人	213人	第1回 27名(13) 第2回 10名(4) 第3回 15名(7)
十	インターネット交・遊・学 -富山発, わたしとまちの情報新時代-	産業情報学科 教授 木村幸信	毎週金曜日 10:30~11:00 9回放送	200人	232人	第1回 97名(52) 第2回 72名(38) 第3回 64名(26)

3.5.5 民間との共同研究

年度	企業等名	研究者	研究期間	研究題目
昭和六十一年	三協アルミニウム工業(株)	木村幸信 大楠安紀(生産管理部企画課)	61.12.22~ 62.3.31	多品種生産工場におけるストックレス生産の適用
	(株)タカギセイコー	木村幸信、久保欣五 児玉克己(コンピュータ室課長代理)	62.1.28~ 62.3.31	受注型プラスチック成形企業(金型内製)における総合的経営、生産管理システムの構築に係る調査
六十二年	三協アルミニウム工業(株)	木村幸信 大楠安紀(生産管理部企画課)	62.4.1~ 63.3.31	多品種生産工場におけるストックレス生産の適用
	(株)タカギセイコー	木村幸信、久保欣五 児玉克己(コンピュータ室課長代理)	62.4.1~ 63.3.31	受注型プラスチック成形企業(金型内製)における総合的経営、生産管理システムの構築に係る調査
六十三年	三協アルミニウム工業(株)	木村幸信 大楠安紀(生産管理部計画課)	63.4.1~ 64.3.31	多品種生産工場におけるストックレス生産の適用
平成元年	三協アルミニウム工業(株)	木村幸信 大楠安紀(生産管理部計画課)	元.10.2~ 2.3.31	総合管理システムでの「ストックレス生産」の適用
	(株)竹中製作所	木村幸信 能登和敏(システム開発室課長)	元.11.13~ 2.3.31	地場産業の間屋型企業における物流及び在庫管理システムの研究
二	三協アルミニウム工業(株)	木村幸信 森田清明(福光工場管理部企画課)	2.4.23~ 3.3.31	ストックレス生産実施のための工場生産システムの研究
	(株)竹中製作所	木村幸信 能登和敏(システム開発室課長)	2.4.23~ 3.3.31	地場産業の間屋型企業における物流及び在庫管理システムの研究
三	三協アルミニウム工業(株)	木村幸信 森田清明(福光工場管理部企画課)	3.4.15~ 4.3.31	ストックレス生産実施のための工場生産システムの研究
	神岡部品工業(株)	横田勝 原章(開発部長)	3.4.15~ 4.3.31	焼結アルミニウム合金の材料特性に関する研究
	北陸電力(株)	南塚豊、矢口忠憲、橋本晃(技術研究所電気利用技術担当)	3.12.16~ 4.3.31	インダストリアルデザインによる太陽電池の用途開発
四	三協アルミニウム工業(株)	木村幸信 麻生博(生産管理部生産管理課)	4.5.18~ 5.3.31	ストックレス生産時における原材料(形材)の管理システムの研究
	神岡部品工業(株)	横田勝 原章(開発部長)	4.5.11~ 5.3.31	焼結アルミニウム合金の材料特性に関する研究
	北陸電力(株)	南塚豊、矢口忠憲、橋本晃(技術研究所電気利用技術担当)	4.5.11~ 5.3.20	配電設備機器の工業デザイン

年度	企業等名	研究者	研究期間	研究題目
平成五	日本非破壊検査(株)	横田勝 則俊雅春(水島事業所技術2課主任)	5.5.13～ 6.3.31	振動解析の非破壊検査技術への応用
	三協アルミニウム工業(株)	木村幸信 中島要(生産管理課副主幹)	5.5.26～ 6.3.31	ビル建材における生産期間短縮へのアプローチ
六	三協アルミニウム工業(株)	木村幸信 小山春木(生産情報システム課課長)	6.5.30～ 7.3.31	ライン部門主導による新しい概念の生産管理システム導入へのアプローチ
七	三協アルミニウム工業(株)	木村幸信 能勢正尚(生産設計課主事)	7.5.18～ 8.3.31	アルミ押出金型ストックレス生産
八	高岡市	近藤潔、藤田徹也、米川覚 山本真弘(企画調整部企画課主事)	8.4.1～ 9.3.31	インターネット上での調査に基づくホームページの改良及び適切なデータベースの構築
	三協アルミニウム工業(株)	木村幸信 野村雅孝(CR推進課副主幹)	8.5.1～ 9.3.31	部品調達管理システムの研究
	(株)総合建設銀蜂	秦正徳 大倉幹順(開発担当)	8.5.15～ 9.3.31	木造住宅の合理化システム構法の開発に関する研究
九	高岡市	近藤潔、藤田徹也、米川覚 山本真弘(企画課主事)	9.4.1～ 10.3.31	簡易なイントラネットの構築及びイントラネットの可能性の検討
	(株)総合建設銀蜂	秦正徳 大倉幹順(開発担当)	9.5.15～ 10.3.31	木造住宅の合理化システム構法の開発に関する研究
	三協アルミニウム工業(株)	木村幸信 松田秀樹(購買管理部管理課主事)	9.7.22～ 10.3.31	購入品の調達管理システムの研究
十	岡本(株)	武山良三 倉富圭太郎(マーケティング部)	10.5.20～ 11.3.31	企業におけるマーケティング・コミュニケーションシステムの構築
	(株)総合建設銀蜂	秦正徳 大倉幹順(開発担当)	10.5.20～ 11.3.31	木造住宅の合理化システム構法の開発に関する研究
	三協アルミニウム工業(株)	木村幸信 上野敏一(福光工場管理課副主事)	10.8.1～ 11.3.31	生産管理に於ける情報の共有化システムの研究
十一	三協アルミニウム工業(株)	木村幸信 阪田公治(CS推進部部長)	11.10.1～ 12.3.31	SCM(サプライ・チェーン・マネジメントシステム)の研究
十二	原野製材株式会社	秦正徳 二川昭成(生産管理係長)	12.6.1～ 13.3.31	木造軸組真壁耐力壁の構造評価システム開発に関する研究
	三協アルミニウム工業(株)	木村幸信 稲垣文夫(CS推進課長)	12.10.1～ 13.3.31	CS(顧客満足)の観点からのSCM(サプライ・チェーン・マネジメント)の研究
十三	原野製材株式会社	秦正徳 二川昭成(プレカット課生産管理係長)	13.6.11～ 14.3.31	木造真壁軸組構造の構造安定システムに関する研究
十四	原野製材株式会社	秦正徳 二川昭成(プレカット課生産管理課長)	14.6.3～ 15.3.31	木造軸組真壁パネル構法による住宅の構造安定性に関する研究
	(株)北熱	野瀬正照 新名奈穂(コーディング部門開発課)	14.6.3～ 15.3.31	金型の表面処理の耐熱性及び耐磨耗性向上に関する研究
十五	(株)北熱	野瀬正照 新名奈穂(コーディング部門開発課)	15.8.28～ 16.3.31	コーティング表面粗さ低減による精密加工用金型の開発(膜の物理的性質の解明)
	原野製材株式会社	秦正徳、二川昭成(住宅資材事業本部・生産管理課長)	15.9.30～ 16.3.31	木造軸組真壁パネル構法住宅の構造安定性能に関する研究
十六	(株)北熱	野瀬正照、政 誠一(コーディング部門開発課・特命社員)	16.6.7～ 17.3.31	TiAlN/h-BN膜およびTiAlN/DLC膜の精密加工用金型への適用
	原野製材株式会社	秦 正徳、二川昭成(住宅資材事業本部・製造部課生産管理課)	16.5.17～ 17.3.31	高性能高壁倍率プレカット工法パネルの研究開発
十七	ウッドリンク株式会社	秦 正徳、二川昭成(住宅資材事業部製造部生産管理課長)	17.7.15～ 18.3.31	木造住宅用軸組真壁パネル構面の高壁倍率化に関する研究

3.5.6 研究員等の派遣(後期)

3.5.6.1 文部省・文部科学省在外研究員

1. 文部科学省在外研究員・短期

年度	氏名	派遣期間	派遣先	研究題目
平成五	中村 滝雄	5.8.20～5.11.20	ドイツ：工芸美術博物館 他	金属造型における加工法及び表面処理に関する研究
六	横田 勝	6.7.10～6.9.26	ドイツ：エッセン大学 他	粉末冶金法による新素材の開発に関する研究
七	磯部 祐子	7.8.20～7.11.20	中華人民共和国： 中国社会科学院 他	中国戯曲理論の研究
八	村上 恭子	8.8.9～8.11.9	アメリカ合衆国： コーネル大学 他	ポストモダニズム文化におけるマスメディアの諸問題
九	小林 和子	9.8.1～9.12.20	連合王国：レディング大学応用言語学研究所 他	英語の地域的・社会的変種の教授方法に関する研究
十	山田 眞一	11.3.25～11.8.25	中国：中国社会科学院言語研究所	現代標準中国語の社会言語学的研究
十一	野瀬 正照	12.3.7～12.9.2	アメリカ合衆国： ノースウエスタン大学 他	材料表面の微細構造とナノインデンテーションに関する研究
十二	吉田 俊六	12.7.2～12.12.27	アメリカ合衆国：カリフォルニア大学サンディエゴ校 他	マーケティング・リサーチの理論および分析技術に関する研究
十三	近藤 潔	13.4.20～13.9.30	アメリカ合衆国： ノースウエスタン大学	工芸教育におけるコンピュータの応用
十五	丸谷 芳正	15.9.12～15.12.13	連合王国： バッキンガムシャー・チルトーン大学	ウィンザーチェアーに関する研究

2. 文部科学省在外研究員・若手

年度	氏名	派遣期間	派遣先	研究題目
七	田中比呂志	8.2.26～8.12.25	中華人民共和国： 南京大学歴史研究所 他	近代中国における地方エリート
九	藤田 徹也	9.5.12～10.2.28	アメリカ合衆国： ノースウエスタン大学	材料系工学教育におけるデジタル映像処理技術の応用
十一	内藤 裕孝	11.8.21～12.6.23	スウェーデン：カール・マルムステン美術工芸学校	スウェーデンにおけるバリアフリーデザインに関する調査研究
十五	今淵 純子	15.8.1～16.7.31	フィンランド： ラハティ・ポリテクニク	英国における美術・工芸教育ならびにパブリック・アートに関わる動向調査

○文部科学省在外研究員・海外研究開発動向調査

年度	氏名	派遣期間	派遣先	研究題目
七	野瀬 正照	8.3.3～8.5.31	アメリカ合衆国： カリフォルニア工科大学 他	非平衡物質作製技術による新素材の開発と応用に関する研究
八	小松 研治	8.10.4～8.11.29	スウェーデン： カペラ・ゴーデン美術工芸学校	スウェーデンにおける美術工芸と工業との融合についての実態調査研究
九	小松 裕子	10.3.1～10.4.29	カナダ：ローランタン大学	地域社会における情報技術の導入と支援の在り方に関する研究
十	武山 良三	11.2.1～11.3.27	連合王国： ロイヤルカレッジオブアート 他	パブリックスペースにおける統合的情報環境のデザインに関する研究
十一	三船 温尚	12.2.13～12.4.2	中国：中国社会科学院考古研究所	中国古代青銅器の鑄造技法に関する研究開発動向の調査
十二	伊東多佳子	13.2.14～13.4.11	連合王国：ロンドン大学スレイド・スクールオブファインアート	環境美学・環境芸術に関する研究開発動向の調査
十三	矢口 忠憲	14.2.13～14.4.3	フィンランド共和国： ラハティポリテクニク	ユニバーサルデザインの研究
十四	齊藤 晴之	15.2.10～15.3.10	アメリカ合衆国：アートスチューデントリージョブオブニューヨーク	現代美術とクラフトデザインの関連性と工芸素材に係る立体表現
十五	伊東多佳子	16.3.25～16.5.21	連合王国：セントラル・イングランド大学 バーミンガム・インスティテュート・アート・アンド・デザイン	英国における美術・工芸教育ならびにパブリックアートに関わる動向調査

3.5.6.2 文部省・内地研究員

文部省内地研究員派遣実績一覧

年度	所属(学科)	職名	氏名	研究期間(月)	受入機関	研究題目
平成六	産業情報	教授	石井 榮一	6.10.1～ 6.12.31(3)	早稲田大学大学院教育学研究科	日本商業教育の成立期に関する研究
七	産業工芸	助教授	三船 温尚	7.8.1～ 7.10.31(3)	東京芸術大学美術学部鑄金研究室	鑄金における造型および技法の研究
十一	産業情報	講師	上東 正和	11.8.1～ 11.9.30(2)	愛知学院大学商学部藤田研究室	社会理論を援用した管理会計論の理論的、実証的研究

3.5.7 科学研究費補助金(後期)※研究代表者が本学教員のみを掲載

年度	研究種目	審査領域	研究課題	所属(学科等)	研究代表者	研究分担者	期間(年)	配分額(千円)
平成五	1 一般研究(C)	中国語・中国文学	中国験譜考	産業情報	磯部 祐子		1	900
六	1 一般研究(C)	材料加工・処理	機械振動の伝達関数解析による焼結材料の材料特性評価	産業工芸	横田 勝		2	1,800
	2 一般研究(C)(時限付)	文化財科学	漆に及ぼす微量金属成分の影響に関する研究	産業工芸	蜷川 彰		2	1,600
七	1 一般研究(C)(萌芽)	科学教育・教科教育学	教科用語に関する日中両言語の比較研究－理科を中心に－	産業情報	山田 眞一		1	1,500
九	1 基盤研究(C)(一般)	構造・機能材料	結晶粒度調整による装飾性アルミニウム系および銅系合金の光学的・材料学的研究	総合基礎	野瀬 正照	横田 勝	4	3,500
	2 基盤研究(B)(一般)	考古学	古代東アジアにおける青銅鏡の鑄造技法の変遷	産業工芸	三船 温尚		4	5,900
	3 基盤研究(C)(一般)	文学一般	中国煙粉小説の受容に見る情愛観の比較研究	産業情報	磯部 祐子		3	2,600
十	1 基盤研究(B)(展開)	材料加工・処理	新しい窒・酸化物薄膜による金属の表面改質とその分光学的評価に関する研究	総合基礎	野瀬 正照	横田 勝、中村滝雄、長柄毅一、佐治重興、前 健彦	4	10,700
	2 萌芽的研究	教育工学	地域情報化における社会的支援の調査研究－富山県山田村を題材に－	産業情報	小松 裕子		3	1,800
十一	1 萌芽的研究	美学(含芸術諸学)	環境美学研究－ロマン主義にもとづくあたらしい自然哲学の企て	総合基礎	伊東多佳子		3	2,200
	2 基盤研究(C)(一般)	中国語・中国語文学	中国語話者の理解語彙と使用語彙に関する研究	産業情報	山田 眞一		3	2,300
十二	1 基盤研究(B)(一般)	文化財科学	古代青銅器の熱処理を中心とした材料科学的研究	産業造形	横田 勝	菅谷文則、小堀孝之、野瀬正照、三船温尚、清水克明、清水康二	3	13,000
	2 萌芽的研究	考古学	古代青銅鏡の割れ方に関する基礎研究	産業造形	三船 温尚	横田 勝、菅谷文則、小堀孝之、宮原晋一、清水克明	3	2,100
十三	1 基盤研究(B)(展開)	材料加工・処理	PCPS法による複雑形状焼結体の新しいニアネットシェイプ加工法に関する研究	産業造形	横田 勝	野瀬正照、長柄毅一、大寺克昌	3	10,900
	2 一般研究(C)(一般)	科学教育・教科教育学	情報弱者への社会的支援に基づいた地域情報化の調査研究	地域ビジネス	小松 裕子		3	3,200
	3 特定領域(A)	東アジア出版	中国における才子佳人小説の出版と朝鮮・越南・日本への影響	地域ビジネス	磯部 祐子		2	4,700

年度	研究種目	審査領域	研究課題	所属(学科等)	研究代表者	研究分担者	期間(年)	配分額(千円)	
平成十三	4	基盤研究(C)(一般)	材料加工・処理	低摩擦・高硬度セラミック材の作製とそれによる金属の表面改質に関する研究	産業造形	野瀬 正照	横田 勝、野城 清、富田正吾	2	4,000
十五	1	基盤研究(B)(一般)	文化財科学	古代青銅器の熱処理と土中腐食を中心とした材料科学的研究	産業造形	横田 勝	菅谷文則、三船温尚、官原晋一、清水康二、野瀬正照、小堀孝之、清水克朗	4	16,400
	2	基盤研究(C)(一般)	美術・美術史	自然・風景・環境一環境芸術を手がかりにした環境美学の構築	産業造形	伊東多佳子		3	3,700
	3	特定領域	東アジア出版	中国における才子佳人小説の出版と朝鮮・越南・日本への影響	地域ビジネス	磯部 祐子		2	3,400
	4	萌芽研究	科学教育	特殊技能工芸職人の連携による循環型発想支援システムの調査研究	産業造形	小松 研治	内藤裕孝	3	2,500
十六	1	基盤研究(C)(一般)	科学社会学・科学技術史	伝統的鍛冶製品、種子鍔の製作工程・技術および材料工学的研究	産業造形	中村 滝雄	横田 勝、今淵純子	2	3,000
十七	1	基盤研究(B)(一般)	材料加工・処理	ナノコンポジット複合機能膜の形成機構解明とそれを応用した金属加工の新しい展開	産業造形	野瀬 正照	横田 勝、野城 清、池野 進、本保栄治	3	15,200
	2	基盤研究(C)(一般)	各国文学・文学論	中国民間演劇の再興一浙江省を中心として一	地域ビジネス	磯部 祐子		4	3,400
	3	萌芽的研究	文化財科学	近世の大仏鑄造技法に関する研究	産業造形	小堀 孝之	戸津圭之介、横田 勝、武笠朗、清水克朗、三船温尚、野瀬正照	3	3,500

3.5.8 奨学寄附金受入状況一覧(後期)

(金額は千円単位)

年度	寄 附 者	受 入 額	寄 附 目 的
平成五	財富山県高等教育振興財団	200	産業工芸学科教授 蛭川 彰 「アジアの漆」国際会議に出席のため
	神岡部品工業株	100	産業工芸学科教授 横田教授の粉末冶金研究に対する助成
	財富山第一銀行奨学財団	250	漆の機能性に関する研究に対する助成
	財富山第一銀行奨学財団	250	内発的発展に関する高岡市地域経済の分析に対する助成
	財富山県高等教育振興財団	300	石井榮一 環境変動下における地場産業～漆器産業を対象として～の研究に対する助成
	北陸電力(株)技術研究所	300	産業工芸学科南塚教授・矢口講師に対する研究助成 「太陽光発電システムのデザイン研究」
	財富山県高等教育振興財団	100	公開講座の開催その他教育研究に対する助成
	学校法人富山県自動車学園	300	高岡短期大学の学術研究に対する助成
	財富山県高等教育振興財団	200	高岡短期大学の学術研究に対する助成
	財福武学術文化振興財団	800	産業工芸学科三船助教授の古代中国の青銅器文化における鑄造技法の独自性の研究に対する助成
	合 計	2,800	
六	財富山第一銀行奨学財団	500	北陸の伝統産業と地域経済
	財富山第一銀行奨学財団	250	日・中・韓三国における子供観の比較考察
	財富山第一銀行奨学財団	250	マルチメディアによる中国語学習に関する実践的研究
	山天東リ(株)	500	産業工芸学科蛭川 彰教授の教育研究に対する助成
	(韓国文化研究振興財団)	1,000	産業情報学科磯部祐子助教授の「朝鮮半島における中国戯曲の受容と展開」の研究に対する助成
	合 計	2,500	
七	財富山第一銀行奨学財団	500	散居村の家屋と生活文化の研究
	財富山第一銀行奨学財団	250	ドライプロセスの金属工芸への応用に関する調査研究
	財富山第一銀行奨学財団	250	近代期における富山と中国
	財富山県高等教育振興財団	300	小林和子 東南アジア・中国における英語及び中国語の使用状況に関する調査
	株GA 開発研究所	350	産業工芸学科泰助教授の教育研究に対する助成
	漆を科学する会	100	産業工芸学科蛭川彰教授の教育研究に対する助成
	財富山県高等教育振興財団	100	高岡短期大学の開放事業その他教育研究に対する助成

年度	寄 附 者	受 入 額	寄 附 目 的
平成八	合 計	1,850	
	財富山第一銀行奨学財団	500	木造軸組住宅の耐震性能向上に関する研究
	財富山第一銀行奨学財団	500	WWW システム上での JAVA 言語に関する調査・研究
	財富山県高等教育振興財団	200	山田眞一 産業情報学科山田眞一助教授の海外派遣に対する助成
	財富山県高等教育振興財団	75	産業情報学科山田眞一助教授に対する研究助成
	日本電気(株)	700	産業情報学科久保欣五教授の EC に関するセキュリティ等の基礎研究に対する助成
	財富山県高等教育振興財団	300	久湊尚子 総合基礎グループ久湊尚子助手の研究助成
	財富山県高等教育振興財団	200	高岡短期大学の開放事業その他教育研究に対する助成(特別講演会)
	財高岡短期大学協力会	600	高岡短期大学に対する国際交流助成のため
	(株)アピラススポーツクラブ	200	総合基礎グループ立浪助教授及び久湊助手の教育研究に対する助成
合 計	3,275		
九	財富山第一銀行奨学財団	500	金属工芸品の表面着色とその色彩・光特性に関する工学的研究
	財富山第一銀行奨学財団	500	富山県における外国人研修生の文化適応に関する研究
	財富山県高等教育振興財団	500	高岡短期大学の開放事業その他教育研究に対する助成(特別講演会)
	財富山県高等教育振興財団	300	野瀬正照 鋳造用 Cu-Al 合金の結晶粒制御とその金属工芸への応用のための基礎的研究
	財富山県高等教育振興財団	200	矢口忠憲 産業工芸学科矢口忠憲講師の海外派遣に対する助成
	財高岡短期大学協力会	600	高岡短期大学に対する国際交流助成のため
	(株)アピラススポーツクラブ	200	総合基礎グループ立浪助教授及び久湊助手の教育研究に対する助成
	日本電気(株)	700	産業情報学科久保欣五教授の EC に関するセキュリティ等の基礎研究に対する助成
	合 計	3,500	
十	財富山第一銀行奨学財団	500	新しい金属窒化物薄膜の作製とその応用に関する研究
	財富山第一銀行奨学財団	500	2000年富山国体優勝を目指す競泳選手のレース分析
	財富山県高等教育振興財団	300	小松研治 北欧と日本における工芸品制作の社会文化的背景の比較
	財富山県高等教育振興財団	200	谷口義人 産業工芸学科谷口義人教授の海外派遣に対する助成
	財富山県高等教育振興財団	360	産業工芸学科谷口義人教授の教育研究に対する助成
	大阪証券取引所	550	蠟山昌一学長の教育研究その他に要する経費を賄い奨励する
	旭プレス工業(株)	50	産業工芸学科横田勝教授の教育研究に対する助成
	乾庄貴金属化工(株)	100	産業工芸学科横田勝教授の教育研究に対する助成
	財富山県高等教育振興財団	300	高岡短期大学の開放事業その他教育研究に対する助成(特別講演会)
	財富山県高等教育振興財団	200	産業情報学科吉田俊六教授の教育研究助成
	大阪証券取引所	550	高岡短期大学の教育研究活動に対する助成
	財ホソカワ粉体工学振興財団	700	産業工芸学科 横田勝教授の「パルス通電加圧焼結による新しい粉末固化成形法と新素材の開発」
	(株)アピラススポーツクラブ	200	総合基礎グループ立浪助教授及び久湊助手の教育研究に対する助成
	財高岡短期大学協力会	405	高岡短期大学に対する国際交流助成のため
合 計	4,915		
十一	株式会社シーデーエル	1,000	産業工芸学科武山助教授の教育・研究のため
	ファーストバンク青雲会	200	高岡短期大学の教育研究に対する助成
	(株)ジェック経営コンサルタント	500	産業情報学科木村教授への奨学寄附
	財富山第一銀行奨学財団	350	総合基礎グループ安達博文助教授の研究助成 研究題目: テンペラ画技法を主体とした人物表現及び画面の防衛について
	財富山第一銀行奨学財団	350	産業工芸学科三船温尚助教授の研究助成 研究題目: 古代鋳造技法の応用による無鉛青銅器の研究
	財富山第一銀行奨学財団	300	産業工芸学科武山良三助教授の研究助成 研究題目: まちづくり景観エレメントのデザインに関する研究
	財富山県高等教育振興財団	350	入江識元 産業情報学科入江識元講師に対する研究助成
	大阪証券取引所	550	高岡短期大学の教育研究活動に対する助成
	野瀬正照	100	野瀬助教授の教育・研究に対する助成
	財富山県高等教育振興財団	120	産業情報学科小松裕子講師の教育・研究に対する助成
	財富山県高等教育振興財団	200	久湊尚子 総合基礎グループ久湊尚子助手の海外派遣に対する助成
	財富山県高等教育振興財団	150	総合基礎グループ久湊尚子助手の教育・研究に対する助成
	アルスホーム株式会社	150	総合基礎グループ秦正徳教授の研究に対する助成
	原野製材株式会社	150	総合基礎グループ秦正徳教授の研究に対する助成
	財富山県高等教育振興財団	300	高岡短期大学の開放事業その他教育研究に対する助成
	財富山県高等教育振興財団	200	吉田俊六教授の教育研究助成
	内島正雄	1,000	林曉助教授の研究に対する助成
	大阪証券取引所	550	高岡短期大学の教育研究活動に対する助成
	財高岡短期大学協力会	600	高岡短期大学に対する国際交流助成のため

年度	寄 附 者	受 入 額	寄 附 目 的
平成十一	(社)富山県建設業協会	300	高岡短期大学の教育研究に対する助成
	株アピアスポーツクラブ	200	立浪助教授の研究に対する助成
	合 計	7,620	
十二	財富山第一銀行奨学財団	700	産業造形学科中村滝雄教授の研究助成 研究題目「種子島鉄における鍛冶技法の調査」
	財富山第一銀行奨学財団	300	産業造形学科伊東多佳子講師の研究助成 研究題目「環境美学研究」
	財富山第一銀行奨学財団	500	地域ビジネス学科磯部祐子助教授の研究助成 研究題目「外国人研修生、実習生の受入れ事業の現状と問題点」
	(TKD 研究会研究)	1,700	武山良三助教授の研究に対する助成
	財富山県高等教育振興財団	200	野瀬正照助教授の研究に対する助成
	財富山県高等教育振興財団	340	清水克朗講師の研究に対する助成
	株北日本新聞社	100	高岡短期大学の教育研究活動に対する助成
	富山県化学工業会	50	高岡短期大学の教育研究活動に対する助成
	富山企業懇話会	100	高岡短期大学の教育研究活動に対する助成
	大阪証券取引所	550	高岡短期大学の教育研究活動に対する助成
	財富山県高等教育振興財団	300	高岡短期大学の開放事業その他教育研究に対する助成
	JTB 日本交通公社 高岡支店	150	沖和宏講師の研究に対する助成
	財富山県高等教育振興財団	50	今淵純子助手の研究に対する助成
	株アピアスポーツクラブ	200	立浪勝教授の研究に対する助成
	大阪証券取引所	550	高岡短期大学の教育研究活動に対する助成
	財高岡短期大学協力会	600	高岡短期大学に対する国際交流助成のため
	合 計	6,390	
十三	大阪証券取引所	1,875	高岡短期大学の教育研究活動に対する助成
	吉田俊六	400	地域ビジネス学科吉田俊六教授の研究に対する助成
	財富山第一銀行奨学財団	900	産業造形学科横田勝教授の研究助成 研究題目「普通科高等学校における美術・工芸教育の現状と動向調査」
	財富山第一銀行奨学財団	600	地域ビジネス学科山田眞一教授の研究助成 研究題目「異文化間コミュニケーション教育における映像利用に関する研究」
	芙蓉会	200	高岡短期大学の教育研究活動に対する助成
	(TKD 研究会研究)	300	武山良三助教授の研究に対する助成
	小堀 孝之	200	産業造形学科小堀孝之教授の研究に対する助成
	財富山県高等教育振興財団	300	三船温尚助教授の研究に対する助成
	財富山県高等教育振興財団	200	産業造形学科小堀孝之教授の研究に対する助成
	財富山県高等教育振興財団	200	高岡短期大学の開放事業その他教育研究に対する助成
	米田俊之建築設計事務所	400	秦正徳教授の研究に対する助成
	株アピアスポーツクラブ	150	立浪勝教授の研究に対する助成
	財ホソカワ粉体工学振興財団	700	産業造形学科野瀬正照教授の研究に対する助成
財富山県高等教育振興財団	600	高岡短期大学の教育研究活動に対する助成	
合 計	7,025		
十四	矢口忠憲	225	産業デザイン学科矢口忠憲助教授の研究に対する助成
	財富山第一銀行奨学財団	1,000	産業造形学科小堀孝之教授への研究助成 研究題目「普通科高等学校における美術・工芸教育の現状と動向調査」
	財富山第一銀行奨学財団	500	保健管理センター宮元芽久美講師への研究助成 研究題目「小セミナー形式を取り入れた大学生の健康教育の取り組み」
	(加越能鉄道・駅前再開発)	550	武山良三助教授の研究に対する助成
	財北陸産業活性化センター	2,500	産業造形学科野瀬正照教授への研究助成 研究題目「アルミ・マグネシウムダイカスト用金型の高性能化に関する研究」
	米田俊之建築設計事務所	200	秦正徳教授の研究に対する助成
	株ヒラキストア	120	高岡短期大学の教育研究に対する助成事業
	財富山県高等教育振興財団	230	産業造形学科今淵純子助手の研究に対する助成
	財富山県高等教育振興財団	355	高岡短期大学の開放事業その他教育研究に対する助成
	株ニコンデジタルテクノズ	800	半導体産業機器分野の需要動向の統計的分析に関する研究 地域ビジネス学科助教授小柳津英知
	高岡短期大学校友会	100	高岡短期大学の就職指導に関する助成
	財富山県高等教育振興財団	600	高岡短期大学の教育研究活動に対する助成
	財福武学術文化振興財団	1,000	三船温尚教授の研究に対する助成
	株アピアスポーツクラブ	150	立浪勝教授の研究に対する助成
合 計	8,330		
十五	株北熱	500	産業造形学科野瀬正照教授の研究助成
	株ジェック経営コンサルタント	500	吉田俊六教授への研究助成

年度	寄 附 者	受 入 額	寄 附 目 的
平成十五	(財富山第一銀行奨学財団)	1,500	産業造形学科小堀孝之教授への研究助成研究題目「高等学校における美術・工芸教育の現状と動向調査」
	(財富山第一銀行奨学財団)	500	地域ビジネス学科磯部祐子教授への研究助成研究題目「中国語・日本語に於ける同形異義語の研究」
	(財富山県高等教育振興財団)	500	高岡短期大学の教育研究活動に対する助成
	(財富山県高等教育振興財団)	1,000	高岡短期大学の教育研究活動に対する助成
	(財富山県高等教育振興財団)	450	産業造形学科堀江秀夫教授への研究助成研究題目「住宅解体材の工芸材料としての適性評価に関する研究」
	(財富山県高等教育振興財団)	390	高岡短期大学の教育研究活動に対する助成
	(財北陸産業活性化センター)	2,500	産業造形学科野瀬正照教授の研究に対する助成
	(京都市・山本文二郎漆科学研究)	400	橋本千毅助手の研究に対する助成
	高岡短期大学校友会	150	高岡短期大学の就職指導に関する助成
	(株)アピラスポーツクラブ	150	立浪勝教授の研究に対する助成
	北陸電機製造(株)	300	産業デザイン学科矢口忠憲助教授の研究に対する助成
	合 計	8,840	
十六	石油資源開発株式会社	1,000	村田聡助教授の学術研究助成
	(財富山県高等教育振興財団)	1,500	高岡短期大学大学開放センターの事業に対する助成
	(財富山第一銀行奨学財団)	350	産業造形学科 村田聡助教授への研究助成 研究題目 漆の乾燥に関する研究
	(財富山第一銀行奨学財団)	300	産業造形学科 河原 雅典講師への研究助成 研究題目 富山県の人力運搬具の人間工学的研究
	(財富山第一銀行奨学財団)	350	地域ビジネス学科 山田真一教授他1名への研究助成 研究題目 漆工芸に関する日中対訳用語集作成のための研究
	(財富山第一銀行奨学財団)	200	地域ビジネス学科 コビー クリストファー助教授他5名への研究助成 研究題目 新大学芸術文化学部における「イングリッシュ・コミュニケーション中級」テキストの制作と富山県内の外国人観光者サポート事業への展開研究
	(財富山第一銀行奨学財団)	300	地域ビジネス学科 王大鵬助教授への研究助成 研究題目 中国における日系企業の現地調達に関する研究
	(財富山県高等教育振興財団)	500	ウエスタンオレゴン大学への短期語学研修事業に対する助成
	(財富山県高等教育振興財団)	500	大連外国語学院への短期語学研修事業に対する助成
	UROJI「ザッカ カフェ知生庵棚担当」 小田敏明	3.95	インキュベーション教育事業に関する助成
	(財富山県高等教育振興財団)	220	産業造形学科 丸谷芳正教授への研究助成 研究題目 高齢者福祉施設における椅子(車椅子)による姿勢保持の現状調査
	UROJI「高岡市役所アンケートBOX 担当」 熊谷弘毅	7.2	インキュベーション教育事業に関する助成
	(財富山県高等教育振興財団)	500	大学開放センターの開放事業(特別公開講演会)に対する助成
	(財富山県高等教育振興財団)	260	産業デザイン学科 沖和宏講師への研究助成 研究題目 商店街活性化とデザイン系実習教育の相互充実を図った地域との協働授業開発
	高岡短期大学校友会	100	高岡短期大学の就職指導に関する助成
	(財富山県高等教育振興財団)	2,600	戦略的キャンパス・アイデンティティ推進事業に対する助成
	(財ホソカワ粉体工学振興財団)	800	産業造形学科 野瀬正照教授の研究に対する助成
	UROJI「創己祭担当」 小田敏明	3.025	インキュベーション教育事業に対する助成
	メタルエンジニアリング	60	産業造形学科 野瀬正照教授の研究に対する助成
	北陸電機製造(株)	300	産業デザイン学科矢口忠憲助教授の研究に対する助成
	産業デザイン学科 武山良三	500	武山良三教授の研究に対する助成
	(財富山県高等教育振興財団)	400	教材用工芸品等購入事業に対する助成
	アピラスポーツクラブ	150	立浪 勝教授の研究に対する助成
	(財富山県高等教育振興財団)	109,379	芸術文化学部立ち上げ・発展に対する奨学助成
合 計	120,283.175		
十七	定塚小学校 PTA	10	渡辺雅志講師の研究に対する助成
	銅及び銅合金技術研究会	300	産業造形学科 野瀬正照教授への研究助成 研究題目 青銅の表面改質による高濃度錫合金層の生成メカニズム解明と銅器産業への応用展開に関する研究助成
	特定非営利活動法人建設環境情報センター	200	産業デザイン学科 武山良三教授への研究助成 研究題目 都市景観の研究に対する助成
	(財富山第一銀行奨学財団)	390	産業造形学科 野瀬正照教授への研究助成 研究題目 セラミックスと金属を複合化した装飾用保護膜の研究
	(財富山第一銀行奨学財団)	365	産業造形学科 今淵純子助手への研究助成 研究題目 大学の工芸教育に関する調査研究および資料収集

年度	寄 附 者	受 入 額	寄 附 目 的
平成十七	財富山第一銀行奨学財団	445	産業デザイン学科 安達博文教授への研究助成 研究題目 絵画制作における基底材と地塗り (under ground), 下塗り (under painting) 効果についての研究及び研究製作品の発表
	財富山第一銀行奨学財団	300	保健管理センター 宮元芽久美講師への研究助成 研究題目 大学生の血清脂質値と生活習慣との関連についての研究
	高岡短期大学 産業デザイン学科 講師 西島治樹	21.5	産業デザイン学科 西島治樹講師への研究作品の展示・発表に対する助成
	財富山県高等教育振興財団	350	産業デザイン学科 玉井泰子助手への研究助成 研究題目 日本モダニズム建築における技法と意匠に関する研究
	財富山県高等教育振興財団	500	産業造形学科 横田 勝教授への研究助成 研究題目 高錫青銅の熱処理と新しい表面処理技術の開発による鉛レス青銅の実用化と銅器産業の活性化
	合 計		2,881.5

3.5.9 年表(後期)

平成二	3.30 高岡短期大学紀要創刊号を発行する。
三	7.5 富山県工業技術センター、高岡市工芸デザイン指導所との工芸三機関合同展を開催する。(平成11年度まで原則毎年開催)
五	10.2 放送(テレビ)公開講座「企業経営とコンピュータ」を開講する。(～11.27)
六	7.18 米長邦雄氏(前将棋名人)による特別公開講演会「運を育てる」を実施する。/10.1 放送(テレビ)公開講座「工芸の世界-身近な技法-」を開講する。(～11.26)
七	2.10 学内情報ネットワークシステム TNC-NET(Takaoka National College NETWORK)が稼働する。/2.24 SINET 加入機関(富山県立大学)への IP 接続を開始する。/10.7 放送(テレビ)公開講座「英語で富山を語ろう」を開講する。(～12.2)
八	10.5 放送(テレビ)公開講座「時代がみえる21・トヤマ-豊かさ、快適さを考える-」を開講する。(～11.30)/10.28 立花隆氏(評論家・東京大学客員教授)による特別公開講演会「インターネットは社会を変えるか」を実施する。/11.19 大連外国語学院との友好協力関係に関する協定書を締結する。/大連 短期語学研修事業に関する覚書を締結する。/大連 短期語学研修事業に関する覚書を締結する。/12.25 インターネットでホームページを開設し学内情報の発信を開始する
九	1.27 産業工芸資料収集第2次5ヶ年計画を策定する。/7.1 SINET 加入機関(富山県立大学)から金沢大学ノード校に変更する。/7.29 アジア環境国際フォーラムの文化交流ワークショップを開催する。/7.29 アジア環境国際フォーラムの文化交流ワークショップを開催する。/8.28 吉田箕助氏(文楽人形遣い・人間国宝)による特別公開講演会「女を表現する」を実施する。/10.3 放送(テレビ)公開講座「創・クリエイトの時代-とやまの工芸とデザイン-」を開講する。(～11.28)/11.5 ラハティ・ポリテクニクとの友好協力関係に関する協定書を締結する。/11.27 過去の公開講座受講生に対し「高岡短期大学開放センターに関するアンケート」調査を実施する。
十	6.26 ラハティポリテクニクデザイン学部学生作品展を開催する。(～7.2)/本学にてラハティ・ポリテクニク学生の作品展開催する。(～7.2)/9.17 ラハティ・ポリテクニク 学生の交流に関する覚書を締結する。/10.5 中村美佐保氏より中村富栄作品の寄贈を受ける。/10.19 小沢昭巳氏(童話「とべないホテル」作者)による特別公開講演会「現代若者気質-若者にみる生きるとは-」を実施する。/10.28 クラフトデザインフォーラムを開催する。/12.10 米中村桂子氏(JT 生命誌研究館副館長)による特別公開講演会「21世紀を生きる知恵-生きものとしての人間40億年の生命の歴史から-」を実施する。
十一	2. 「高岡短期大学開放センターの課題と展望」を発行する。/3.15 工芸品等の展示企画に関する懇談会を開催する。/9.22 公開講座受講者作品展を開催する。(～30)(以降毎年開催)/10.31 親子で体験夢づくりものづくり「パソコンでオリジナル T シャツを作ろう」を実施する。/12.10 米中村桂子氏(JT 生命誌研究館副館長)による特別公開講演会「21世紀を生きる知恵-生きものとしての人間40億年の生命の歴史から-」を実施する。
十二	7.25 短期大学開放センターに資料収集展示専門委員会を設置する。/7.28 親子で体験夢づくりものづくり「蠟型鑄造でオリジナルグッズ制作」を実施する。(7.29、8.4・5)/9.25 大連 短期語学研修事業に関する覚書の一部変更(学科名等)する。/9.30 2000国際経済フォーラム高岡ワークショップ「人を繋ぎ、都市を編む」を開催する。/11.16 山崎正和氏(劇作家・評論家・東亜大学長)による特別公開講演会「情報化時代の大学」を実施する。
十三	7.31 紀要第16巻から従来の研究論文等に加えて地域に向けた情報等を掲載する。(現在に至る)/8.3 親子で体験夢づくりものづくり「親子で野鳥観察と巣箱づくり」を実施する。(～5)/10.30 フィンランド デュオコンサートを開催する。/11.7 第1回地域を繋ぐ特別展「まちをデザインするパブリックアート」を開催する。(～18)

平成十四	<p>1.30 ラハティ・ポリテクニク 学生の交流に関する覚書の一部変更(受入学生数)する。/2.7 産業工芸資料収集第3次5ヶ年計画を策定する。/3.1 学内情報ネットワークシステム TNC-NET をギガビットネットワークシステムに更新する。/3.18 大田弘子氏(政策研究大学院大学教授)による特別公開講演会「日本経済のゆくえ」を実施する。/3.29 教育用電子計算機を更新する。/4.15 公開授業「ライフスタイル-ライフスタイルと価値観の研究-」を開講する。(～6.3)/7.1 高等学校生徒を対象とした高岡短期大学の授業公開に関する高岡短期大学と富山県立となみ野高等学校との協定書を締結する。(～平成16年3月末日まで有効)/9.18 ラハティ・ポリテクニク 教員の交流に関する覚書を締結する。/9.25 ラハティ・ポリテクニク 学生作品の相互交流展に関する覚書を締結する。/ラハティ・ポリテクニクにて本学学生の作品展開催する。(～10.8)/10.4 大学 Jr.サイエンス&ものづくり「シンプルなものづくり silver ring & silver spoon」を実施する。(～5)/10.8 公開授業「金属工芸史」を開講する。(～H15.1.28)/11.15 第2回地域を繋ぐ特別展「素材と造形」を開催する。(～28)/12.3 大原謙一郎氏(大原美術館理事長・倉敷商工会議所会頭)による特別公開講演会「地方の視点で『文化の世紀』を考える」を実施する。</p>
十五	<p>3.5 地域貢献について富山県、高岡市と協議する「富山コラボレーション」推進連絡会議を開催する。/ウエスタンオレゴン大学との友好協力関係に関する協定書を締結する。/ウエスタンオレゴン大学 教職員の交流に関する覚書を締結する。/ウエスタンオレゴン大学 短期語学研修事業に関する覚書を締結する。/3.28 高等学校生徒を対象とした高岡短期大学の授業公開に関する高岡短期大学と富山県立小杉高等学校との協定書を締結する。(～平成16年3月末日まで有効)/4.14 公開授業「ライフスタイル」を開講する。(～5.26)/5.24 富山県立小杉高等学校生徒を対象とした公開講座「圧迫鍛造による銀の指輪作り」を開講する。(～6.14)/8.1 SINET ノード校を金沢大学から富山大学に変更する。/8.2 大学 Jr.サイエンス&ものづくり「粘土で動いている人物を作ろう」を実施する。(～3)/大学 Jr.サイエンス&ものづくり「粘土で動いている人物を作ろう」を実施する。(～3)/8.23 大学 Jr.サイエンス&ものづくり「こまと竹とんぼを作ろう」を実施する。(～24)/10.1 創業を目指す学生(卒業生)を支援するインキュベーション教育事業を開始する。/10.7 公開授業「金属工芸史」を開講する。(～H16.2.3)/10.24 山口昌伴氏(GK デザイン機構・道具学研究所長)による特別公開講演会「和風ものづくりの21世紀展望」を実施する。/12.2 本学にてラハティ・ポリテクニク学生の作品展開催する。(～12.15)</p>
十六	<p>4.1 独法化を期に短期大学開放センターを大学開放センターに名称変更し、同センターの事業に国際交流及び知的財産の取り扱いを加える。/GLOVIA 会計情報システム Campus 及び物品請求システムが稼働する。/4.7 平成15年度寄贈作品展を開催する。/4.9 公開授業(前期:105科目、後期:85科目)を開講する。(～H17.2.3)/4.15 大学開放センターに職務発明専門委員会を設置する。/4.23 高等学校生徒を対象とした高岡短期大学の授業公開に関する高岡短期大学と富山県立小杉高等学校との協定書を締結する。(～平成17年3月末日まで、ただし、申し出がない限り毎年延長)/4.24 ラハティ・ポリテクニク 学生作品の相互交流展に関する覚書の一部変更(期間)する。/5.20 エントランスホールの愛称を TSUMAMA-HALL に決定する。/5.29 富山県立小杉高等学校生徒を対象とした公開講座「圧迫鍛造による銀の指輪作り」を開講する。(～6.26)/6.12 富山県立小杉高等学校生徒を対象とした公開講座「中国語とその背景研究」を開講する。(～7.31)/7.13 民間等の研究者を受け入れる受託研究員制度を制定する。/8.19 小中学生ものづくり講座「青銅のキーホルダーをつくろう-蠟型鍛造の体験-」を実施する。(8.19-20、8.23-24)/高岡市立看護専門学校生を対象とした公開講座「情報処理」を開講する。(～8.27)/10.19 坂東三津五郎氏(歌舞伎俳優)による特別公開講演会「江戸文化の華 歌舞伎における粋と意匠」を実施する。/12.14 富山県立富山北部高等学校生徒を対象とした公開講座「デザイン」を開講する。(～H17.1.19)</p>
十七	<p>4.11 公開授業(前期:106科目、後期:82科目)を開講する。(～H18.2.3)/5.28 富山県立小杉高等学校生徒を対象とした公開講座「圧迫鍛造による銀の指輪作り」を開講する。(～6.25)/6.10 国立大学法人新富山大学芸術文化学部創設記念東京シンポジウム「日本の未来と、地方・芸術文化・教育」-文化と自然の融合で-を開催/7.11 富山県立富山北部高等学校生徒を対象とした公開講座「デザイン」を開講する。(～H17.7.15)/8.8 小中学生ものづくり講座「金属をとかしてみがいて新発見」を実施する。(8.8、8.9)/9.30 国立大学法人新富山大学芸術文化学部創設記念フォーラム「世界が目する日本の芸術文化」を開催。</p>